

Monozukuri Arakawa City Cluster

と光る荒川区の
モノづくり企業の



51 社

01

オンリーワンの伝統技法で エテナ(錫合金)製品を世界に提供

株式会社アートランド

TEL.03-3806-8846 FAX.03-3806-6436
URL <http://www.artland-co.jp>

代表者: 代表取締役社長 林文雄
所在地: 〒116-0014 荒川区東日暮里2-7-1
資本金: 3,600万円
従業員: 8人

創業年: 明治25年
業種: 金属製品製造業
事業内容: アンチモニー及び錫製品の製造・販売



林文雄
代表取締役社長

工芸品の宝島 アートランドの社名に想いを込めた事業展開

創業は明治25年。喫煙具の製造・販売が起点。有限会社化した昭和34年頃からトロフィーやカップ、メダルの製作を始める。昭和52年に株式会社林製作所に組織変更し、現社長の林文雄氏が3代目の代表取締役に就任。創業100周年を迎えた平成5年に、現在の「アートランド」に社名を変更してからは、金属工芸品の専門メーカーをより鮮明にした経営を推進している。

なかでも、平成16年に希少金属の錫(すず)を素材にした製品の開発に着手した後は、錫器を主体とした製品群を次々と世に出し、現在はトロフィー、カップ、メダルなど記章品に次ぐ、事業の柱として育っている。

実用的で格調高い錫製品が可能な「エテナ」

アートランドが取り扱う錫合金は、林氏が理事長を務める東京アンチモニー工芸協同組合(加盟28社)と(地独)東京都立産業技術研究センターが共同開発した錫合金の新素材「エテナ」である。錫100%より強度があるうえ、銀に近い光沢がある。錫は、古来より水を浄化する作用があるとして親しまれており、食器、インテリア小物やアクセサリー小物、装飾工芸品に適した素材といわれている。

この「エテナ」を素材に、アートランドが製作する錫器は、300年の歴史がある京錫、浪速錫、薩摩錫などの錫器の製法と異なり、金型を使って一つ一つ職人が鑄造する「金型手鑄造成形法」という日本独自の伝統技法を取り入れているのが大きな特徴である。

この素材と製法によって、錫器の鏡面仕上げと、鏡面に対しきれいな凸模様を鮮明に表現することに成功し、完成した錫器は銀製品のような輝きを放つ製品づくりを可能にしている。この製法は、平成27年6月に経済産業大臣から「伝統的工芸品」に指定され、錫製品を展開する際の中核技術ともなっており、新たな技法を伝承する職人の養成にも力を入れているところだ。

当社の錫製品は、『鑄造→加工→研磨』とい工程をたどり、端材や失敗作も“ゆ”の中に入れば再び原料となるSDG's商品であり、環境問題に一役買っている。

回主な認証・実績等

- 2015年度東京ビジネスデザインアワード「テーマ賞受賞」
- 商品登録:「綾」第5585794号
- 商品登録:「升次郎」第5941486号

伝統技法を集約した画期的新製品「綾」®と「升次郎」®

平成23年にMACCプロジェクトに参加し、コーディネータの支援を得たことで、エテナの特性を生かした製品開発が加速した。タンブラーやぐい呑み、皿、箸置きなどのテーブルウェア分野をはじめ、手元供養品分野にも進出。

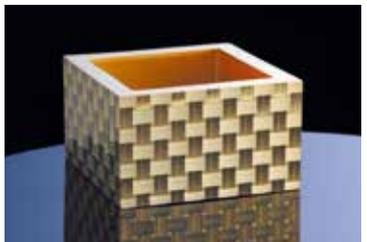
自社オリジナルの手元供養「綾」シリーズは、「大切な人をいつも身近で供養したい」という想いを実現し、時代を反映した商品として注目されている。

さらに、エテナ製品が東京ビジネスデザインアワードで「テーマ賞」を受賞したのを契機に、平成29年に有名デザイナーとコラボし、金属製では初の鏡面仕上げ酒器「升次郎」(ますじろう)を商品化し、販売を開始した。

「升次郎」は、技術的に難しい中空構造を実現し、側面に日本的模様を施した升。“益々繁盛の升”として、売り上げを伸ばしており、実用性を兼ね備えた画期的なテーブルウェアとして「経営革新につながる戦略商品」(林社長)と位置づけ、製品展開と拡販体制の再構築を図っている。

これらのオリジナル商品は、自社のWebや大手通販サイトを活用したネット販売を軸に、都内百貨店での販売や関連する展示会への出展など、販路拡大にも積極的だ。

令和4年には、同人作家とのコラボでタンブラーを製作し、8月に開催されたコミックマーケット「夏コミ」に出展した。令和6年以降は、再び海外への輸出にも力を入れていく。



長寿企業が伝統技術を先鋭化し、 新たな製品戦略を展開



創業130年余の業歴を刻む長寿企業である。熟練職人が、真鍮型を用いて、熱した材料を冷やしながら絶妙のタイミングで鑄造する伝統的工芸技法が特色。

昭和時代の中頃からトロフィー、カップ、メダルなど記章品分野で存在感を示してきたが、15年位前より錫という素材に注目し、環境対応型の錫合金「エテナ」を独自の技法で成形・加工するという自社製品の開発を積極的に進め、事業展開に弾みをつけている。

02

業務厨房機器一筋に90年、高い技術力と社内変革でサステナブル企業をめざす



秋元ステンレス工業株式会社

秋元ステンレス工業株式会社

TEL.03-3894-6091 FAX. 03-3894-7744
URL <http://www.a-s-k.co.jp>

代表者：代表取締役社長 秋元 晶晴
所在地：〒116-0011 荒川区西尾久7-58-13
資本金：1000万円
従業員：23人

創業年：昭和5年
業種：厨房機器製造販売
事業内容：総合ステンレス厨房機器、各種販売促進用品などの設計、製作、施工



秋元 晶晴
代表取締役社長

顧客の厚い信頼ある技術力をベースに、ブランディングの確立

創業は昭和5年で、祖父 秋元鏝太郎が三河島で飲食店向け道具類の製造を開始した。以来、90年間、業務用の厨房機器製造販売一筋に邁進し、その道を究める。今日、取引先各方面から厚い信頼が寄せられ、多くの顧客を獲得。顧客の一例として、急成長を遂げたステーキチェーン店、餃子をはじめとする中華料理の全国チェーン、焼鳥居酒屋チェーン店、および有名ホテル等がある。秋元ステンレス工業製の各種厨房機器は、全国各地の飲食店・施設に幅広く導入され、弊社は外食産業に欠かせない企業となっている。

鉄板空気断熱ガス遠赤（溶岩石）焼物器、特注中華レンジ、万能ロースター、炭用の焼き鳥器 / 魚焼き器 / うなぎ焼き器をはじめ、多種多様な調理機器が各飲食店の厨房でご愛顧いただいている。この環境と地道な成長により、製品の信頼性と幅広い顧客層から「知る人ぞ知る」企業となり、ブランディングを確立できたと自負している。

このブランディング確立から、大手厨房機器メーカーからのOEM（相手先ブランド）、飲食店に対しての新製品の需要が拡大している。

納入後の修理、メンテナンスビジネスを総合的に考慮するとOEMビジネスをメインに据え、更にメインOEMメーカーのシェアアップ、新たなOEMメーカーの獲得、海外展開、およびユーザーニーズに基づいた用途開発による新製品の上市など、マーケティングを強化し、ビジネス拡大に邁進していく予定である。



有力製品 高さ調節ができる焼物器

5S活動から全員参加のカイゼン活動への進化、働き方改革とダイバーシティ経営の推進

弊社は令和2年初めに新本社工場に移転し、それに伴い5S活動を推進した結果、整理整頓が行き届いた働きやすい職場環境のなかで、ものづくりが効率的に行われている。今では5S活動の優良企業、モデル工場として紹介されるまでになっている。今後、5S活動から全員参加のカイゼン活動に進化させ、社員の健康と安全に取り組み、更に働き甲斐のある企業にしていく。

また、働き方改革は経営理念に基づき労使間のコミュニケーションを強化する。ダイバーシティ経営はプロジェクト化し、経営戦略への組み込み、推進体制の構築、コーポレートガバナンスの改革、全社的な環境・ルールの整備、人財マネジメント改革、社員の行動変革を経て、CSR活動など社外に情報を開示する。

令和5年は創業から93年目となり、7年後の令和12年に創業100年になる。サステナブルな100年企業を目指し、ステーキホルダーである顧客と社員満足第一に日々努力を続けていく。

また、働き方改革は経営理念に基づき労使間のコミュニケーションを強化する。ダイバーシティ経営はプロジェクト化し、経営戦略への組み込み、推進体制の構築、コーポレートガバナンスの改革、全社的な環境・ルールの整備、人財マネジメント改革、社員の行動変革を経て、CSR活動など社外に情報を開示する。

令和5年は創業から93年目となり、7年後の令和12年に創業100年になる。サステナブルな100年企業を目指し、ステーキホルダーである顧客と社員満足第一に日々努力を続けていく。



5Sの徹底された機械設備フロア



5Sの徹底された部品在庫フロア

高い技術力と製品の信頼性

厨房機器製造一筋93年の実績と技術力の蓄積が一番の財産である。依頼されたものは何でも作れる技術力、誇り、優秀な製造社員、および最新の生産設備と顧客からの高い信頼性により「間口」が広がっている。

また「何事も継続は力なり」が大事であるとの考えと色々な基礎基本を根付かせることが、技術と人の質の向上、ひいては売上・利益目標達成には近道であると確信している。

④主な保有設備

- ・レーザー ・シャーリング ・コーナーシャー
- ・アイアンワーカー ・メタルソー ・ベンダー
- ・テーブルスポット ・スポット溶接機
- ・ターレットパンチプレス ・溶接機



旭工業株式会社

TEL.03-3893-3029 FAX.03-3810-2393
URL <https://www.a-ratek.com/>



橋本 明秀
代表取締役

代表者：代表取締役 橋本 明秀
所在地：〒116-0011 荒川区西尾久7-58-5
資本金：1,000万円
従業員：65人
創業年：昭和2年
業種：金属加工業
事業内容：ステンレス精密板金

幅広い事業でシビアな品質要求に応える

昭和2年、「橋本工業所」として創業してから、90年程の社歴を刻む。当初は油圧プレス機的设计や絞り加工を手がけ、日本初の自動車用フェンダープレス絞りを完成して名を上げた。戦後間もなく現在の「旭工業」に衣替えして以来、精密板金加工・パイプ加工・プレス加工・組立・型加工など領域を広げて事業拡大を推進し続けている。特にステンレスの板金・溶接加工が得意で、精密板金加工・表面処理を一括受注して低コスト化を実現する。

ユーザーは、医療機器、半導体関連装置、液晶露光装置、印刷機器、環境機器、制御盤などを扱う品質要求がシビアな先端産業が主体である。

工場は「本社工場」のほか、岩手県花巻市に「花巻工場」、埼玉県上尾市に「上尾工場」を持ち、各工場をwebでネットワーク化し、トータル的な生産管理を行うシステムを確立している。

筋肉質な会社を目指す

経営革新を進める3代目社長で、若手経営者や後継者によるあすめし会（明日の飯の種を作る会の意）メンバーでもある橋本明秀氏は、景気の変動が大きくても利益を出し続けられる「筋肉質な会社」への転換を図っている。そのために、ムダを省き事業をスリム化するのは当然として、顧客の更なる獲得により安定した収益を獲得することを目指している。現在、抱える顧客は約40社程度であるが、今後は100社を目指して、強みである営業力を武器に、社長自ら新規顧客開拓を進めていく。

RATEK

●商品概要と特徴

歩行補助具のコンセプトから、車軸、ブレーキ機構、杖丈調整機構を自社開発し生産性、耐久性、安全性、利便性を高めた商品である。

●開発の経緯

同社は、MACC製品として認定されている「フェレット」の製造を板垣製作所から受け継いだが、生産性、耐久性、安全性、利便性の面で量産に向かなかった。そこで、上記課題をクリアする商品として新規開発を行った。今年度から積極的に展示会等に出店し、上期30台程度の販売実績がある。新規開発部分は、接地面に対して傾斜を設けた車軸構造（八の字）とスイング機構で走破性を高めた。また、利用者の身長に合わせた杖丈の調整機構で利便性を高めている。さらに、後輪ブレーキ機構を再設計（特許出願済み）してより安全な商品となっている。他に、絵柄をプリントすることで顧客ニーズに広く答えることができる商品ラインアップを実現している。生産は海外での生産体制を確立し、より安価な提供価格を実現した。



攻めの提案型営業

当社は営業力を武器に成長を続けている。今の時代、顧客からの技術情報をそのまま製品化するだけでは商売にならない。当社は保有する固有技術やITを活用した業務管理に裏打ちされた、攻めの提案型営業で差別化を図っている。企業の成長に欠かせない新規顧客を獲得する際にも、社長自ら見込み客のもとへ出向き、当社の特徴を踏まえた“印象に残るプレゼンテーション”を行うことで信頼を獲得し、実受注につなげている。

また、200社を超す協力企業のネットワークを活用して、金属加工に関わる仕事であれば連携して依頼を成し遂げる体制を築いていることも強みである。



04

客が感動するプラスチック製品を提供する ベストパートナー

旭モールディング株式会社

TEL.03-5855-3560 FAX.03-5855-3630
URL <https://www.asahimolding.com/>

代表者：代表取締役 福田 晴通
所在地：〒116-0012 荒川区東尾久5-2-1
資本金：3,200万円
従業員：24人(パート・アルバイト含む)

創業年：大正10年
業種：プラスチック製品製造業
事業内容：プラスチック製品の設計・射出成型・加工・組立、
積層成形ブロックL-cube®の製造・販売



福田 晴通
代表取締役

一歩先を行く「射出成形のパイオニア」

大正10年の創業時より、小間物(頭飾品)や婦人ボタンを製造販売してきたが、プラスチック産業が黎明期にあった昭和25年に米国製の射出成形機をいち早く導入して、プラスチック成形事業に進出。以来、今日まで70年余、射出成形専業に徹し、熱可塑性樹脂製品のパイオニアの道を歩む。

プラスチック産業が成長した昭和時代には、東京都足立区と茨城県猿島郡に生産拠点を設け、顧客の多様な仕様に応える独自の製品づくりの体制を整え、信頼を獲得し、業容を拡大した。現在までに、精密測定器、医療機器、自動車、アミューズメント関連分野で顧客層を広げてきた。

状況に応じた生産効率を推進し顧客ニーズに対応

平成14年に現・代表取締役の福田晴通氏が3代目として経営を引き継ぎ、「開発・設計→試作品製作→金型製作→射出成形(量産)→印刷→組立→検査→出荷」という2次加工までの一貫生産体制の構築をはじめ、経営革新に取り組んできた。しかし、昨今の中小企業の製造業を取り巻く環境は非常に厳しく、市場の変化、人口減少による人手不足、加えて新型コロナウイルス感染症の感染拡大やロシアによるウクライナ侵攻、パレスチナ問題等により海外からの材料・部品の調達遅延や価格高騰なども相まって、プラスチック業界も深刻な状況にある。

このような状況に対応するため、令和4年には本格的に「DXによる工場の改革」に着手した。また、事業承継も視野に入れ、令和6年からは後継者(現工場長の仲氏)を中心とする工場内の組織改革を図り、業務負担の軽減や働きやすい現場の推進などに少しずつ取り組んでいるところだ。



射出成形のエキスパート集団として顧客の付加価値を創造する提案型ビジネスを展開

現代表取締役と工場長(後継者)の二人三脚で、グローバルな視点で常に技術革新にチャレンジし、品質にこだわり、受注生産と自社製品の2本の柱でビジネスを展開する。

更なる顧客ニーズに応えるため、新たな射出成形機の導入と生産管理システムの整備、製造現場の自動化、IoTやITを活用した現場の見える化、品質管理体制強化、生産ロスの削減等により生産効率の向上を推進し、全社一丸となって品質・納期・コスト面を強化し、顧客満足度向上を推進している。

業界待望の「樹脂製肉厚板」に脚光

平成24年にMA C Cプロジェクトに参画し、会員企業との産産連携や大学との産学連携を推進して、初の自社製品「積層成形ブロックL-cube®」を開発した。平成25年度「ものづくり補助金」の採択により開発を始め、平成27年には東京都に経営革新計画の承認を受けた。

本製品は、量産予定の樹脂材料で作る切削用ブロック。開発当時、プラスチック業界から、「業界の救世主、待ち望んでいた画期的製品」と注目を集めた。今では、本製品から切削することで金型製作前に正しいスペック評価ができるという利便性が浸透し、様々な分野から引き合いがあり、順調に売り上げを伸ばしている。また、本製品のバリエーション化も継続して推進し、順次自社HP等で発表している。

令和5年には、念願のPEEK(結晶性で難密着性のスーパーエンプラ)のブロック化に成功。その他、CFRTP、PA6T、PA9Tなどの新たに開発したブロックも順調に売上を伸ばしている。令和6年1月現在のブロック化実績は下記の通り。

積層成形ブロック実績		スーパーエンプラ		汎用エンプラ		汎用樹脂	
溶着実証済み完成品です。TPI		PEEK	PLA	PBAT	植物由来の生分解性樹脂		
PPA	PES	PEI	PAI	PAR	PSU	PPSU	その他
PTFE	PA6T	LCP(1)	LCP(2)	PA9T	PEN	PI	CFRTP
PA12T	PA46	PPS	SPS	PA6	GF-PET	PDVF	
AAS	PC	M-PPE	COC	PC-ABS	PA66	PET	PBT
PPO	COP	PPO	COP	PVA	TPA	TPVC	ASA
ASA	ABS	HIPS	PP	HDPE	LLDPE	TPO	CA
PMP	MDPE	VLDPE	TPE	CN	LDPE	EVOH	CPE
EEA	PVDC	TPEE	TPS	AS	AES	PS(GPPS)	
RB	PVC	TPF	TPU	SAS	IO	PMMA	
非結晶性				結晶性			

◎主な保有設備

射出成形機(13台)、取出しロボット(13台)、3D-CAD、協働ロボット(1台)、画像寸法測定機、シルク印刷機、クリーンルーム、アニールボックス、各種検査設備

◎主な認証・実績等(積層成形ブロックL-cube®)

- 第4回 荒川区新製品・新技術大賞 最優秀賞受賞
- 特許：樹脂成形品の製造方法及び樹脂成形品の製造装置(特許第6259505号)
- 商標：積層成形ブロックL-cube®(登録第6121722号)

株式会社東製作所

TEL.048-225-0281 FAX.048-224-7526
 URL <http://www.s-azuma.co.jp/index.htm>

代表者：代表取締役 中田 裕康
 所在地：〒116-0011 荒川区西尾久2-13-10
 資本金：1,000万円
 従業員：8人
 工場：埼玉県川口市領家3-20-14(川口工場)

創業年：昭和35年(法人化 昭和38年)
 業種：金属加工業
 事業内容：各種精密板金加工、レーザー加工、
 NCターレットパンチ加工、
 NCベンダー加工、各種溶接、旋盤

精密板金加工の地位を固める

昭和35年5月に、現社長の父「中田満氏」が個人企業として、荒川区に電気照明器具製作及びその他一般金属製品プレス加工・板金業としてスタート。3年後の昭和38年に法人化し、大手電機メーカーや通信機器メーカーの部品製作を手がける。

昭和51年に川口工場を立ち上げ、昭和57年当時では稀有の炭酸ガスアマダレーザーマシンを率先導入し、高品質製品加工への体勢を整えた。



本社兼ショールーム 外観

昭和58年7月レーザーマシンに興味をもたれた(旧)富士ゼロックス(株)((現)富士フィルムビジネスイノベーション(株))からの受注に成功し、試作部品の加工を主として短納期・高精度のニーズに応える。

さらに精度を高めるため、「三次元座標測定器」を導入。また、理想科学工業株式会社との取引にも成功し、精密板金加工の地位を固めるべく邁進中である。

お客様に満足していただける製品づくりを目指す

溶接や検査といった工程を自社内で対応、三次元測定機を活用した品質管理まで全て一貫したワンストップの生産体制をとっている。自社独自のQC工程管理表に基づいて作業を行うため、徹底した品質管理・材料の削減が可能となっている。

試作部品の製作には、蓄積された経験・独自のノウハウを持つため、様々な「モノづくり」に対応して「お客様に満足していただける製品づくり」を目指している。

自社内で対応できない注文にも、他社との連携を駆使し、短納期・高品質の製品の提供が可能となっている。

コストダウンや技術的な提案をサポート

顧客から出された図面に対して、ただ見積もるのではなく、長年培ってきたモノづくりのノウハウを生かして、コストダウン(曲げ、絞り等)が出来るなどの提案や、量産に向けての提案(VA(価値分析),VE(価値工学)の提案)力強化で品質の安定、加工の効率化が得られ顧客満足度をあげている。

また、若手社員を対象に様々な技術系の研修やセミナー等に積極的に参加させて、「モノづくりのノウハウと楽しさ」を身につける様な取り組みも積極的に行っている。

三次元測定機を駆使して、顧客に安心して提供出来る様に検査データを納品時に品物と一緒に添付している。それにより品質にも今迄以上に責任を持って顧客の要望に応えるべく、日々努力をしている。

脱下請け

試作部品の製作を主に手がけてきたが、近年「3Dプリンター」を使った自社での試作やベトナム・台湾などで試作作成をする企業が増えてきていることもあり、試作の需要が伸び悩んでいる。

待っているだけの今の体勢では立ち行かなくなる。試作で培ってきた技術を駆使し、自社製品を作り「オリジナルブランド」を立ち上げるのが急務と中田社長は考える。



三次元測定機
 XYZAX SVF NEX 6/5/3-X1
 X 600 Y 500 Z 300 迄測定可能

炭酸ガスレーザー加工機
 ML13XF形 CO2 レーザー発振器、
 定格出力 1,300W

サーボベンダー加工機
 長さ 2,000迄曲げ可能。

ワイヤーカットでは無くレーザー加工機での切断



普段、ワイヤーカット等で抜く様な板厚が薄い材料に関しては、レーザー加工機で切断する事が出来る為、スピードも早くコストダウンにも繋がりが尚且つ板厚 0.05mm からの対応が可能であり、短納期にも当然対応可能。

特に板厚が薄い物は、レーザー切断後平面が歪みますが、その歪みも今迄の経験と技術で最小限に抑えられる。

又、ブランク加工だけではなく当然曲げ加工も可能。

蓄積された経験、独自のノウハウにより、高度な精密加工技術を有し、短納期・高品質の製品作りを目指して邁進中。

回 主な保有設備

- 三次元測定機
- レーザー加工機 2台
- NCターレットパンチプレス 1台
- NCベンダー 5台
- キッカープレス 3台
- タッピング 3台
- 溶接機 5台
- CAD/CAM 3台
- コーナーシャーリング、プレス機、シャーリング、NC旋盤、平面研磨盤
- ボール盤、卓上ボール盤、カシメ機

回 主な認証・実績等

- エコアクション21 2007年4月

株式会社荒川樹脂

TEL.03-3892-5721 FAX.03-3892-5713
URL <http://www.arakawajushi.co.jp/>

代表者：代表取締役社長 小菅 恵美子
所在地：〒116-0002 荒川区荒川5-39-2
資本金：5,000万円
従業員：170人

創業年：昭和26年
業種：医療用プラスチック製品製造業
事業内容：プラスチック製医療検査器材、
半導体関連容器



小菅 恵美子
代表取締役社長

ニーズへ対応した攻めの事業展開

投薬瓶や酒瓶のコルク栓加工業として創業後、臨床検査用シャーレのプラスチック製への素材転換で成果を挙げ、医療用製品分野に本格参入した。

今日の業態は先代の齋藤森作氏が昭和57年に33歳の若さで社長就任以降、医療分野重点の事業展開を図り、ユーザーニーズに応える技術開発に注力して、製品群を開拓、伸張させた。また、クリーンルームでの生産開始を機にシリコンウエハー搬送容器などの半導体関連分野へも進出した。

現在の製品構成は、注射器等医療機器関係33%、医療用検査器材48%、半導体関係ほか19%であり、素材の大半は汎用樹脂だが、製品は清浄環境のもとで生産された超精密なものが求められている。



工場外観



滅菌装置

「ユーザー・オンリーワン」をめざせ

「顧客の要望を満たし、顧客に信頼される製品を提供することにより当社の持続的な発展と社会的な貢献を達成する。」これが当社の経営理念である。「モノづくりの原点は、信頼される製品の供給責任を果たすことにあり、これが果たせない企業は退場せざるを得ない。」という確固たる信念が根底にある。品質・コスト面での強みに加え、納期を厳守することを徹底し、更には顧客・市場の将来の需要を見越した先行投資を行うなど、ユーザーのニーズを探りかつ十二分に応えることで信頼を得られるモノづくりを目指している。



成形機



製品群

要求レベルの高い品質管理や生産技術革新に応える



当社の特徴は、①プラスチック製品の最先端分野を切り開いてきたノウハウの積み上げ及び未開発な高度技術へ挑戦する開発力、②差別化の中核となるクリーンルームや微生物管理区域内での成形・組立加工・検査・包装に加え、EOガス滅菌処理も自社対応可能とするハード及びソフトの一貫生産システム、③妥協を許さない品質管理システム、④成形段階を考慮した迅速な金型製作・試作、社内金型メンテナンス力などである。

取引先の大半を上場企業が占めるため品質管理や生産技術革新への要求レベルは高く、ユーザーのニーズに応えることで技術力を向上させている。また、製品の80%が共同開発特許の取得や得意先からの特許独占使用権の付与によるものであり、結果として得た知財戦略も企業の成長に大きな役割を果たしている。

◎主な保有設備

- 工場（茨城工場S52～、本社工場建替えS62～、つくば工場H6～、つくば新工場H17～、茨城工場リニューアルH22、つくば第二工場H28、つくば第三工場R3）
- 射出成形機41台（50～350t）
- 周辺機器各種（自動取出・検査・整列機、自動包装機、クリーンロッカーなど）
- クリーンベンチ・三次元測定器・自動検査機・インキュベーター・EOガス滅菌装置（2台）
- 金型関連設備（NC放電加工機、NCフライス盤）
- 金型洗浄装置

◎主な認証・実績等

- 昭和32年 容器、キャップ等の樹脂成形に移行
- 昭和43年 医療用器材等の生産開始
- 平成2年 クリーンルームでの生産開始
- 平成11年 ISO9002：1994 認証取得
- 平成14年 ISO9001：2000へ移行
- 平成22年 ISO9001：2008へ移行
- 平成23年 ISO13485：2003 認証取得
- 平成23年 茨城県より医療機器製造業の許可取得
- 平成29年 ISO9001：2015へ移行
- 平成30年 ISO13485：2016へ移行
- 令和4年 ISO15378：2017 認証取得
- 令和5年 ISCC PLUS 認証取得

07

オンリーワンのモノづくりを目指す！ 金網とパンチングメタルのパイオニア

IKK 石川金網株式会社

TEL.03-3807-9761 FAX.03-3807-9764
URL <https://www.ishikawa-kanaami.com>



石川 幸男
代表取締役社長

代表者：代表取締役社長 石川 幸男
所在地：〒116-0002 荒川区荒川5-2-6
資本金：3,000万円
従業員：30人

創業年：大正11年
業種：金属製品加工業
事業内容：各種金属フィルター・パンチングメタル
の製造販売、織金網の製造販売、他

先駆けとなる製品展開を加速

創業96年の現在まで一貫した金網専門メーカーで、現代表取締役社長の石川幸男氏は3代目。「顧客第一主義」を経営方針に掲げ、顧客ニーズに沿った製品提供に徹し、品質・価格・納期を重視した事業を推進している。

現在の主力は産業分野の製品。貴金属や合金などの素材を加工した金網製品は自動車などの部品として使われ、液体・固体・気体を問わず不純物を取り除く工業用フィルターは工作機械、化学機械装置などの必要不可欠な部品となっている。建築分野にも注力し、デザインを施した金属メッシュの芸術品といわれるデザインパンチングパネル「パーフォアート」を戦略商品に、チタン金属線で織り込まれた「黒チタン金網」などが需要を広げている。このほか、医療分野の製品開発など新市場の開拓を並行させ、現在の製品構成は、工業用60%、建築用・その他40%の割合。

多品種・少量生産体制を確立

本社のある荒川区に工場を持ち、新鋭設備による大量生産はもとより、多様な顧客ニーズに応える「多品種・少量生産」体制を敷く。工場には、職人技から生まれた自社開発の装置や治工具が多く備えられ、他社にはない効率的な生産システムを確立している。これらハードの充実と、培った製造ノウハウを背景に、顧客のパートナーとして研究開発や試作の段階から製品づくりを進めていく点に大きな特徴がある。また、平成23年にはイタリアの有力金網メーカーのガウデンツィ社と相互業務提携を締結し、グローバルな事業展開を強化している。

画期的な新製品開発で話題を集める！

当社が扱う金網には、貴金属、レアメタル、合金などの金属製やプラスチック製などの種類がある。それらの材質を曲げ・折り・絞りなど自由自在に成形し、織物のように平織・綾織など様々な織り方をすると金網加工技術



「おりあみ/ORIAMI」

を得意にしている。これらの蓄積した技術を製品づくりの基本にしつつ、時代の変化に即した最先端テクノロジーとして進化させていくフレキシビリティが持ち味でもある。

平成26年、金属でありながらしなやかな折り紙に代替できる金属折り紙「おりあみ/ORIAMI」の開発に成功。伝統文

化に切り込んだ“世界初”の新製品として大きな反響を呼び、台東・荒川・足立・墨田・葛飾区で構成する「第10回TASKものづくり大賞」の大賞を受賞。平成27年から本格販売し、新たな事業の柱に育てる方針だ。



「おりあみ/ORIAMI」の作品例

新分野を切り開く創造型企業へ

今後さらに、「事業展開のネットワークを“網の目”ように広げて技術を磨き、一つずつ新たな需要を掘り起こして、ブランドイメージを確立したい」（石川幸男社長）とし、5S活動に参画して、全社ぐるみで経営の活性化にも取り組み、「様々なテーマに挑戦し、新分野を切り開いていく創造型企業を目指す」姿を描いている。

先進的技術を蓄積し、 多様な顧客ニーズに対応



金網とパンチング（打抜き）メタルのパイオニアとして「石川金網にしかできないモノづくり」を基本に据え、多品種・少量生産体制を整えて、多様化する顧客ニーズに対応する。先進的な独自技術を蓄積し、民生用、産業用、建設用の各分野で先駆けとなる金網製品を提供しつつ、産学連携を含むネットワークを広げて新技術・新製品開発を積極的に展開するのも特徴。さらに、材質・織り方・加工法を変えた最先端テクノロジー分野の製品開発にも力を入れ、創造型のオンリーワン企業へ邁進中。

◎主な保有設備

金網手織り機、金網用スリッター、金網用自動裁断機、パワープレス、金網溶接機など

◎主な認証・実績等

- ・ISO9001：2008認証取得
- ・エコアクション21認証取得
- ・平成26年度「がんばる中小企業、小規模企業者300社」認定
- ・東京ビジネスデザインアワードのテーマ賞・優秀賞受賞
- ・経済産業省「MORE THAN プロジェクト」に採択
- ・「第10回TASKものづくり大賞」の大賞受賞

Oh Strong! オリエンタルエンジニアリング株式会社

TEL.03-3802-4311 FAX.03-3803-4614
URL <http://www.oriental-eg.co.jp/>



小崎 一雄
代表取締役社長

代表者：代表取締役社長 小崎 一雄
所在地：〒116-0013 荒川区西日暮里2-25-1-902
資本金：8,000万円
従業員：160人
創業年：昭和27年
業種：金属熱処理関連製造販売業
事業内容：金属熱処理設備の製造販売、
金属熱処理の受託加工

大企業・国際企業と肩を並べる事業展開

業界のパイオニアとして技術開発を進めることを社是としており、他社よりも一歩、二歩先を行く新製品・新技術の開発に力を入れ、「業界初」を多く生み出しながら成長してきた。



熱処理事業一筋であり、自動車部品など各種産業の熱処理加工を行うほか、熱処理を行う設備（熱処理炉）の製造・販売を行っている。扱う設備は、用途に合わせた多品種・多サイズの標準設備を揃えており、セミ 高性能ガス浸炭炉 N-BBH オーダーやフルオーダーにも対応しながら世界中で使用されている。社会的評価も高く、平成 19 年には経済産業省・



第17回型技術協会賞
技術賞を受賞

中小企業庁から「元気なモノ作り 300 社」にも選定されるなど、これまでに受けた表彰は枚挙にいとまがない。規模の面では中小企業だが、事業展開の実体は大企業や国際企業に勝るとも劣らない。

世界的企業として更に成長していく

今後は、更なる海外展開と、低炭素社会の実現により一層対応していく構えだ。

古くから海外展開に注力しており、現在は、20 カ国以上への輸出に加え、中国・マレーシアに合弁会社を持つ。特に中国では非常に知名度が高く、平成 22 年末には合弁会社が熱処理企業としては初めて中国で上場した。海外展開で飛び抜けた成功を納めており、新たな国への合弁会社設立も含めて更なる海外展開



川越工場外観



検査の様子

を推進していく。

また、更なる省エネ・高品質な設備の開発を進め、業界に先駆けて低炭素社会への対応をリードしていく構えであり、平成 29 年 5 月 26 日に竣工した川越第二工場（ハイテックセンター）で自社製最新鋭表面改質装置による受託処理加工を開始した。



研究開発力と技術相談力で差別化

なによりも、「研究開発力」と「技術相談力」が当社の強みであり、創業当初から、他社と差別化を図り、新しい技術の開発に一貫して取り組み、経験豊富な技術者が、お客様のニーズに合わせたサポートを通じて、お客様とともに最後まで付加価値創出を目指している。これまでに、滴注式（てきちゅうしき）の浸炭炉やプラズマ CVD 法による成膜、真空浸炭炉やガス軟窒化炉の雰囲気制御など、業界をリードする新製品や新技術を世に多く送り出しており、滴注式の熱処理では大企業に打ち勝ち国内シェアの 90% 以上を占めている。

回主な保有設備

- ・真空浸炭炉・高性能ガス浸炭炉・真空炉
- ・ガス浸炭窒化炉・ガス軟窒化炉・真空洗浄機
- ・高周波焼入装置・プラズマ CVD 装置
- ・S-DLC 装置・全自動監視システム 他

回主な認証・実績等

- ・平成 12 年 ISO9001 認証取得
- ・平成 17 年 ISO14001 認証取得
- ・平成 19 年経済産業省・中小企業庁より「元気なモノ作り中小企業 300 社」に選定
- ・平成 19 年「プラズマ CVD 法による高離型性金型表面処理技術の開発」が第 23 回形材産業技術賞（中小企業庁長官賞）を受賞
- ・平成 23 年「CO₂ 排出を極限でま削減した環境対応高性能ガス浸炭炉」が彩の国産業技術大賞を受賞

09

“深は新なり” (深く掘り下げる先に新しいものが見えてくる) を追求するモノづくり



有限会社オリオン機工

TEL.03-3895-1395 FAX.03-3892-3223
 URL <https://orion-kikou.com/>



加藤 茂明
代表取締役

代表者：代表取締役 加藤 茂明
 所在地：〒116-0001 荒川区町屋6-10-4
 資本金：4,000万円
 従業員：20人
 創業年：昭和50年
 業種：金属製品製造業
 事業内容：金属加工製造、精密板金部品加工

モノづくりの“サービス業”を指向

昭和50年の創業以来、金属製品の機械加工を家業とし、大手電機メーカー向け電子部品の供給を柱に事業基盤を固めてきた。平成8年に、2代目の加藤茂明氏(現・代表取締役)が経営を引き継いでからは、機械加工の中でも精密板金加工に注力して専門性を強め、技術力を磨いて、より精密な金属部品を提供する専門メーカーを指向。顧客に対しては「モノづくりのサービス業」をキャッチフレーズに取引関係を深めている。

1000種類を超える加工ノウハウを蓄積

業容の拡大に応じて、必要な最新設備・機械を次々と増設し、ステンレス材のマシニング加工からデザインアートパネルの製作まで、1,000種類を超える加工ノウハウを蓄積している。



本社社屋

昨今、画像処理の業務量が増えており、令和3年に「三次元測定機」、そして令和5年には「高精度な画像寸法測定機」を導入し、顧客ニーズに対応するためにこの分野の高度化を図っている。



画像寸法測定機

	ソリューション・サービス内容
精密板金加工全般	溶接全般(アルゴン・アーク・スタッド・ファイバー他)
レーザー加工全般	金属加工全般(MC・NC・製缶加工)
パフ研磨加工	表面処理全般(塗装・めっき処理他)

令和5年には、本社社屋にある第1工場、第2、第3工場に加えて第4工場を新設するとともに、各工場内のレイアウトを見直して設備を再配置しライン化を進めた。今後も業務状況に応じて逐次“カイゼン活動”を図っていく予定だ。



令和5年に導入したファイバーレーザー溶接機とロボットのライン

平均年齢30歳代の若手職人が職場の軸

最新設備を駆使し、加工ノウハウを蓄積するのは、職人を目指す若手技術者達だ。全社員20人中15人が若い職人で、平均年齢は30歳代。入社後に専門機関で基礎研修を積んだ後は、アットホームでストレスをためにくい職場環境のもとでのOJT。5Sを推進し、切磋琢磨して金属加工の技術向上を図る社風。「お仕着せの社員教育ではなく、元氣とやる気を高揚する自己啓発型が当社の特長。“技術の深化”と“満足いただける製品の提供”を企業理念に据え、常に“当社の提供する製品やサービスがお客様の要求を満たしているか”を問いながら経営を行っているが、最近の人材不足で今後はIoTやAIを駆使した設備の導入も考えていかなければならないかな。そして、モノづくり企業をアピールする“Made in Orion”の自社ブランド製品の開発に一層力を入れていきたい。」と、加藤社長は語る。

人との出会いを大切に、地域とともに次代へジャンプ!

創業者の時代から「地元・荒川を盛り上げたい」思いは強く、会社経営と地域活動を連動させて、「ともに発展し、地域と人のつながりを広げ、次代につなぐ」考えで経営に臨んでいる。また、環境問題にも積極的に取り組み、技術向上と近隣の美化活動への貢献が他の企業の模範となると評価も高い。さらに、MACCプロジェクトに参加してからは、地域産業・企業との連携も強化している。

若い技術者集団と最新設備で精密板金加工の多様なソリューションを提供



電機産業や機械産業で使われる精巧な金属部品づくりを深化させる精密板金加工の専門経営に徹している。顧客の幅広い要望に応えるために、最先端の設備・機械を積極的に導入しながら、若手技術者を軸にした職人集団を形成。5Sを徹底し、「品質・納期・コスト」+「スピード」を満たす工場体制を整え、顧客の心に響くソリューションを提供する。

④主な保有設備

- ・複合加工機 ・曲げ加工機 ・プレスブレーキ
- ・パンチプレス ・スポット溶接機 ・レーザー溶接機
- ・バリ取り機 ・三次元測定機 ・画像寸法測定機
- ・MC機 ・レーザーマーキングシステムほか

④主な認証・実績等

- ・平成18年 しんきん協議会 優良企業表彰
- ・平成23年「ISO14001」認証取得

10

現場施工のニューノーマル 「延命補強材 マホータイ&オリステープ」

株式会社折原製作所

TEL.03-3805-0101 FAX.03-3805-0109
URL <https://www.orihara.co.jp/>



代表者：代表取締役社長 折原 邦雄
所在地：〒116-0013 荒川区西日暮里1-3-3
資本金：3,200万円
従業員：30人(パート含む)

創業年：昭和13年
業種：工業用プラスチック製品製造業
事業内容：水廻り・トイレ санитарリー製品の製造・販売

「人と地球に優しいモノ創り」を根底に

当社は昭和13年の創業以来、一貫してトイレ санитарリー関連と水廻り製品を取り扱い、「全従業員が笑顔で心健やかに安心して働ける企業」をモットーに、人に優しい製品作りを定着させてきた。



マホータイシリーズ

栃木県にある自社工場では、トイレ санитарリー製品の一貫生産と、マホータイシリーズを製造している。

トイレ санитарリー製品では、樹脂製の「ロータンク」や大手メーカーでは製造終了した「ハイタンク」が好評だ。過去には、女性用節水器具「エチケットーン」が大ヒット。また、半身麻痺などの障がいのある人や高齢者に便利な片手でトイレトーパーが楽に切れる定番商品の「ペーパーマホールダー」がある。

今後も人と地球に優しいモノ創りが期待される。

コロナ禍での取り組み

新型コロナウイルス感染症の蔓延下に、マホータイ現場施工指導の新しい取組み「オンライン現場指導」をスタートした。このメリットは、非対面で行うために感染リスクを回避しながら、ビデオ通話により写真や電話よりの確・正確なアドバイスが可能で、ユーザーの安心を得られる点にある。遠方や海外のユーザーにとって時間とコスト削減という、より一層の付加価値をもたらし、差別化につながった。令和5年本感染症が5類に移行した今でも新規顧客からの「オンライン現場指導」ニーズは高い。

このように、当社では日本国内をはじめ海外に向けたニューノーマル※な取組みを常に探索し持続していく。

※ニューノーマルとは、新しい生活様式や時勢に合わせた経済活動のことを指す。

オンライン現場指導をご希望の方は、お友達登録をお願いします。



「マホータイ」を軸に更なる事業展開を狙う

国内外で高い評価を得ている「マホータイ」「オリステープ」は、昨今、『パイプの延命補強材』として新たなブランド価値を向上させた。従来の漏水補修だけでなく、事前の施工により配管の寿命を延ばし、結果として漏れを未然に防ぐ「延命補強」の性能が、多方面で支持されている。

インフラの耐震・防災の面からも注目を浴びており、巻くだけで老朽化した水道管やガス管を守れるため、低コストで災害予防が期待できる。

平成23年の東日本大震災の直後には、壊滅的な被害を受けた水道施設を復旧させるために現地へ赴き、マホータイによる修復を行った。石巻地方広域水道企業団から評価され、ライフラインの復旧に尽力したと感謝状が贈られた。多くの現場を経験しているからこそ、将来や災害時のリスク回避にマホータイが役に立てると自負がある。

平成25年にはジェトロ(日本貿易振興機構)の支援により、タイでの現地営業が軌道に乗ると、翌年にはベトナムにも現地企業の販売店を創立。ホーチミン市の本管の漏水修理で正式採用された。

その他、香港、南アフリカ等へのマーケットもあり、世界でも多くの実績と高い評価を得ている。

現場での作業性が高く、地球資源を大切にするマホータイシリーズは、今後も事業展開のメインになると見据えている。



マホータイのオンライン現場指導のイメージ

主な保有設備

- 射出成形機 (850 t) 1台
- 射出成形機 (300 t ~ 600 t 以下) 1台
- 射出成形機 (300 t 以下) 2台
- 天井クレーン1台 • 樹脂乾燥機3台 • 粉碎機2台 他

金澤鞆製

TEL.03-3891-5964 FAX.03-3806-5880

金澤 守利
代表取締役

代表者：代表取締役 金澤 守利
所在地：〒116-0013 荒川区西日暮里1-7-3
資本金：—
従業員：2人

創業年：昭和25年
業種：身の回り品(かばん)卸売業
事業内容：かばんの企画・開発・販売、
繊維・化学・皮革製かばん類の
販売・事業サービス

主業務は企画・開発とコーディネータ業

本業は、社歴60年を超えるかばん専門メーカー。昭和時代には自社内に縫製工場を持ち、製販一貫体制を築いていたが、業界全体が新興国からの低価格品と欧州からの有名ブランド品に押されてシェアを下げるといった状況の中で、ファブレス企業に業態を転換した。消費者の趣向が多様化する時代を直視して、かばん製品の企画・開発に特化して、「個性的でオリジナルな製品を提供する」戦略に変えるとともに、新たな事業展開を指向する企業などとの営業情報の交換から資材調達、製品づくりまでを融通し合い、連携し、協働化する事業展開に重点を移した。

ニッチ分野の製品づくりの活路を開く

同社の製品扱いは、かばんの素材として最も普及しているナイロン系と皮革系が主体。大半が顧客指定のオリジナル製品で、材質、機能、デザインが勝負となるが、蓄積されたデータを駆使して型紙を起こし、サンプルを迅速に提示して、専用ラインを持つ協力工場に外注して製作し、短納期で届ける。

これまでに、女子高の学用かばん、美容学校生用の化粧ケース、海洋スポーツ用のバッグ、医療用バッグなどユニークな製品を手がけ、ニッチ分野の製品づくりで独自の技術を開発し、顧客を開拓している。

一方、かばん産業に長年かかわっている存在感は大きく、多くの取引先との関係を大切に、情報交流を密にして多様な顧客ニーズにチャレンジし、新たな製品づくりや事業提携を模索。業界団体のリーダーとしてかばん製作に関するプロジェクトや地域の枠を超えたさまざまな連携事業の推進役を果たしているのが特徴でもある。

地域の枠を超えた産学官の連携を推進

縫製職人でもある金澤守利氏は、文化服装学院や東京モード学院服飾学科などでかばん製造の技術指導を行うなど、荒川区内の産業、教育と関わりも深い。MACCプロジェクトに参画してからは、東京都立大学(旧 首都大学東京)健康福祉学部と共同で障がい児の介護用スリングを実用化。その他、植草学園大学(千葉県)との災害時の要介護者用移動具の開発も行った。

荒川区内にとどまらず、首都圏を中心にした企業と企業、企業と消費者、産・学・官の連携、そしてかばん製作に関わる職人の技能向上、後継者育成に取り組む考えだ。



介護用スリング

かばん業界をけん引する
ファブレス企業

鞆(かばん)のファブレス(製造は外部の協力会社に任せ、企画・開発・販売を主業務とする)企業である。個人経営会社だが、代表取締役の金澤守利氏は、東日本鞆工業組合の協会の理事長、一般社団法人東京鞆協会の副理事長を務め、その幅広いネットワークを活かした事業展開が持ち味。企業間連携や産学官連携を広め、最近、日本鞆ハンドバック協会が実施している資格制度「鞆・ハンドバック・小物技術認定(皮革部門)制度」の普及にも取り組み、革製品の人材育成に取り組むなど、業界のコーディネータ役を果たし、協働化によるかばん産業の振興に力を注ぐ。

12

デザインから映像制作まで幅広くお引き受けします！

カラーワークス株式会社

TEL.03-6807-7880 FAX.03-6807-7881
URL <https://colorworks-tokyo.jp>川島 陽太
代表取締役

代表者：代表取締役 川島 陽太

所在地：〒116-0012 荒川区東尾久8-10-4

資本金：300万円

従業員：7人

創業年：平成27年

業種：デザイン事務所

事業内容：Webコンテンツデザイン、映像編集
写真・動画撮影、紙媒体の販促物

顧客に寄り添った事業展開

Webコンテンツデザインや紙媒体の販促物の制作業務を手掛けるデザイン事務所として平成27年に創業。MACCプロジェクトには創業当初に入会した。会員企業との産産連携も積極的に行い、次第に顧客の需要により展示会のブースデザインを中心に事業を拡大。売上も順調に推移していたが、令和2年に新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で展示会が相次いで中止となり、主力となった展示会関連の受注が軒並み減少。生き残りをかけて今後の進むべき道を見直した。そうして、地元顧客のニーズをつかみ、令和3年度に、写真や動画撮影、映像編集などの映像制作を主体にした分野に企業ドメインを変更し、高度な撮影機材を買い揃え、新たな道を進み始めた。令和5年もその戦略を継続。「まず、顧客の想いをヒアリングすることからスタート。それを“かたち”へとプランニングしていく。決してデザイナーのゴリ押しではなく、顧客の想いを大切にしながら納得が得られるまで時間をかけてお互いに方法を出し合い、完成物の方向性をまとめていく。」制作部統括リーダー 川島日出太氏はこう語る。顧客のニーズを的確に捉え、自慢の企画力を活かし、柔軟にデザインを仕上げていくのが持ち味。人の目を引きつける力、伝えたい想いをデザインに変える力、それを発揮するのが自社の使命と捉えている。

デザインの重要性は、モノや紙媒体等の実在物から今やVRやネットの世界へと移行し、その需要は飛躍的に伸び続けている。カラーワークスは、その時代のニーズに合わせて、中長期的な視点で顧客企業の戦略を当社の最適な技術と感性により提案している。

事業内容	
ウェブ	ホームページ・各種ページコンテンツ制作 SEO対策、ネットショップ制作・サポート、 YouTubeチャンネル・SNSなどの開設サポート
映像制作	動画・写真撮影と編集、各種プロモーションビデオ制作 各種SNS動画制作、商品撮影、ポートレート撮影
紙媒体	会社案内、パンフレット、カタログ、ポスター、シール、 ステッカー、パッケージ、ロゴマークなどのデザイン制作

YouTubeチャンネル
動画制作の事例実績をまとめた
フェイスブックのQRコード

顧客の販売戦略のサポート

一度Web制作を引き受けると、売上向上につながる方法を相談されることが多く、当社がYouTubeや動画でのPRを提案すると、それがそのまま次の仕事となっていくことがほとんど。それほど、当社が提供する品質への信頼が高い。

商品の販売方法が多様化している中、今では新商品のお披露目の場としておなじみになった『クラウドファンディング』のサポート依頼も多い。当社では、クラウドファンディングで商品が目標額以上売れるよう、動画制作、写真撮影をはじめ、商品アピールのための方法をこれまでの実績から、どのタイミングで何をすればよいかをプロジェクト終了までサポートする。このサポート体制への評価が高く、リピート顧客も増えている。

「これからの時代、商品の販売にはマーケティングが欠かせない。当社では、顧客の商品が売れるための様々な提案やサポートを積極的に行っているの、ぜひご相談ください。」(制作部統括リーダー 川島日出太氏)



クラウドファンディングでサポートし、目標達成に導いた事例

映像制作に特化したデザインワークで
顧客企業の魅力をアピール！強
当
社
の
魅
力

カラーワークスの映像制作は、クリエイターが自ら撮影と編集を行う。自社スタジオをベースに、出張ロケにも機動力を生かして対応する。すべてが社内一貫制作のため、他社に比べて安価でクオリティの高い撮影と映像処理が可能。撮影した写真や動画はHP、ネットショップ、SNS (YouTube、Facebook、Instagramなど)、紙媒体で、企業のブランドイメージを高めるアイテムとして多方面に活用され、顧客に最適なマーケティングサービスを提供している。



自社スタジオでの写真・動画撮影風景



KIRIYAMA

有限会社 桐山製作所

TEL.03-3802-0005 FAX.03-3801-1170
URL <https://www.kiriyama.co.jp/>代表者：代表取締役 桐山 時男
所在地：〒116-0014 荒川区東日暮里2-31-11
資本金：300万円
従業員：18人創業年：昭和23年
業種：理化学用ガラス器具製造業
事業内容：実験用ガラス機器・その他試験機器の製作販売、
博物館展示用・映画テレビ撮影用・イベント用・
店舗ディスプレイ用ガラス装置の企画・製作桐山 時男
代表取締役

研究開発部門に広く浸透

理化学ガラス機器の専門メーカーとして定評がある。ユーザーは理工系大学、公的研究機関、民間企業の研究開発部門などで、「上場会社のうち、金融とサービスを除くほとんどすべての企業で当社の製品が使われている」（桐山時男代表取締役）というほど幅広い。「これまで主に実験・試験や研究開発の分野に役立ててきた特殊なガラス加工技術を民生分野にも生かしていく」と新規分野にも進出し、着々と成果を収めている。

桐山製作所の“代名詞”となる濾過（ろか）装置「桐山ルート」は、創業者で先代社長の桐山弥太郎氏が、最初の東京五輪が開催された昭和39年に生み出した。多くの孔がいている通常の漏斗と異なり、孔は中央部一カ所だけのユニークな格好で、その誕生のいきさつがまた面白い。

ある雨の日、弥太郎氏が道路を歩いていたら、放射状に溝を切っているマンホールの溝に沿って雨水が流れ落ちるのが目に入った。弥太郎氏は「これだ！」とひらめき、マンホールからの連想で桐山ルートを製品化、大ヒットさせる。かつて、NHKの人気番組「プロジェクトX」で紹介された「川を流れる木の葉が岩に当たり方向を変えるのを見て、自動改札機を通る切符の向きを変える方法が頭に浮かんだ」との立石電機（現オムロン）の有名な開発秘話をほうふつとさせる物語である。

顧客にぴったりの一品モノを製作

戦後間もなく、東京大学本郷キャンパスと創業者の関わりから立ち上がった会社で、当初は、本郷キャンパス研究室の要望に応えた多種多様なガラス器具を製作した。

創業者は研究室の人たちと膝を突き合わせ、一緒になって作り上げることを繰り返した。その原点が脈々と受け継がれ、顧客のニーズに合致する一品モノを正確に仕上げ提供できるのが大きな強み。さまざまなテーマの実践・実習セミナーを定期的に開いている。蒸留基礎、天然物からの抽出、香りと味の合成基礎…などで、ユーザーである企業・大学の研究者らが毎回、集まってくれている。セミナーを通して一体感が強まり、桐山ファンが増えているようにも感じる。

回主な認証・実績等

JIS 認定工場（認定番号 JQ0308174）

店舗や家庭向けガラス容器にも注力

桐山ルートに代表される数々のガラス製品は、技術立国・日本の実験室や研究開発の現場に欠かせない機器として長年使われ続け、今日に至っている。

理化学ガラス機器の製作で培った匠の技を他分野にも生かそうと、店舗向けや一般家庭向けのガラス製品にも力を入れている。その一例が、球状のおしゃれなガラス容器。中に液体石けんを入れて、顧客が様々な種類のを自由に試せるようにする事例や、飲食系店舗で液状の調味料やアルコール類、各種飲料の提供に活用している事例など、多岐にわたる。

平成31年4月にはオランダ・アムステルダム の著名デザイナーのデザインに基づくグラスを制作し、イタリア・ミラノの展覧会でお披露目した。

令和3年には、ハーブや柑橘類の果皮等を水蒸気で炊きあげ、精油と芳香蒸留水を採用する装置を開発し、クラウドファンディングでの販売に成功した。その後もHPからの問合せや注文が続き、令和5年に、当社のYouTubeチャンネルでユーザーの花屋さんが紹介する装置の使い方や芳香蒸留水の活用法・手作りの化粧品（化粧水、ジェル、クリーム）を作るレシピを公開すると、「自分の生活の中で常に香りを楽しめる」と個人が自分で楽しむための購入が少しずつ伸びている。

桐山社長は「理化学向け以外のガラス製品の比率は、まだ売り上げ全体の10%弱程度。この比率を20%にまで高めたい」と、新分野開拓への意欲を語っている。

アジア最大規模の分析機器・科学機器展示会「JASIS」をはじめとする各種展示会に毎年出展し、自社の製品・技術をアピールしている。展示会では、必ずガスバーナーを使ったガラス加工を実演。バーナーのオレンジ色の炎に熱せられ、水飴のように軟らかくなったガラスを手際よく細工する職人技は、どの会場でも大人気で、人垣が絶えることがない。「KIRIYAMA」ブランドの知名度&イメージアップに大いに貢献している。



桐山アロマ水蒸気蒸留器





株式会社熊乃前鋼材

TEL.03-3895-1562 FAX.03-3819-1562
URL <https://www.kumanomae.co.jp/>



青木 秀一
代表取締役

代表者：代表取締役 青木 秀一
所在地：〒116-0012 荒川区東尾久2-44-10
資本金：1,000万円
従業員：46人

創業年：昭和33年
業種：金属加工・販売業
事業内容：スチール、ステンレス、アルミ、一般鋼材販売、
板金加工、オリジナル小物製品の企画販売

社員が一丸となった真心こめた営業方針

昭和33年に荒川区東尾久にて一般鋼材の販売からスタート。現社長の秀一氏は祖父の代から数えて3代目となる。創業以来65年以上、顧客の満足度を重視した営業に取り組んできた。

現在、主な事業は鋼材販売および、金属加工である。業務を埼玉県八潮市のプロフィットセンターに集約し、効率化を図っている。

リーマンショックや東日本大震災時に注文が減った際に、経営陣も含め仕事に対する認識が「その日の仕事はその日のうちに。職人であるけれども営業マンである」というスタンスに変わった。



「お客さんが来たら笑顔で対応する。来客の情報を皆で共有する。目を見て挨拶をする」を徹底し、社内は風通しが良く、全社一丸となって仕事に取り組む姿勢を心掛けている。

オンリーワンの技術とノウハウ

当社はディスプレイ関係や建築金物をメインに鋼板加工を営んでおり、小ロット・短納期製作に対応し、当社で加工できない場合でも協力会社との連携により、お客様のニーズに柔軟に対応することを心がけている。

また「熊乃前なら何とかかなる」という想いで、若手からベテランまでスタッフの知識や技術力を発揮できる設備を整え、時には組み立てや取り付けを考慮した提案も積極的に行っている。



オリジナル小物の企画販売でBtoC事業展開

企画開発部では、オリジナルブランド「KATTEDO」を立ち上げ、BtoC事業として2021年からインテリア小物やソロキャンプ用鉄板を企画販売している。



鋼板加工の際に発生する端材を再利用できないか？との声から社内からあがり、試行錯誤の結果生まれたのが、極厚ミニ鉄板「小鉄」。ステーキ店のような本格的なステーキが焼けると好評を得ている。他にもマスクツリー



や様々な革製品加工のラインナップを揃える。また、令和4年に荒川区の補助金を使ってレーザーマーカージェットを購入。製品に文字が刻め、手軽に唯一無二のオリジナル製品が作れることで、今後の展開が期待できる。

3DAYS職業体験で中学生を受け入れ

同社は、中学生の職業体験を受け入れている。タイムカードを押すところから、名刺交換等のビジネスマナー、レーザー加工やバンダー加工・CADの操作を学び、実際に作成した物を記念に持ち帰れる。この体験で得た知識や経験が生徒たちにとって貴重な物になると共に、社員も生徒たちから多くの事を学んでいる。

オンリーワン技術でプロのモノづくり集団を目指す

売だけではなく、困った時に頼りにしてもらえる存在として、技術の承継も視野に入れたアドバイスとアフターフォローによるサポート。

オンリーワン技術とノウハウの集結で、高品質・低コストの製品作りを可能とし、顧客から高い評価を得ている。量産ではなく各顧客のニーズに合わせた製品を提供する、小ロット・短納期と協力企業との連携によるスピーディな対応を売りとしている。

新事業展開にも乗り出し、企業から一般顧客まで常に社会から必要とされる企業を目指して邁進中。

主要保有設備

- ・CAD / CAM、シャーリング、バンダー、レーザー、Vカット、セットプレス、コーナーシャー



株式会社東風谷製作所

TEL.03-3893-4324 FAX.03-3893-4325
URL <http://www.e-kochiya.co.jp/>



大石 吉孝
代表取締役

代表者：代表取締役 大石 吉孝
所在地：〒116-0012 荒川区東尾久2-34-15
資本金：1,000万円
従業員：3人

創業年：大正4年
業種：金属加工部品製造業
事業内容：特殊ボルト・ナット、シャフト、
機械部品等の製造

進化する技術

金属鋼材を加工し精密な機械部品を製造するパーツメーカーである。特に部品の原点といわれるボルト・ナット部品の加工を得意とする。創業は大正であるからその技術の歴史は長い。一方、加工に必要とされる工具・機械は日々進化している。「温故知新。若いという事は進化に敏感に反応する。製作するたびに新しい改良がある。提案がある。進化がある。停滞などあり得ない、生きているのだから人も企業も」と代表の大石吉孝氏は語る。



長尺ボルト



特殊ねじ製品

さらなる出会いを求めて

「共感、共生、協力、人も企業も良い出会いによって成長し、素晴らしい道がひらける。」と、社長の大石氏は「出会い」を大切にしている。自分に発揮出来る能力と不足している能力、それを自覚し、巡り合えた人と協力することにより不可能だったものを超えて行くことができるのであるという。「日々切磋琢磨しながら自分を鍛え、周囲の優れた才能を見抜きその能力を引き出す事。まじめな日常の積み重ねが、絶大なる信



作業風景



インターンシップの様子

頼となって強い絆となる事。その絆が大事を成し遂げるだろうという事。それが、人が、企業が生きて行く醍醐味。」と社長の思いは熱い。

「ねじ」作りのスペシャリスト



ねじ製造に挑戦し続け、経験と研究を積み重ねながら実績をあげてきた。

ねじ製造に特化してきたことにより、規格品はもとより素材やサイズの指定にも対応できる高度な技術やノウハウを持っており、他ではできないと言われた仕事が回ってくることも多い。

NC プログラム機に加え、汎用機を扱う高い技術があるため、最適な方法でのねじ作りが可能であり、良いものが素早く・安価に製造できる。また、小ロットでの製造にも対応可能である。

長い間、これらの要望にコツコツと応え続けてきたことで、現在は多くの取引先から頼られる存在となっている。

回 主な保有設備

- ・オオクマ NC 旋盤 (バー材ワーク 10 φ~ 65 φ、長尺加工 400 ミリ) 2 台・池貝 CNC 複合旋盤 (バー材ワーク 5 φ~ 40 φ、同軸複合加工)・池貝 NC 旋盤 (バー材ワーク 15 φ~ 65 φ、スクロールチャック 200 φ)・日藤ポリゴン (ワーク径 5 φ~ 42 φ、六角・四角・二面取加工)
- ・ツガミ転造盤 (M4 ~ M42 各種ピッチ・ユニファイ)
- ・堀汎用ターレット旋盤 (3 φ~ 38 φ)・池貝 NC マシニング (テーブル 420 × 700)・立フライス盤・ボール盤
- ・TIG 溶接・刻印機 他

回 主な認証・実績等

- ・発電プラントのボルト製作
- ・荒川区インターンシップ事業にて、例年インターンシップを受け入れ

株式会社笹沼製作所

TEL.0297-58-1161 FAX.0297-58-1163
URL <http://www.sasanuma.co.jp/>



笹沼 正芳
代表取締役

代表者：代表取締役 笹沼 正芳
所在地：〒116-0002 荒川区川3-18-2
資本金：1,000万円
従業員：16人

創業年：昭和23年(法人化 昭和40年)
業種：金属加工業
事業内容：逆絞りプレス加工・チタン・SUS・
スーパーエンブラ加工・追加加工

インフラを支える技術

戦後間もない荒川区にて創業し、最中の皮の生産からはじまり、ブリキのおもちゃのプレス加工・紡績生産用部品の特許取得や生産を経て、「逆絞り加工」の技術を使った、現代の主要な通信インフラとなる「光ケーブル用端末部品」を主に手掛けている。

また、旧来の技術となる銀ロウ付け・ハンダ綴り等の技術を継承し、電力インフラ分野へも進出を進めており、機械加工においては半導体メッキ装置部品をはじめ、工作機械用部品、食品製造装置部品などの加工で多種多様な材料の加工を可能としている(樹脂・非鉄金属・耐熱合金等)。

さらに現在、電力インフラに使用する銅合金鋳物加工にも進出している。



通信技術を支える自社製品

「通信ケーブル用端末キャップ」は、永年に渡り製造している製品。創業者笹沼芳明が顧客要望に応えるために3年の歳月を費やし、1枚板から工程を重ねる事で「筒形」にプレス加工で絞る技術を確認した。製造初期は全国的な電話インフラの展開時期でもあり、大型の製品を中心に製造。現在は「光ケーブル用」の小～中型の物が主力となり、今後も新規規格通信技術の発展に寄与していく製品となっている。

その他、メッキ装置部品・電気部品・加工機械用部品・省力化装置部品など、多岐にわたる分野の機械加工を請け負っている。

また、当社設備にて対応できない加工については、協力会社による対応で様々なニーズに応えることが可能となっている。



人材育成・業務効率化が急務

つくば工場の周辺は近年、大企業の工場が進出してきて今後人材がそちらに流れて行くことが懸念される。

人材育成の観点からも「企業の魅力の出し方」が大きな課題となってくる。

当社の従業員平均年齢 60 以上、若い人の育成や設備投資が急務となると危機感を持ち、給与体系の見直し・経営体質の改善や様々な技術を取り入れていくことで効率化を図っている。



製造拠点となる「つくば工場」

現在の製造拠点となっている茨城県のつくば工場で製造を開始したのが昭和 40 年代、当時の物流状況で金型部品等の入手に時間がかかることから、材料から部品の加工までを行うことで時間の短縮と、自社プレス加工や金型加工等の技術向上・加工においてキモとなる「治具」製作の技術向上を図ったことが、現在の機械加工部門の開設につながっている。

新規部品の加工はもちろん、他社にて加工された製品の不具合改修、機能性向上などを目的とした「追加加工」も日々受注、加工済み形状の製品に再度加工を行うための加工技術ノウハウも習得している。

「追加加工」については製造した部品を新たに作り直すのではなく、機能追加・修正を行うことでお客様の「時間・無駄・費用」の削減要件をクリアすることで喜ばれている。

主要保有設備

- ・プレス装置：10 台
- ・機械加工装置：13 台
- ・高周波加熱装置：1 台
- ・画像測定器：1 台

主要認証・実績等

- ・ものづくり補助金
- ・事業再構築補助金
- ・IT 補助金



従来の受注印刷を主軸にしながらも自社ブランドの製品化を模索し、挑戦し続ける「戦う」会社です。



株式会社サンライズ

TEL.03-5838-6821 FAX.03-5838-6822
URL <https://sunrise-ts.co.jp/>



オリジナルキャラクター
さむらいす

代表者：代表取締役 添田 静江
所在地：〒116-0014 荒川区東日暮里1-16-6-303(総務経理) 業種：印刷業
資本金：2,000万円
従業員：23人
工場：荒川区東日暮里1-16-5

創業年：昭和46年
事業内容：オフセット印刷、オンデマンド印刷、チラシ、DM、名刺、書籍、雑誌、カタログ、ポスター、手帳、ダイアリー、自費出版、パッケージ、ステーションナリー制作、他印刷全般

企業の存在使命を実現

昭和46年創業、設立52年の印刷会社。

オフセット印刷、全判UV機、オンデマンド機、断裁・製本・納品までを一貫生産している。

常に、社会の変化に的確に対応することを大事とし、顧客が我々に何を求め、何を期待しているのかを考え「向上心、創意工夫、情報収集を忘れずに」をモットーとし、顧客ニーズの多様化にスピーディーに応える事を心掛け、品質向上と顧客満足度の向上に日々邁進している。

またオリジナルキャラクターの「さむらいす」は、「実るほど頭を垂れる稲穂かな」から由来し、『世の素晴らしい経営者たちに共通することは、「謙虚さ」である』という考えと、武士道の精神論から生まれたキャラクターである。

信頼のある製品の提供とオリジナル自社製品の開発

同社は常に安定した製品の提供とプライバシーマーク制度（JIS Q 15001）の認証取得により、個人情報を含む印刷も安心してご依頼いただけると自負する。

また、イラストレーターとのコラボによるステーションナリーの制作販売や、OEM小ロットのオリジナルグッズ制作も請け負う。

近年は、自ら企画・製造したオリジナル商品を直接消費者に販売する DtoC(Direct to Consumer) 企業を目指している。

中でも、自社開発の紙を使用した『トライスタンド』は、コンパクトでしっかりした紙製のスタンドで、スマートフォン、カード、メガネなどを置くスタンドとして使用シーンに合わせて自由に使うことができる。ロゴマークや社名・店名など名入れることで、オリジナルのノベルティーにも使用可能。デザイン性だけではなく、乗せるもののサイズや重さにもよるが、三角錐の構造が重さを分散させ、紙製でありながらも丈夫で乗せたものをしっかりと支えることができる。

同じくオリジナル商品の『ポケット付きカレンダー』は、

1ヶ月ごとに切り取ったカレンダーが封筒になり、月ごとの帳票類や書類の管理・整理に使えることで他社製品との差別化を図っている。

添田社長は、「時代の流れにより変化する環境にいかに対応できるか？今後の自社の取組を見える化するために、MACC プロジェクトに参加した」と語る。

迅速な対応と高品質な製品づくり

印刷・加工・納品まで一貫して受注、印刷物以外の梱包・発送代行業務も引き受ける。

都内に自社工場を持ち短期納期が可能な事に加え、自社設備で対応不可の依頼でも協力会社とのスムーズな連携で迅速な対応ができる。

時代の流れに敏感に SNS 発信にも積極的に取り組み、環境にも配慮した顧客満足度の高い自社製品の開発を目指す。



トライスタンド



左卓上カレンダー、右ポケット付きカレンダー

回主な保有設備

- オフセット印刷機：A全4色機、菊半裁4色機
- オンデマンド印刷機：Impremia C71
- CTP：プレートセッター
- 大判プリンター
- 断裁機：菊全断裁機

回主な認証・実績等

- 2023年4月
プライバシーマーク制度（JIS Q 15001）の認証更新



ジェーシー株式会社 (旧吉村繊維株式会社)

TEL.03-3806-2222 FAX.03-3806-5116
URL <https://www.global-jc.co.jp/>

代表者：代表取締役 吉村 功
所在地：〒116-0002 荒川区荒川2-1-9吉村ビル
資本金：1,000万円
従業員：50人余(含む中国子会社)

創業年：昭和6年
業種：繊維製品製造業・ウレタン加工業
事業内容：縫製、各種用途のウレタン・ポリエチレン製造・衣料用プレス店・クリーニング店用ポリエチレンロール製造 他



吉村 功
代表取締役

山東省青島の独資有限公司が順調に推移

製綿業からウレタン加工業へと舵を切り、今日に至るまで多彩な事業を繰り広げている。同社の屋台骨となるのが、中国・山東省青島に設けた子会社「青島吉村工芸品有限公司」だ。同社では中国を拠点としたビジネス展開により、確たる成果を収め続けている。

昭和6年、現代表取締役の父親が個人経営で製綿業の吉村製綿所を立ち上げた。そして、現代表取締役が昭和35年に埼玉県越谷市に工場を建設し、ウレタン加工に乗り出すとともに社名を吉村繊維株式会社とした。平成の時代に入ると、インドネシアやマレーシアなど海外へ進出し、平成7年には海外拠点を集約する形で青島に独資(100%出資)の有限公司を開設した。

この青島工場には裁断機をはじめとする各種繊維機械の新鋭機を早くから導入。吉村代表取締役自らが中国語をマスターして、社員の教育・研修に努め、日本的で家庭的な経営スタイルを一から教えた。その甲斐あって、今では工場長以下、ほぼ全社員が中国人。現地の人たちに任せきりでも、同有限公司の経営は順調に回っている。



青島吉村工芸品有限公司

国内外の拠点を使い分け、高い生産性確保

国内のモノづくりの拠点は、埼玉県と茨城県にある。現在注文が多いのが、飲食店などの椅子に使用されるクッション。その材料を、茨城工場ではウレタン廃材からチップフォームに再生する。ウレタン屑を細かく粉碎し、それを機械に投入したものに接着材を入れてかき回し、下に設置した箱の中に落とし圧縮して固め、W1300×D2400×H400の大きさのブロックに加工するのだが、その後一時保管するための倉庫を令和5年に増設した。顧客からの注文が入ると、それを埼玉工場へと移送し、注文に応じた大きさにカットして顧客に提供する。軟質ウレタンに比べ比重が3～4倍のため、ほとんどへたらず、長持ちする上、SDGsへの取組みもつながり、需要が後を絶たない。

当社では、中国及び国内拠点を上手に使い分けることで高い生産性を確保。ウレタン素材を中心に、多品種で少・中量の注文に幅広く対応し、枕・寝具関連や各種クッション材などを生産し、大手企業から個店までさまざまな需要に対応している。

新分野の注文にも積極的にチャレンジ!

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、令和2年3月に不織布マスクが国内市場から消えた際、いち早く中国子会社で作って荒川区の本社で販売したことも記憶に新しい。至る所で見られた、アクリル製仕切板も提供していた。

ウレタン素材と相性が良いため、医療・介護分野からの新規顧客の注文も多い。医療分野では、ステントの携帯バッグや透析時に使用し保温性を保つためのクッションが定番で、小型顕微鏡を持ち運びする際のケースなど特注品にも対応している。また、介護・福祉用具では、床ずれ防止用クッションや車いす用クッション、介護ベッド用マットレスなどの需要が多い。

さらに、スポーツ分野の製品開発にも携わっている。NPO法人カーレットジャパン協会からの依頼で用具の開発から中国から取り寄せる石の調達まで関わっており、カーレットの普及啓蒙にも一役買っている。カーレットは、氷上の競技・カーリングの“卓上版”となるもので、老若男女誰でもが楽しめる新型スポーツ。最近、大学でカーレットの部活動が活発になっており、今後の展開が楽しみだ。



障害者大会

人も設備も一級品の青島工場

青島工場の存在が当社の最大の強みである。ここには人材の面でも設備の面でも一級品が揃っていると自負している。また、社名の「青島吉村工芸品有限公司」が表わす通り、工芸品というくくりでウレタン、繊維、木、紙、金物など、さまざまな素材の各種製品の生産に幅広く取り組めるのもユニークな点。さらに、通常、メーカーには認められていない輸出業務にも携えるのが大きな利点となる。そのため、日本国内で下請け企業がなくなったりして、どこに頼んだらいいのかわかっているような企業の注文を、当社で引き受けて青島で生産するような事例も多い。

◎主な保有設備

- 縫製関係：マシン等60台、自動キルトマシン 他
- ウレタン関係：二次元全自動裁断機、熱プレス8台
全自動バーチカル、バンドナイフ6台 他
- ポリエチレン関係：ポリエチレンロール機、シール機 他

◎主な認証・実績等

- ・平成24年度荒川区環境区民大賞受賞





株式会社四釜製作所

TEL.03-3800-3141 FAX.03-3800-3063
URL <http://www.shikama.biz/>



四釜 裕和
代表取締役

代表者：代表取締役 四釜 裕和

所在地：〒116-0011 荒川区西尾久7-16-12

資本金：1,000万円

従業員：13人

創業年：昭和41年

業種：金属加工業

事業内容：金属ディスプレイ、装飾金物、
看板の制作

創業以来磨かれてきた金属加工技術

同社は、昭和41年に現取締役会長が創業し、以来、商業施設の店舗や飲食店、図書館などの公共施設のディスプレイ（看板や装飾品）の企画・設計・制作を行っている。平成26年6月に四釜裕和氏が代表取締役社長に就任し、令和3年3月には創業55年を迎えた。

同社の製品は業界内でも高い品質が認められており、高級アクセサリ店のショーケースや大手チェーン店の看板など、誰もが目にしているディスプレイを手掛けている。

顧客は全国各地の商業施設や店舗になるが、大型商業施設の多くは関東圏に点在しており、同社売上の約4割は関東圏である。都心に近い施設は車での移動が可能な距離であるため、直接製品の搬入が可能であり、その日のうちに現場へ駆けつけることも可能だ。山手線沿線の同業他社は多くなく、荒川区に工場を構えることによるフットワークの軽さが同社の強みにもなっている。

令和元年11月には本社工場の隣に第二工場を建設した。第二工場は本社工場よりも作業面積が広く天井が高い工場であるため、大きなディスプレイの制作がしやすい環境となった。



第二工場外観



第二工場内

ライフワークバランスを重視

同社では社員のライフワークバランスを重視している。以前は残業することも多かったが、現在では社員のプライベートを重視。繁忙期を除いて定時退社を推進している。これは社長の指示だけでなく、効率的に業務を行ってきた結果、労働時間を短縮できたことも大きい。社長との距離

も近く、様々な提案がしやすい環境も労働環境改善に寄与している。

若手の採用・育成にも力を入れており、若手を一から育てる活気ある職場づくりを目指している。



スポーツ用品店什器



第一工場内

金属加工のスペシャリスト



同社は高品質な製品とスピーディーな対応が売りで、業界内でも口コミで新規顧客を獲得するほど信頼が厚い。高品質な製品の源は、職人の技術だ。制作するディスプレイのほとんどがオーダーメイド品となるため、機械で制作することはできなく、職人の技術・経験に頼る部分が多い。例えば、材料となる鉄などの金属は気温や湿度によって状態が変化するため、夏と冬では扱いが異なる。夏は高温高湿のため材料が酸化しやすく、素早く丁寧に作業することが求められる。また、材料に熱を加える際も気温によって温まるスピードが違うため、金属の音や感触からその日の加工手法を決めている。このような技術はデータ化できないため、簡単に真似することはできない同社固有の技術である。

回 主な保有設備

- ・シャーリング・ベンダー・ハイブローシャー・コーナーシャー・パワープレス・アルゴン溶接機・半自動溶接機（アーク式、プラズマ式）・スポット溶接機・ボール盤・メタルソー・ホイストクレーン

20

電力工事を中核に、環境測定、見守り事業など多角化を推進

CICO
CORPORATION

志幸技研工業株式会社

 TEL.03-3894-2621 FAX.03-3894-2632
 URL <https://www.cico.co.jp/>

 吉川 裕
 代表取締役

代表者：代表取締役 吉川 裕

所在地：〒116-0011 荒川区西尾久5-7-12

資本金：2,000万円

従業員：21人

創業年：平成4年

業種：電気工事業

 事業内容：東京電力地中送電工事及び
 官公庁の電気工事・環境測定事業
 ネットミル見守りサービス他

高い技術開発力を持ち、膨らむ需要に対応

電力工事や一般電気工事・空調工事を中核事業に、見守りサービス、環境測定、電車ホームドア工事と事業領域を広げて今日に至る。いくつもの特許を取得するなど、高い技術開発力を誇り、特許をビジネスに直結させている。

創業は平成4年。大手企業でエンジニアとして働いていた吉川代表取締役が、40歳で起業した。起業まもなくから、東京電力管内の電力工事を（株）関電工の協力会社として手がけて、実績を積み上げている。

主力事業となる電力工事では、^{どうどう}洞道と呼ばれる地中の空間で、超高圧（6万ボルト級）ケーブルなどの敷設・メンテナンスに取り組んでいる。工事に携わるには、高度な技術・ノウハウと各種の機械・設備類の両方が欠かせず、そのため工事業者数はそう多くない。一方、工事の需要動向



アスベスト粉塵の計測装置



電力工事に欠かせない電源車

を見ると、東京に大停電をもたらした平成28年10月の東電ケーブル火災事故を契機に、OFケーブル（絶縁油を用いたケーブル）の見直し・交換が求められるなどで、工事案件が頻発している。

そうした需要と供給のバランスから、同社の工事受注件数はうなぎのぼり。増大する需要に応えるため、工事部材の保管倉庫を新設するなど、設備投資にも積極的に取り組んでいる。

本業が過半を占め、その他事業は各10%の構成

同社では本業となる電力・電気工事以外の領域にも活躍の舞台を広げている。その一つが環境測定事業。健康被害が懸念されるアスベスト粉塵を自社開発した専用装置により計測し、人体へ悪影響が及ばないようにする取り組みだ。

社会的ニーズが急増している「見守り」に関するサービス事業も立ち上げている。見守りサービスを推進するため、子会社「株ネットミル」を設立し、ユニークなサービス/システムの全国展開を目指している。（詳細は「(株)ネットミル」に掲載）

そのほか、各地で進められている駅ホームドア敷設工事の電気周りを担当し、電車安全運行の一翼を担っている。

一連の多角化戦略に関して、吉川代表取締役は「本業の電力工事と一般電気・空調工事で売り上げ全体の60-70%を占め、環境測定、見守り事業、ホームドアがそれぞれ10%ほどの割合」と事業比率を説明している。この比率がこれから先、どう変動していくのか…。同社の行方が注目される。



急増中のホームドア工事

30有余年の積み重ねが信頼を築く



主力事業となる東京電力地中送電設備の工事・保守では、株式会社関電工の協力会社として30有余年の実績を誇っている。広域への電力供給に関わるため、ケーブルに少しの傷も許さないとといった高い施工品質・精度が求められる中、培った技術・ノウハウを武器に、丁寧かつ効率的な仕事に徹し、関係先との信頼関係を築いている。一連の工事・保守業務を通して身につけた技術・ノウハウは、官公庁や民間のビル、マンション、工場、事務所などでの電気工事設計・施工にも生かしている。こうした横展開による事業領域が拡大中で、時代のニーズに対応する企業として、さらに進化していきたい。

④主な保有設備

- 電源車（25kw）3台・PC18台・AUTOCAD5台
- 関連印刷機3台・ウインチ車1台
- テレビカメラ車1台・4tユニック車1台

④主な認証・実績等

- 平成27年 第2回荒川区新製品・新技術大賞優秀賞
- 平成27年 プライバシーマーク取得
- 平成29年 第3回荒川区新製品・新技術大賞入賞
- 平成30年 経営革新計画承認



有限会社スガワラ印刷

TEL.03-3800-1055 FAX.03-3800-1060
URL <https://www.copimemo.jp/>

代表者：代表取締役 菅原 正博
所在地：〒116-0012 荒川区東尾久3-11-24
資本金：300万円
従業員：4人

創業年：昭和36年
業種：印刷業
事業内容：事務用帳票類の製造・販売
(オフセット印刷、複写式ふせん)



菅原 正博
代表取締役

デジタル化の今こそ有能な人材ネットワーク

昭和47年に先代が印刷会社として法人化し、その時より事務用帳票類の印刷を得意としている。印刷業は設備先行業種と言われ、中小企業と大企業とは資本や設備力等に大きな差があり、同じ土俵では競争を勝ち抜くことができない。かつての東京の印刷会社は分業化が進み、顧客にワンストップサービスを提供できるネットワークが構築されていた。当社もそのネットワークに参加し、経済成長による市場の発展とともに業容を拡大してきたが、デジタル化の進展やインターネットの普及で、10年前頃一旦売り上げが落ち込んだ。

しかし、2代目の正博社長が、大企業などが今さら参入しても無駄、利益が出ないと考える当社の強みである小ロット多品種な印刷をぶれずに追いかけた結果、競合会社が減少していく中、次第に受注が伸びてきていた。その矢先、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で人流が減少し、ペーパーレス化の推進やWEB広告の普及が加速したが、生き残りをかけて利益確保を探り、経営努力を続けている。

当社の強みは、「ネットワーク＝人脈＝人材」である。先代が築いた人脈、正博社長が大学で培った画像工学分野の人脈、卒業後に他社修行で構築した人脈に今でも助けられている。そして、何よりも1社1社の顧客との信頼関係が最大のネットワークである。顧客ニーズに応え、満足いただける商品を提供し続けることは決して容易ではないが、顧客を大切に、仲間とともに切磋琢磨している。

通販印刷サービスに無いニッチな商品対応

印刷と、その周辺領域で、さまざまな技術・ノウハウを培ってきており、それが財産だと自負している。例えば、ナンバリング印刷した複写伝票への荷札加工や、支給された印刷物に可変デジタルデータを印字して製本加工までを行うなど、同業の顧客から受ける仕事も多くなってきた。

現在、フードロス問題にヒントを得、SDGsにも対応したユニークな印刷物受発注の仕組みを構築中。随時、顧客に提案していく。

回主な保有設備

- ・オフセット印刷機（四六四切機×2台）
- ・断裁機 1台
- ・折り機 1台



当社のニッチな印刷メニューは右側QRコードよりHPをご覧ください。

複写ふせん紙や名物最中の個包装紙も

当社では、特許技術を活かし「コピメモ®」を商品化している。「コピメモ®」は、いわゆる複写できるポストイットで、現在アマゾンで「メモッ多」という商品名で販売し、年間を通しコンスタントに売れている。また、ノベルティとしても広く採用され、荒川区の産業振興シンボルキャラクター「わざ丸」をあしらったものや企業独自仕様の複写可能な特注品のポストイットとしても利用されている。



「わざ丸」の複写ふせん紙

趣を異にする当社の商品として、日本モータースポーツファンの聖地と呼ばれる、鈴鹿サーキット近くにある和菓子屋「とらや勝月」さんの製造販売する「ライダーもなか」の個包装袋がある。この地の名物である「ライダーもなか」の魅力を高めているのが、疾走するバイクを墨絵で描いた個包装袋。この絵は、モータースポーツを墨絵で描くことで有名なイラストレーター垂井ひろし氏の作品で、彼とは学生時代の音楽仲間という縁もあり、当社は長年「ライダーもなか」の個包装袋を印刷し納入している。



人気画家の墨絵を印刷した「ライダーもなか」の個包装紙

また、別の事例では、某不動産会社の依頼で明治以前の荒川区の古地図を当社のデジタル技術により複製し、アーカイブ機能により半永久的に検索、閲覧、および出力を可能にした。この事業により、貴重な文化資産の継承を実現し多方面への活用を広げたことで、小さいながらも良い仕事をする会社と評価を受けた。このように、紙からデジタル分野に事業範囲を広げることで、受注範囲を拡大している。

回主な認証・実績等

- ・特許：「付箋紙」（特許5697190号）
- ・商標：「コピメモ」（登録5340918号）
- ・中小企業基盤整備機構「販路開拓支援事業」採択
- ・東京都中小企業振興公社「中小企業ニューマーケット開拓支援事業」採択
- ・第3回 TASK ものづくり大賞奨励賞受賞
- ・テレビ、新聞、雑誌等メディアにて紹介


株式会社ストロング

TEL.03-3803-5521 FAX.03-3891-6138
URL <https://www.strong.co.jp/>



平岩 隆宏
代表取締役

代表者：代表取締役 平岩 隆宏
所在地：〒116-0002 荒川区荒川4-1-4
資本金：4,650万円
従業員：25人

創業年：昭和11年
業種：製造卸小売業
事業内容：スリッパの開発及び製造販売

スリッパ業界のリーディングカンパニー

生活必需品化したスリッパの老舗メーカーである。創業80年余、あらゆるジャンルのスリッパを作り続け、日本独自といわれるスリッパ文化を育んできた。今日、家庭や職場などで広く使用される一般用スリッパから抗菌・防臭加工を施して病院や学校などで使用される業務用スリッパまでオールマイティーに対応し、業界の先頭を走っている。

年間を通じてニーズに応じた新製品の提供をし続けるほか、築き上げた複数の製造拠点を活かし、様々な価格帯の品揃えを実現している。

それゆえ、量販店向けの卸販売からWEBでの小売りまで、対応が可能となっている。

生産は中国が主体で、上海近郊など数カ所の提携工場にて、本社で企画した製品を集中生産している。量産商品から難しいデザインのものまで得意とする工場の幅を揃え、効率的な製品づくりに取り組んでいる。



本社ショールーム



女性向けヒールスリッパ

「独自性」を重視した製品開発

平成22年に経営を引き継いだ、あすめし会メンバーでもある平岩隆宏社長は、市場の縮小や単価の下落などで、経営環境の厳しさが増す中であっても成長するために、高付加価値の製品開発に取り組んでいくと語る。高付加価値のポイントは、機能性とデザイン性の更なる向上であり、ほかではマネのできない独自性を打ち出していく。その一環



バーバパパ
お掃除スリッパ



として、MACC プロジェクトとの連携による製品開発がある。MACC 製品の「バーバパパお掃除スリッパ」(現在、バーバパパDE おそうじくん)は、あすめし会で開催されたセミナーをきっかけに「家事負担軽減」をコンセプトとして開発された。モップ部分を取り外せ、通常のスリッパとして使用することや、モップ部分のみの洗濯が可能であるという機能性をもつ。また、世界的に有名な絵本キャラクターのバーバパパを用いることでデザインも人気で、順調な売れ行きを記録している。

WEB販売にも積極的に取り組み、昨今の消費行動の変化への対応をはかっている。



製品企画力を武器にヒット製品を飛ばす

創業から約80年を超える当社の強みは、膨大な量のスリッパを作り続けて蓄積した「製品企画力」「製造拠点」「販売ルート」を持ち、この3つを結合した戦略をとっていることである。

とりわけ、「製品企画力」に定評があり、製品企画の専門要員を配置するほか、社外のデザイナーを活用し、ファッションの流行を敏感に察知しながら使用シーンに合わせた製品開発に取り組んでいる。例えば、現在の主力製品である女性向けのヒールスリッパは、フリルやレース、リボンなどの飾りつけで、足を華やかにしている。他社では3,000～4,000円する程のデザイン性を有するものであるが、当社では1,000円以下で販売するという価格競争力も持ち、絶大な支持を得ている。



本社外観

④主な保有設備・実績等

- ・商標登録 第5788149号 電車 DE おそうじくん
- ・商標登録 第5790159号 おそうじくん
- ・商標登録 第6233642号 フォーマルスリッパ
- ・商標出願中 商願2021-027496

「波動エネルギーをコア技術とし、樹脂加工から、食品加工、金属加工までの幅広い応用加工技術」を総合的に提供できるメーカーです



精電舎電子工業株式会社

TEL.03-3802-5101 FAX.03-3807-6259
URL <https://www.sedeco.co.jp/>



渡邊 公彦
代表取締役社長

代表者：代表取締役社長 渡邊 公彦
所在地：〒116-0013 荒川区西日暮里2-2-17
資本金：8,862万円
従業員：約160人(パート等含む)

創業年：大正13年
業種：精密機器製造業
事業内容：プラスチックの溶着・溶断装置、
金属接合機の製造販売 ほか

先進的な開発を続ける業界のパイオニア

大正13年に台東区鳥越で創業。当初は有線および無線通信機の製造販売を行っていた。戦後、プラスチック業界の急速な発展に即対応して、高周波ウェルダ―と超音波ミシンの研究製作に着手し、電磁波エネルギーのプラスチック加工への応用開発を進めた。同部門の成長に伴い、昭和28年に会社組織とし、昭和31年に現本社地に工場を新設、昭和45年には本社機能も移転した。また、昭和36年には世界で最初に開発した「超音波プラスチックウェルダ―」と「超音波マシン」を東京国際見本市にて発表。その後も、電波・音波・光波をエネルギー源とした新技術・新製品を間断なく開発・実用化して業界をリードしている。

また、プラスチックだけではなく、金属同士を接合する「超音波金属接合機」を開発し、事業の一つの柱として成長している。その他にも、食品業界へ提供する「超音波フードカッター」など新たな業界への参入を行っている。

ユーザーは、精密さを要求する自動車、IT、医療、化学、建設、日用品、食品業界など幅が広い。現在では、売上の20%を世界各国への輸出が占め、「SEIDENSHA」ブランドは国際市場で根強い支持を得ている。

プラスチック溶着・溶断装置の総合メーカーとして顧客を強力にサポート



現在のプラスチック溶着・溶断技術には超音波・高周波・レーザー・電磁誘導などの様々な種類の工法がある。当社はそれらの技術をほぼ網羅し、精通しているので、ユーザーのニーズに合った最適な技術・工法を多角的に提案できる。これが当社の強みであり、さまざまな業界で信頼を得ている。また、製品の製造販売だけでなく、サポート体制を充実させていることも信頼を得ている理由である。ユーザーからの要望のヒアリングに始まり、技術相談、サンプルテスト、仕様決定、装置の設計及び開発、導入支援からアフターサービスまで一貫してサポートする。

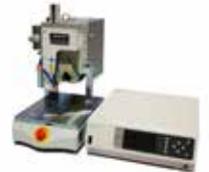
また、IPF2023（国際プラスチックフェア）では、超音波溶着機の更なる環境対応を見据えた、電動化プレス装置の展示を行うなど、確かな技術力のもと実績を積み上げ国内トップメーカーとしての地位を確固たるものとしている。

さらなる成長へのシナリオを描く

近年、自動車産業では、環境対応車や電気自動車の推進で軽量化が課題となり、樹脂部品点数の増加やCFRTP*などの軽量化素材への転換が進んでいる。<SONOPET JIIシリーズ>そして、自動車部品製造・組み立ての要となる樹脂溶着技術のさらなる高品質化・高速化と共にコスト削減も求められている。世界市場をみると、欧米で推進され、第4次産業革命と称されているIndustry 4.0から日本のモノづくり現場が一步遅れを取っており、その中でも特に樹脂加工業界で、市場動向、顧客ニーズ、装置メーカーの機能にずれが生じていると認められる。



超音波溶着機
小型発振器ユニット



超音波金属接合機

そのような中、精電舎電子工業の企業使命である「絶えず新技術に挑戦し、価値の創造と提供を通じてお客様の満足度を高め、ひいては社員の幸せを図り、社会の発展に貢献する。」に基づいて、市場や顧客ニーズに応えるため、産学連携による研究開発も積極的に行い、前例や常識にとらわれない新技術、新用途開発の提供に取組み、定期的に新製品を世に送り出している。

さらに、ものづくり現場を変えるべく、「生産性のカイゼン」に向け様々な技術を取り込み、「生産性の効率化、生産速度の向上、生産トレーサビリティ」を実現し、IoTの活用により、「見える化」した生産設備の異常や故障が発生する前に対策・保全を行う予兆保全に貢献し、設備の運用リスクを回避することで、日本発のカイゼンの加速、新しいものづくり工法開発の促進サポートを行っている。

◎主な認証・実績等

- 2021年 日本弁理士会主催 第7回知的財産活用表彰 知的財産活用奨励賞（知的財産情報部門）受賞
- 2018年 平成30年度関東地方発明表彰 関東経済産業局長賞・実施功績賞受賞
- 2018年 世界発信コンペティション 製品・技術部門 特別賞受賞
- 荒川区新製品・新技術大賞 第1回～第5回 優秀賞受賞

*母材に熱可塑性樹脂を用いた複合材で、熱可塑性CFRPとも呼ばれる。

壮光舎印刷株式会社

TEL.03-3802-4545 FAX.03-3891-7867
URL <https://www.sokosha.co.jp>



壮光舎印刷株式会社 本社

代表者：代表取締役社長 渡辺 善広
所在地：〒116-0002 荒川区荒川18-20-1
資本金：1億円
従業員：78人

創業年：昭和6年
業種：印刷業
事業内容：総合印刷、書籍印刷、電子書籍 他

移転集約し一気通貫の体制を整備

昭和初期に創業した老舗印刷会社で、オフセット印刷を主力としている。いち早くデジタル化を推進するなど、経営革新に積極的に取り組んでいる。お客様の中心は、教育系・医学系・学術専門系の出版社である。創業当時の長い取引歴を持つお客様が多くを占め、安定した経営基盤を実現している。最近は写真集・美術書籍など、色・紙・表紙などにこだわりのある出版物のご相談も多く、お客様の立場に立った御提案と、最先端の技術、そして丁寧な対応で、多くのお客様はリピーターとなっている。

グループ子会社ともども、オンデマンド印刷による少数の印刷への対応や、電子書籍分野への進出など、トータル・メディア事業も推進している。今後は、この路線を強化拡充することで、現在の主要取引先である出版社以外の新規顧客を開拓し、取引先の倍増を目指している。掲げるテーマは「トータル・メディア・ソリューション」だ。

平成30年12月には本社およびグループ会社を新社屋兼工場に移転・集約し、印刷、製本、倉庫・物流の各業務を一気通貫で手がけられる体制を整えた。それまで、オフィスや工場が点在しており、また各施設の老朽化が進んでいた。新社屋は1階が工場、2階がオフィス。フロア床面積3000平方メートルの広々とした動きやすい空間となっており、作業効率は大幅に高まった。



工場内の様子

安全・安心と「QVS」打ち出す

同社では、「安全・安心」な印刷技術の提供をポリシーとしている。このポリシーの有言実行に向けて、品質向上&品質管理、個人情報保護&機密厳守および環境への配慮の三つを重視した経営を実践している。そのうち、品質向上&品質管理に関しては、ISO9001は返上したものの、その理念・精神を引き継いだ独自プログラムを手がけている。

情報の保護・厳守においては、個人情報保護法などに厳密に対応してきている。また、環境配慮では、平成28年に環境マネジメントシステムの仕様を定めたISO14001を取得したほか、ベジタブルインク（植物性の油インク）

の活用や、クールチューブを採り入れ省エネを追求した新社屋の建設など、地球に優しい取り組みを実行している。

安全・安心と併せて、「利益を生み出し、強い会社を作る」とのスローガンも打ち出している。スローガンの実現に向けて渡辺善広代表取締役社長は「QVS*を三本柱として、顧客満足度と収益力を高める」と戦略・戦術を語っている。QVS*を通して、顧客に感動を与えるレベルの品質の保持や、すぐやる習慣・高い提案力を身に付けることが強い会社に直結する、としている。

※Q：クオリティ、V：バリュー、S：ソリューション

機械・設備×人材のシナジー発揮



かねてより最新テクノロジーの導入・活用に力を入れている。4/6全判両面4印刷機などの最新マシンの設置や、高速ネットワークの利用、デジタル検査によるシステム化された検版体制の構築などがその具体例となる。

一方で、会社の基礎は人であると考え、人材の育成にも重きを置いている。社員の階層ごとの社外研修体制を用意し、取得した各種資格に応じて給与をアップさせる仕組みも設けて、モチベーションを高めている。

こうした機械・設備と人材のシナジー（相乗効果）を発揮できるのが当社の強みと自負している。そのシナジーにより「綺麗な・早い・丁寧な」印刷を実現して、250社を超える顧客の厚い信頼を得ている。

◎主な認証・実績等

- CSR認定制度、ワンスター認定取得
- ISO14001 認証取得
- プライバシーマーク取得（返上済）
- グリーンプリンティング工場認定
- JapanColor 認定証取得
- ClearSky サポーター登録

◎主な保有設備

- CTP 2台 ・ POD 一式
- 四六判全4色刷両面機 1台 ・ A全判5色刷片面機 1台
- A全判UV4色刷片面機 1台 ・ オフライン品質検査装置 1台
- 製本ライン完備（トライオート、自動包装機等）
- 他、プリプレス設備 ・ 印刷設備等多数

太陽興業株式会社

TEL.03-3893-2741 FAX.03-3800-2411
URL <https://taiyo-kogyo.net/>



赤塚 弘美
代表取締役

代表者：代表取締役 赤塚 弘美
所在地：〒116-0013 荒川区西日暮里6-63-4
資本金：1,000万円
従業員：14人
創業年：昭和28年
業種：ゴム製品製造業
事業内容：シリコンチューブ製造、
シリコンゴム関連製品の製造販売

製品開発と高品質化の歴史

昭和28年、薬用ゴム栓の製造を目的に日暮里に創業。昭和時代に採血瓶用ゴム栓でトップシェアを獲得して製品技術と高品質の名を上げたのをはじめ、組織培養に使われるシリコンゴム製品を日本でいち早く研究・開発し、その新製品の普及で業容を拡大して、事業基盤を固めた。

2代目の河内洋輔氏（現会長）は、シリコンゴム加工の専門経営を究め、この分野のスペシャリストとして医療・理化学・工業用のシリコンゴム製品に特化した事業を推進。

3階建ての本社工場にシリコンゴム加工の専用機を配備して、機動性のある多品種・少量生産体制を整え、顧客ニーズに応える製品展開と高品質化に注力。これまで医療・理化学業界の大手企業や研究機関など400社余の顧客との取引を広め、信頼関係を深めてきた。



本社ビル

専業ならではのメニュー

現在提供中の製品は、「押し出しゴム製品」と「モールド成形品」に大別される。内容に変化はあるものの、取扱品目は30種以上。サイズの違いを考慮すると、その10倍以上を扱っている。

主力の押し出し法によるシリコンゴム製品は、耐熱・耐寒性、耐酸性、耐薬品性、無毒、無臭、電気特性などに優れた素材として、シール材のほか、ホース、チューブ、防振材、クッション材などに広く使われている。また、モールド成形品は、シリコン独自の耐熱性、耐薬品性、耐候性などが活かされ、機能部品としてのニーズが多い。

平成28年3月には、シリコンゴムとセラミックを融合したセラミック培養栓「セラミックルーク」を開発し、研究機関や大学の実験現場から注目を集めている。本自社製品は、通気性・耐熱性を活かして完全な滅菌処理を可能にした、微生物の培養栓としての需要が高い。



シリコンWゴム栓/
N371Wゴム栓

Cキャップ

シリコンチューブ

<代表的な製品>

押し出しゴム製品	モールド成形品
<ul style="list-style-type: none"> ●シリコンチューブ ●シリコン異形押し出し品（丸棒、凸凹、U字など） ●シリコン押し出しスポンジなど 	<ul style="list-style-type: none"> ●シリコンゴム栓/Wゴム栓 ●シリコンキャップ/Mキャップ ●シリコン安全ピペッター ●シリコンスポイト栓 ●シリコンポリスマンなど
自社開発製品＝セラミック培養栓「セラミックルーク」 「培養通気栓、蓋体キットおよび培養通気栓用の枠体」 （特許第5982607号）	

組織開発に取り組み生まれた成果をさらに発展させる

平成29年に3代目の代表取締役に赤塚弘美氏が就任。現在、MACC プロジェクトの若手経営者の会「新二アス会」の会長を務めており、区内企業をはじめとする新たな連携にも積極的だ。

先代からの「顧客ニーズに応える製品づくり」という経営方針を引き継ぎ、常に自社を取り巻く環境を見つめ、材料調達や販売先との関係構築に努めている。その結果、コロナ禍やウクライナ問題下により周囲が販売力の低下や材料の入手不足で売上を減少させていく状況下でも、自社の売上や利益に大きく影響を受けることはなかった。

荒川区の推進する3S活動に会社を挙げて取り組んだ結果、「生産性や品質が向上し、従業員に整理整頓が身につき、在庫管理が上達した。」と、赤塚代表取締役は確実な成果を感じ取り、今後の組織開発やSDGsなどの社会課題にも積極的に取り組んでいる。



パイオニアの開発力で、他社では作れない独創的製品を顧客と共につくる！

シリコンゴム製品のパイオニアとして、シリコンゴムを加工する基礎技術を蓄積するとともに、素材のシリコンゴムに様々な機能を加える製品開発力が持ち味。その独創的な開発力を駆使して、市販品にはない、顧客の求める独自製品を生み出すところが強み。

職人の技術と小回りできる多種・少量の生産・営業体制を整えて、顧客と一緒にになって製品設計や図面の段階からアイデアを出し合い、材質の選定も行って納得いくまで試作を繰り返す対応にも定評がある。

◎主な保有設備

- シリコンチューブ押し出し機
- ゴムロール
- ゴムプレス
- 熱風乾燥機
- ゴム切断機 他

大東工業株式会社

TEL.03-3893-4551 FAX.03-3893-4820
URL <http://www.gearpump.co.jp/>

代表者：代表取締役 井上 浩

所在地：〒116-0011 荒川区西尾久7-52-1

資本金：6,000万円

従業員：80人

創業年：昭和10年

業種：産業用機械製造業

事業内容：各種ギヤポンプ、各種給油装置等
の製造販売

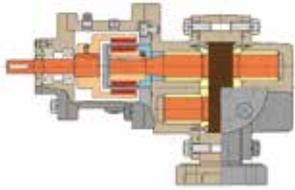


井上 浩
代表取締役

「ギヤポンプー筋90年」を掲げるトップメーカー

創業以来90余年、液体を移送するギヤポンプー筋である。国産第1号のオイル用ギヤポンプを独自開発したのを原点に、技術を磨きに磨いて、トップメーカー体制を確立している。「どんな液体でも、どんな条件でもポンプ移送する」がキャッチフレーズで、これを実現させるために多くの困難にも挑戦し、乗り越えてきた。汎用品が中国を始めとする海外で多く作られる中でも、「高仕様・短納期・高付加価値」をモットーに、最新のテクノロジーを導入して特殊ギヤポンプを作り続け、なくてはならない企業としての地位を盤石にしている。

平成19年に4代目社長として井上浩氏が経営を引き継いでからは、HP（ホームページ）にも力を入れ、HP制作会社と提携しながら、技術者をうならせるHPを全世界に発信している。



MC 構造図

シールレスギヤポンプが大ヒット

製品づくりは、本社工場と埼玉工場機種を分担して生産している。ギヤポンプは多品種少量の宿命にあるが、専門・集中生産を行って効率化し、工場の稼働率は高い。主力製品は、「シールレスギヤポンプ」である。液漏れのしない完全密閉式であることが特徴の新製品で、発売と同時にヒットし、一躍主力製品に躍り出た。完全密閉なので、環境に優しく、危険物移送などにも適している。また、従来品には必須であった、シール（液体や気体を外部に漏らないようにする部品）を無くす構造を構築しているため、シールを交換する手間が省けることも特徴で、24



MC(微量)型 カップリング直結式



MC型 ギヤードモーター直結式

時間操業を行う企業からの注文も多い。今後は、更に飛躍するため、シールレスギヤポンプの研究を重ね、耐熱化・更なる高圧化・大型化といった改善を果たし、より技術開発力を向上させていく。

あらゆるニーズに応える技術力

あらゆるタイプのギヤポンプを最高水準の技術力で製造できることが一番の強みである。どのようなタイプ、サイズ、規格、容量でも要望に応じて製造でき、オイル、ケミカル液、食品、医薬品、塗料、溶剤、廃液等あらゆる液送が可能である。これは、80年を超える社歴で培った技術があってこそ可能であり、その技術は、日本のみならず世界中のユーザーから高い評価を得ており、南極観測やニュートリノ検出の際にも用いられる。

また、短納期と低コストも強みである。この強みは、基本型ポンプを軸に何種類ものギヤポンプを体系化し、ユーザーの求める組み合わせをセールスエンジニアでもある営業マンが直接選定するセミオーダー体制を整えることで実現している。

これらの強みが「ギヤポンプなら大東工業」と言われる経営環境を築き、ユーザーは1,000社を超える。

主な納入実績

- ・東京スカイツリー 非常発電燃料供給ポンプ
- ・南極観測隊 昭和基地 燃料供給ポンプ
- ・南極観測船 しらせ 消化用ポンプ
- ・日本経団連本部ビル 非常発電燃料供給ポンプ
- ・みずほ銀行本店 非常発電燃料供給ポンプ
- ・成田空港 燃料供給ポンプ
- ・東北大学 ニュートリノ検出用溶剤供給ポンプ
- ・東京消防庁 化学消化用ポンプ
- ・東京ミッドタウン日比谷 非常発電燃料供給ポンプ

主な認証・実績等

- ・第1回荒川区新製品・新技術大賞最優秀賞（荒川区長賞）受賞
- ・平成25年度東京都経営革新最優秀賞 受賞

TAKAHASHI 株式会社タカハシ

TEL.03-3806-5682 FAX.03-3803-1549



高橋 弘明
代表取締役

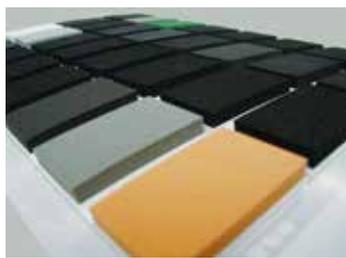
代表者：代表取締役 高橋 弘明
所在地：〒116-0014 荒川区東日暮里6-3-5
資本金：1,000万円
従業員：約10人
創業年：昭和23年
業種：ゴム製品製造業
事業内容：打ち抜き加工、各種工業用品販売、不動産管理等

進化する町工場を目指して(加工業を進化させる作戦)

工業用品の販売をメインに昭和23年に創業した。平成15年には、社名を「株式会社タカハシ」に変更、加工製品を製造販売する「商社」を看板に掲げている。現在は、高橋弘明氏が3代目社長として経営を采配している。町工場では最速レベルでISO9001：2008から2015年度版の認証を取得するなど、町工場全体のレベルアップを見据えた企業構想を具体的に展開している。主力製品である“ゴムスポンジワッシャー”（発泡材の打ち抜き加工製品）は数千種を数え、防振・緩衝の用途で広く使用されている。取り



企業外観



ゴム発泡材

引先の殆どが自動車業界のため、大ロット多品種を得意とし、月産数千万個の製品を提供している。その為、社内管理に対しては、独自のマネジメントシステムやIT技術を駆使して社内一貫管理システムを熟成させるなどの仕組みを確立させた。今後も更なる顧客価値創出とQCD向上を目指し会社全体を良くする取り組みを進めていく。

した完全自動化を目指し“インバウンドから世界と戦う会社”の構築に臨む予定である。

事業構造の改革にも取り組む方針で、事業構造の改革については、取引先のほとんどが大手企業様であることを生かし、他業界にも進出、事業の柱に育てることを目指していく。

会社社是である“商人魂、三方よし”、“パートナーとして共に成長をする”を基に営業戦略を進め、パートナーとして周囲にモノづくり企業が多く材料の仕入れが早い等という利点を活かして、共に成長を続けて行く事を目指す。

業務管理能力による効率化・信頼獲得



当社の強みは、業務管理能力の高さとパートナーとして、お客様と共に成長をする事。家族経営の小規模な企業故に小回りも利く為、至急の問題解決に対応することが出来る。管理に関しては業務管理システムを独自に開発している。日常受注、生産、品質データを入力することで、日々の作業表の完成やトレーサビリティの徹底を実現している。よって進捗管理も時間を取らずに回答や対応が可能である。

品質に関しては製品のみならず技術、経営に至るまで改善を目指している。お客様に当社をパートナーとして上手く使って頂き、手間なく安心して安全で確実な製品を購入して頂くことを顧客価値と認識している。

◎主な保有設備

- ・単発プレス4台・順送プレス機2台 パーティカルカッター1台 カットングプロッター1台 レーザー加工機1台 CNC旋盤1台 CNCフライス1台 自動検査機1台 等

◎主な認証・実績等

2016年4月 ISO9001：2008より
ISO9001：2015へ再認証取得

※ Q：Quality、C：Cost、D：Delivery

「加工業」を進化させる作戦

社の特徴としては、“女性の職場”として、女性が活躍できる工場環境作りを目指している。特に現場仕事においては環境整備を日常的に改善し、働きやすい環境整備をしている。

今後はQCD*向上を柱に改善業務を進め、工程自動化への挑戦、更なるIT技術の革新（社内一貫管理システムの熟成）、IoT技術の導入によるデータ分析と蓄積したデータ解析等で改革を目指す予定である。最終的にはAI技術を導入

28

“こういうモノがあったらいいな” を形にするモノづくり

有限会社武井工業所 (タケイ工房)

TEL.03-3801-0290 FAX.03-3801-8112
URL <https://takei-k.com>



武井 昭彦
代表取締役

代表者: 代表取締役 武井 昭彦
所在地: 〒116-0002 荒川区荒川3-31-3
資本金: 300万円
従業員: 3人

創業年: 昭和36年
業種: 金属製品製造業
事業内容: 医療用機器・理化学機器・精密機械の製造・
自社製品(健康器具、介護製品等)の製造・販売

「BtoC」製品市場で活路を開く

創業は昭和36年。創業者が医療機器の鋳造製造を開始して以降、医療機器関連のモノづくりを多く手掛け、その後理化学機器分野にも参入して、精密な板金プレス加工を得意とする事業基盤を固めた。

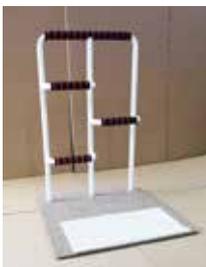
昭和55年に先代の秀夫氏が2代目、そして令和2年に昭彦氏が3代目として経営を引き継ぐ。先代の時代に薬事法・薬機法の改正などの影響で、医療機器業界への新規参入が増えて競争が激化。既存市場だけでは業容縮小を余儀なくされていたため、得意な技術と設備を活かした製品開発に力を入れ、個人客が対象の「B to C」(一般消費者向け)市場に本格的に進出して、活路を開いてきた。

ヒット商品! 立ち上がり補助手すり「立つ之助®」

平成23年、MACCプロジェクトの分科会「健康福祉ビジネス研究会」への参加をきっかけに、高齢化時代に対応した製品開発に注力。東京都立大学(旧 首都大学東京)・健康福祉学部の新田収博士の協力を得て、ベッド・寝具からの起き上がりを補助する介護手すり「立つ之助®」を開発。スチールを使用し、人の体重がかかっても倒れにくい構造のため安全性に優れ、工事不要な点、持ち手にグリップを付けたり、板の上に敷くマットと滑り止めをサービスで付けるなどのちょっとした工夫が評価されている。

当社では、使用者の利便性を考慮し、「立つ之助®」シリーズのバリエーションを広げ、自社ホームページで順次紹介している。下の写真は、令和4年に開発・令和5年より販売している、現在一番需要の高い商品2品。ボルダリングのように下から順に交互にパイプを握ることで布団から立ち上がる「ボルダー」(左側)と、2本目の手すりの角度を調整することで立ち上がった後のひと足をそれぞれ左右0度・45度・90度と5段階の違う方向への歩行を助ける「のび太」(右側)。令和5年から立つ之助®「愛」「ラブ」「元気」が荒川区のふるさと納税の返礼品に採用されている。

全国各地の介護施設や一般家庭からの注文も相次ぎ、ECサイトでもヒットを続け、年々売上げが伸びている。



立つ之助®「ボルダー」



立つ之助®「のび太」

暮らしに便利な製品を追求

当社の製品づくりは、家業とする板金プレス加工技術を磨き、医療機器・理化学機器関連の製作で培った高い品質。職人道に徹し、「世の中のために少しでも貢献できる製品をつくる」との気概で、福祉用具以外にも家庭で使われるカトラリー製品なども順次開発・販売してきた。

地球温暖化による災害が各地でも多発していることに危機感を覚え、令和5年には、SDG'sにも考慮した段ボール製の組立式「非常用簡易トイレ」を開発。1分で組み立てられ、省スペースでの保管が可能な低価格商品と好評である。



非常用簡易組立トイレ



非常用トイレセット

今後も、歴代社長から続く経営理念「絶対に手を抜かない製品づくり」をもとに、暮らしに便利なモノを追求し、「手づくり品を創る職人の工房」を目指していく。

「絶対に手を抜かない」職人道

医療・理化学分野の機器製作から技術を積み重ねてきた板金加工事業者である。家族経営だが、「精密加工、精密仕上げ」をモットーに、職人道に徹した製品づくりが持ち味。自社開発のオリジナル製品は、暮らしに役立つ便利なモノが主体。今後も「こういうモノがあったらいいな」から生まれる自社製品を充実させ、一般消費者向けの「B to C」市場に展開していく。

◎主な保有設備

- ・タレットパンチプレス(富士機工製)1台
- ・プレス機(AMADA製、30t及び15t)各1台
- ・ベンダー(AMADA製、35t)1台
- ・シャリング(相澤製、4.5t)1台
- ・バリ取り機(富士機工製)1台
- ・溶接機(ダイシン製及びPanasonic製)3台

◎主な認証・実績等

- ・平成24年度 MACC 感謝状贈呈
- ・令和4年度 非常用トイレセット 区長より感謝状贈呈
- ・令和5年度 非常用簡易組立トイレ 区長より感謝状贈呈
- ・商標: 立つ之助®(登録第5493620号)



29

バフ研磨に関わる磨きを追及し、サービスを提供する コンシェルジュ(課題解決支援)企業



Chuo-Buff MFC

有限会社中央バフ製作所

TEL.03-3895-4762 FAX.03-3895-6245
URL <https://www.chuo-buff.com>



倉澤 諒
代表取締役社長

代表者：代表取締役社長 倉澤 諒
所在地：〒116-0001荒川区町屋1-26-5
資本金：300万円
従業員：10人

創業年：昭和30年
業種：バフ研磨工具の製造・販売・開発
事業内容：バフホイルの製造・販売・開発
バフ研磨・表面処理加工業務
バフ関連機械・研磨工具の販売

バフ研磨“専門”を進化させる事業展開

社名の通り、創業者の倉澤森三氏が高級な金属製品や貴金属の研磨に威力を発揮するバフ研磨の将来性を確信して創業した。以来、研磨用バフ一筋。2代目の倉澤正行氏が、高度成長期を通じて爆発的に普及した腕時計や指輪などの貴金属用の研磨バフで事業基盤を固め、その技術力が評価されて歯科器材のバフなどの分野でも顧客層を広げた。3代目で現・代表取締役の倉澤 諒氏も「専門業者の鋭い感性で技術研さんに努め、顧客サービスに徹する」経営を基本に、バフ研磨専門の強さを進化させ、バフ研磨に関わる課題をすべて解決する<バフコンシェルジュ>という独特の企業体制を整えて、時代ニーズに対応する事業展開を図っている。

ものづくりの新業種<バフコンシェルジュ>企業

コンシェルジュとは、お客さまのあらゆる要望に対応する仕事人のこと。その看板にふさわしく、同社は多様なニーズが交錯するバフ研磨の分野で、コンシェルジュサービスを提供する事業体制を整え、それを基本業務に据えた新たな業態<コンシェルジュ>企業を確立した。

研磨に関連する業種は、研磨を自社内で行うか、アウトソーシングするかに分かれるが、その両方のニーズに応えるために、情報ネットワークを構築し、その情報力でユーザーサービスの差別化を図っている点に特徴がある。

具体的には、バフホイルメーカーとバフ商社としての一般的なつながりだけでなく、エンドユーザーとの交流を深め、顧客からの問合せを大切に、新鮮な研磨情報にすばやく対応し、顧客仕様のオンリーワンのバフの提供や最適な研磨方法を提案できるようにしている。

製造・販売面では、16mmの豆バフから450mmの大型バフまで多様な規格サイズに対応するとともに、マシン縫製技



術を使った特殊用途のバフ、小型形状の貴金属の磨きに対応した軸付バフなど、評判となった製品は数多い。

磨き業としては、バフ研磨にとどまらず、電解研磨やバレル研磨を駆使して、表面加工全般の高品質の磨きを追及し、ステンレスやアルミのほか、ABSやアクリルなどの樹脂研磨も手掛け、サービス範囲を広げている。

スモールメーカーズの真髓を追及!

3代目の倉澤 諒氏は、新世代のネットワークを構築して、事業展開に新味を増している。MACC プロジェクトの分科会「あすめし会」に加わって経営学を実践し、産学連携による新事業・新商品開発を模索中。

今後、ニーズの掘り起こしに主眼を置いて、伝統技術を最新化しつつ、「機敏に動くスモールメーカーズの感覚を伸ばし、多品種・少ロットの製品づくりとバフコンシェルジュの戦略で活路を拓いていく」方針だ。



バフホイルメーカーの枠を超えた製・販・サービスの三位一体で<磨き>のニーズに応える!

バフ研磨の専門企業である。60年を超える社歴を刻んで積み重ねた技術とネットワークを基に、多様なバフホイルを製造販売する「メーカー」、研磨工具を手配する「商社」、バフ研磨や表面加工を請け負う「磨き業」の三位一体の事業展開が特徴。また、都内で唯一、研磨剤の含浸処理設備を完備し、自由自在のバフ作製が得意である。自慢のフットワークで現場に出向き、研磨のコンシェルジュとしてフェイス to フェイスのサポート業務を売りにしている。

30

環境を守る帝国インキ



帝国インキ製造株式会社

TEL.03-3800-9911 FAX.03-3800-9919
URL <http://www.teikokuink.com/>

代表者：代表取締役社長 澤登 信成
所在地：〒116-0011 荒川区西尾久8-43-2
資本金：9,500万円
従業員：280人(海外除く)

創業年：明治28年
業種：化学工業品製造販売業
事業内容：印刷用インキの製造販売・
印刷関連資機材の販売



帝国インキ製造
株式会社事業本部

スクリーン印刷用インキのトップメーカー

明治28年の創業以来、インキ専門メーカーとして126年の業歴を有する老舗である。時代のニーズに合わせて、カーボンインキや減感インキなどを扱ってきた。目下の売上高の90%を占めるスクリーン印刷用インキの分野では日本一の売上を誇り、スクリーン印刷の高精度化を目的に作り上げた全く新しい「高精彩スクリーンインキ」で2016年世界発信コンペティション 東京都ベンチャー技術特別賞 及び2017年第29回中小企業優秀新技術・新製品賞 一般部門 優秀賞 に選定されました。

タッチパネル用インキを用いたカバーガラス

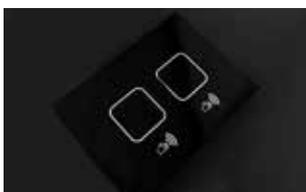


500点以上の見本色を載せるカラーガイド

当社で開発されたスクリーン印刷用インキは高い機能性を誇り、インキと樹脂を一体化できる「インモールド成形用インキ」、鏡のような光沢を出す「鏡面光沢インキ」、熱や光に強い「高耐候性インキ」、スマートフォンなどに使用される「タッチパネル用インキ」などがある。

これらの機能性インキは、皆様のライフスタイルにさらなる彩を添え、暮らしの豊かさ、社会へ価値の提供で貢献している。

製品は、各種家電製品の操作パネル表示、自動車のメーター類表示、スマートフォンへの加飾、自転車のステッカーなど、耐久性が求められる工業製品に用いられることが多く、製品の価値向上に寄与している。



赤外線透過インキを利用した非接触センサーパネル印刷物



手をかざすとブルーのデザインが表示される

地球的視野に立つ経営

今後は、インキを通じて人と社会が調和するやさしい関係を築くことに更に注力していく。そのためのポイントとなるのが、環境・健康対策である。現状でも環境や健康を守る姿勢に関しては絶対に他社には負けたくないと言いきり、より一層環境・健康にやさしいモノ作りに徹していく構えである。

また、製品の半分以上がアジアを主要とする海外に輸出される他、マレーシアと中国、インドに100%出資会社を、タイに合併会社を持つ当社は、海外進出をより一層押し進める構えである。印刷資機材の販売から技術相談までの一貫サービスを中心に、グローバル規模で販路の拡大、新規事業の開拓を推進していく。

研究開発に注力し、ニーズに応える



当社の強みは、インキ一筋の研究開発に注力し続け、当社ならではの製品を開発できる研究開発力である。

研究開発部門に従業員の約20%が所属し、色彩・画像形成に関わる問題解決、新しい価値、便益の提供を行っている会社です。近年は様々なセンサーがスマートフォンや自動車などに搭載され、私達の生活を便利にしています。当社はこれらのセンサーの高機能化や、センサー機能を阻害せずに加飾して付加価値を付ける事に寄与している。

今は、国内だけでなく、海外へ向けて展開し、ソリューション型ビジネスを世界のお客様に提供する体制を構築している。

◎主な認証・実績等

- 平成10年 山梨工場 ISO9001 認証取得
- 平成13年 山梨工場 ISO14001 認証取得
- 平成18年 彩皇(上海)精密化学有限公司 ISO9001、ISO14001 認証取得 三鷹シクマ ISO9001 認証取得
- 平成19年 T3C シクマ ISO9001 認証取得
- 中小企業庁「元気なモノ作り中小企業300社」に選定

株式会社寺製作所

TEL.03-3892-7866 FAX.03-3892-7877
URL <http://www.tera-ss.com>



寺 健次郎
代表取締役社長

代表者：代表取締役社長 寺 健次郎
所在地：〒116-0012 荒川区東尾久1-15-3
資本金：1,000万円
従業員：16人
創業年：昭和12年
業種：機械装置製造業
事業内容：ステンレス製の省力機器・試験機・反応装置・理化学機器・食品衛生容器の製造・販売、ステンレス製品の設計・製作

ステンレス製容器で技術力を発揮

創業は飛行機の部品や船灯の製作に始まり、81周年を刻む。ステンレスが新素材として登場した時代からステンレス製容器の製造技術を培い、金属容器メーカーの独自路線を歩んでいる。2代目の寺紘一氏（現・顧問）に引き継いでからは、金属容器の製造と関連する機械装置の製作などの技術領域を広げながら食品、製薬、化学分野を中心にユーザー企業を増やし、事業基盤を拡充した。現・代表取締役の寺健次郎氏は3代目。平成25年から経営を采配し、多様化するユーザーニーズに応える製品づくりを看板に、家業の金属容器、機械装置に関連する製造技術を磨きつつ、ユーザー獲得に新たな戦略を展開し始めている。

特注対応の製品づくりが得意

半世紀ほど前の“ステンレス製品創成の時代”からステンレス製容器の製作を手掛け、そこで培われた容器製造技術がベースになっている。最近ではチタン、ハステロイ製容器も手掛け、樹脂やガラス製品の加工も扱う。製作するタンクの板厚は0.6mmの薄物から9mm程度の厚みまで対応。仕上げ処理は酸洗浄、バフ研磨、電解研磨などの処理が中心だが、テフロンコーティング処理やライニングタンク処理なども行う。

容器は、用途に応じて種類も多種多様で、圧力容器、攪拌容器、恒温槽付きジャケットタンクや特殊ユニットなどを手掛ける。その材質、厚み、形状、そして容量を問わず、1台から設計・製作するうえ、図面がなくても設計図を描き、容器を製作し、納期まで対応するのが大きな特徴。

標準品からオーダー品まで対応

本社・工場（建て面積1230平方m）には、各種プレス機器や自動溶接機、天井走行クレーンなどを備え、タンク類やヘラ絞りピーカーなどの標準品から特別注文のオーダー品の製作までを一貫生産する体制にある。特注品では、食品、製薬・医療、化学業界を中心に、様々な用途の充填容器や、圧力容器、各種タ



3t角型貯水槽

ンク、医療保管棚、野菜洗浄機などの製作した実績を持つ。海外メーカーを含めた既存客からのリピート注文に加えて、新用途開拓、新規顧客獲得に力を入れているところだ。



120Lストレージタンク

お客様ニーズに応えるモノづくりを追求

今後も、「社業発展を支える技術の源泉は、お客様の声」との創業の精神を引き継ぎ、「様々な要望を聞き、そこから何が最善なのかを追求し、その想いを製品に詰め込んで、お客様が満足する製品を提供する」（寺健次郎・代表取締役）が基本姿勢。加えて、2年ほど前からMACCプロジェクトに参画して異業種連携、地域交流を強めており、「事業展開の幅を広げ、お客様のニーズに応えられる新時代のモノづくり企業を目指す」方針。

お客様の声を聞いて、設計図を起こし、最良の製品を提供する!

工業分野を中心に様々な用途を広げているステンレス製容器の製作で50年余のキャリアを持つ。ステンレス加工のほか、チタンやハステロイ（ニッケル合金）などを素材にした多種多様な容器製品も手掛ける。「こんな容器がほしい」というお客様の要望を受け、ご希望の用途・製品イメージから設計図を起こし、最良の製品を提供する。お客様の仕様、容量に合わせた一品生産を得意とし、他社にはできないオーダーメイドの製品づくりを持ち味にしている。

▣主な保有設備

各種プレス機、絞り製造機、プレスブレーキ等、各種溶接機、天井走行クレーンなど



モーター始動に関する悩みを解決。 始動器周辺のこと、全てお任せください！

電光工業株式会社

TEL.03-3892-4121 FAX.03-5692-7224
URL <http://www.denkoh.com/>

代表者：代表取締役社長 河邊 幸孝
所在地：〒116-0012 荒川区東尾久2-41-5
資本金：3,000万円
従業員：24人

創業年：昭和21年
業種：モータ始動器製造販売業
事業内容：モータ始動器の製造・販売



河邊 幸孝
代表取締役社長

あらゆる場面で活躍している

昭和21年、モータ及び始動器・制御器等の修理から事業をスタートした。その中で、これらの機器が始動時に故障し易いことに着眼して、独自構造の無接点始動器開発を始めた。以来約70年以上モータ始動器の専門メーカーとして優れた製品を世に送り出し、揺るがない地位を築いている。

発電所・新幹線線路・道路・トンネル・空港・上下水道設備などの社会インフラ、東京スカイツリー・横浜ランドマークタワー・東京ミッドタウン・ドーム球場・超高層ビルなどのビッグプロジェクト、プラントや工場などの製造設備など日本全国様々な場面で当社の始動器は活躍している。

自社製品を広く普及し、社会に貢献していく

平成23年3月に経営を引き継いだ河邊幸孝社長は、「必ず社会貢献できる自社製品を広く普及していく」と語り、省エネ・省コストに大きく貢献できる製品を持つが、世に伝えきれていないという現況を改善するための取り組みを進めている。

具体的には、省エネ高効率モータ専用始動器を新製品として送り出す予定である。これは、モータの省エネ化が義務付けられる法的規制が開始されることに対応した新製品であり、モータの買い換えが進む中で販路の拡充が狙える。

東日本大震災や地球温暖化の進行に伴い、これまで以上に電気・電源の重要性が叫ばれる中で、省エネに大きな貢献ができる当社製品は必ずや大きな注目を集めるであろう。



工場内の様子



川口工場
(連絡先 048-296-4211)

経済性・省スペース・省エネに 大きく貢献する「始動器」



モータ始動器の専門メーカーとして、始動器を徹底的に研究していることが強みである。始動器専門のメーカーは国内唯一であり、その技術力や開発力で右に出るものはいない。使用環境に応じて適材適所の始動器を提案できるよう多種のラインナップを抱えており、その中でも可変電圧始動器「Vスター」は、世界最小の始動容量を実現している。モータを直入り始動させる場合は通常の運転時に比べ6倍以上の始動電流が必要といわれる中で、「Vスター」は直入り始動の4分の1程度の始動電流に抑える。そのため、パワーが弱く小型の発電機であっても必要な始動電流を確保することができ、経済性・省スペース・省エネに貢献することができる。この製品は社会からも高く評価されており、「内閣総理大臣賞」や「黄綬褒章」など数々の華々しい受賞に繋がっている。



Vスター



動力制御盤

◎主な保有設備

高圧屋外受電盤 1基 交流発電機 8基・試験用誘導電動機 高圧7台、低圧12台・試験用負荷 ブロワー 4台・巻線機 1200・1500・耐圧試験用変圧器 5KVA 200V/50000V 一式・自動巻線機 1200・500・コンプレッサー・天井クレーン 2t、1.5t・天井クレーン 1.5t・フォークリフト 1t・絶縁ワニス真空含浸自動装置・真空自動乾燥装置

◎主な認証・実績等

- 昭和41年 第1回全国中小企業団体総連合表彰大会にて、総裁賞受賞
- 昭和42年 第19回東京都主催優秀発明展にて、科学技術庁長官奨励賞受賞
- 昭和48年 創業者が黄綬褒章授章
- 昭和52年 第18回全日本中小企業輸出見本市にVスターを出展し、内閣総理大臣賞受賞 他、表彰多数
- 平成25年 ISO9001 認証取得
- 平成26年度 荒川区環境区民大賞受賞



株式会社東京ベル製作所

TEL.03-3893-5741 FAX.03-3800-5081
URL <http://www.tokyobell.co.jp/>



市村 晃一
代表取締役

代表者：代表取締役 市村 晃一
所在地：〒116-0011 荒川区西尾久4-8-4
資本金：4,650万円
従業員：27人
創業年：昭和24年
業種：金属製品製造業
事業内容：自転車用ベル、ダイカスト鑄造、ディスプレイ製品

自転車ベルのリーディングカンパニー

創業は昭和24年。業界を代表するベルメーカーであり、当社の「TB」ブランドは自転車用ベルの国内シェア60%を占める。年平均120万個を製造するトップメーカーの地位にあるが、20年以上前から製品輸出に乗り出し、海外においても知名度が高い。年平均50万個を輸出し、技術供与も行うなど、自転車部品のグローバル化の一翼を担っている。

また、未来を見据え、積極的な経営展開を進めており、MACCプロジェクト主催セミナーやあすめし会へ参加することで知識の向上やネットワーク構築を図るほか、経営革新にも取り組んでいる。

あすめし会メンバーであり平成23年11月に社長に就任した市村晃一氏は、あすめし会で得たものを活かし、更に積極的な経営に取り組んでいくと語る。



自転車ベル
チビ丸フリーハンド（左上）
チビ丸PROとチビ丸POP（左下）
クリスタルベル（右上）

自転車用ベルだけの会社ではありません

25年以上前から業種転換を図っており、成熟化した自転車産業以外の新たな事業分野の開拓に意欲的に取り組んでいる。その中で、スーパーや小売店舗の店づくりを演出するディスプレイ製品は今や経営の大きな柱に育っている。

また、開発会議にて提案・開発された「熊避けベル 森の鈴」は、本体を上下に引くことで簡単に音をon/offできる機能を付加し、登山への移動中などにベルがうるさいという登山者の悩みを解決した。同製品は、



熊避けベル
森の鈴

消音機能付き風鈴

当社として初の登山用品の開発であったが、機能性の高さに加え、積極的な売り込みによる販路開拓が功を奏し、順調な売り上げを記録している。

話の通る真面目な町工場



製品開発力・デザイン力に優れていることが当社の強みの1つである。この強みは、従業員だけでなくデザイナーを交えての開発会議を月に2回実施していることから生まれており、当社で開発された自転車用ベルのデザイン性は海外でも高く評価され輸出を拡大している。特に人気なのが、世界最小の小さなボディから大きく澄んだ音を出す「チビ丸」シリーズや、グッドデザイン賞を受賞し、ニューヨークの近代美術館のショップでも販売されている「クリスタル・ベル」である。



本社外観

また、小ロットから大ロットまで対応できることも強みである。希望があれば、1個からでも製造を行っており、世界に1つの自転車用ベルを製造することや、ノベルティーとして製造することも可能である。

長年に渡り自転車用ベルに注力してきた実力に加え、短納期、コスト、品質にも対応してきたことで顧客からの信頼が厚く、安定した受注を実現している。

◎主な保有設備

- ・プレス機 (5t～60t) 14台
- ・シャーリング 1台
- ・ベンダー 1台
- ・ボール盤 3台
- ・パイプベンダー 1台
- ・溶接機 3台
- ・バーベンダー 1台
- ・卓上グラインダー 3台

◎主な認証・実績等

- ・通産省選定 グッドデザイン中小企業商品賞受賞・大阪デザインセンター選定 グッドデザイン商品
- ・ブリジストンサイクル、パナソニックサイクルテックへの納品
- ・第9回TASKものづくり大賞奨励賞受賞
- ・第12回TASKものづくり大賞優秀賞受賞
- ・第13回TASKものづくり大賞奨励賞受賞

絶対的なプロのデザインで 結果の出せる広告創り



東京アドハウス トーコーアドサービス株式会社
(東京アドハウス)

TEL.03-6806-8451 FAX.03-6806-8459
URL <http://www.ad-house.net>



オリジナルイラスト作ります



高橋 照治
代表取締役社長

代表者: 代表取締役社長 高橋 照治
所在地: 〒116-0014荒川区東日暮里6-56-6
長戸ビル4階
資本金: 1,000万円
従業員: 4人

創業年: 昭和62年
業種: 広告代理業
事業内容: 販売促進ツールやWEBサイトの企画・制作・管理、デザイン業務全般、新聞折込や求人広告の企画・制作

業務の多角化が進展

大手新聞社系の広告代理店に勤めていた高橋照治・現代表取締役社長が独立し、会社を立ち上げてから創業37周年を迎える。バブル経済崩壊以降も高橋氏のキャリアと人脈で、都内をはじめ首都圏に多くのクライアントを持ち、新聞折込み広告、チラシ、求人広告での経営基盤をもとに、デザインワークを広げてきた。

15年ほど前からは、企業ブランディングの第一人者のもとで経営ビジネス・デザインを学んだ、高橋氏の娘の河内美由紀氏が経営に参画。



河内 美由紀氏

クライアントは多種多様な業種

取り扱う広告宣伝業務は、集客のためのチラシ制作から新製品を開発した企業の戦略的パブリシティまで幅広く展開。

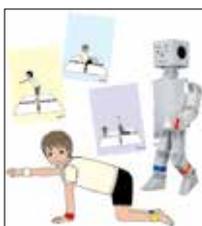
オリジナルブランドの制作、新規事業などのサポートが大幅に増え、商品の企画からデザイン（ロゴ、プロダクションデザイン、写真撮影、販売促進物のデザイン）までを手掛ける。オリジナルイラストの制作も得意。

新商品開発

「一つ一つの広告を丁寧に創り上げていく」ことを重視している。

その一つとして、東京都立大学（旧 首都大学東京）の新田収教授が監修した、発達障害児のための「運動イメージテキストキット」を共同で制作した。主に発達障害児の感覚と運動イメージをテストし、評価することを目的にしたもので、MACC プロジェクトが推進する産学連携の成果ともなっている。

また、名古屋市にある衛生材料商社と「温泉ビューティフェイスシート」(温泉水を浸



運動イメージテキストキット



温泉ビューティフェイスシート

み込ませるフェイスパック)を共同開発、写真撮影からデザインワークまですべて手掛けており、制作だけでなく温泉と美容・健康を融合したPR活動も演出。

更には、同じMACC 会員企業の石川金網株式会社が開発した画期的新製品「おりあみ/ORIAMI」(金網を素材にした折り紙)の本格販売に向けて、企画から参加。そのデザインすべてを担当、新製品のデビューに重要な役割を果たしている。



おりあみ/ORIAMI



WEBサイトのデザインから構築まで社内で制作



看板関係・窓や車、案内板のカッティングシートが人気



SDGsへの取り組みもスタート



企業紹介・製品・サービス紹介動画の撮影・編集も好評です

デザイン力を売りに、「結果の出せる広告創り」にこだわる!



広告宣伝のお手伝いをする会社である。こだわりは「結果の出せる広告創り」の追求。お客様の依頼、狙いを徹底的にお聞きして、パンフレット・カタログ・チラシ・ホームページなどの多様な媒体のデザインを提供し、時代背景や業種環境に沿ったプランやツールを随時提案する。業態は販売促進のプロモーションから動画・イラスト制作の撮影も行う。



株式会社トネ製作所

TEL.03-3895-7791 FAX.03-3895-7808
URL <http://www.tone-ss.co.jp/>



利根 通
代表取締役社長

代表者：代表取締役社長 利根 通

創業年：昭和36年

所在地：〒116-0001 荒川区町屋8-13-6

業種：金属加工業

資本金：1,000万円

事業内容：精密板金加工、金属プレス加工

従業員：15人

顧客の厚い信頼を得る

先代社長（現社長の父親）の個人事業の時代を経て、昭和44年に有限会社トネ製作所として発足した。以来、精密板金加工一筋で50年。この間、最新の機械設備と熟練の技能に基づく高品質なモノづくりに徹して、顧客の厚い信頼を得て今日に至る。現在、各種建築物の自動ドア駆動金具、ATM（現金自動預払機）の機構部品、電車ホームドアの機構部分をはじめ、多種多様な板金加工品を製造している。令和元年6月には同社初のB to C（対消費者）製品となる生卵かき混ぜ器具「ときこち」を商品化した。B to B（企業間）とB to C二つの市場を開拓し令和の新時代を駆け抜ける。

同社本社工場を訪ねると、レーザー複合加工機、タレットパンチプレス、NCベンダー加工機をはじめ各種の工作機械が、所狭しと並んでいる。中には、他社に先んじて導入した新鋭



新鋭機が揃った工場内

機も少なくない。最新の機械群と、半世紀の間、この道一筋を歩んだことで培われた熟練の技能・ノウハウ。その合わせ技により、顧客の要求水準を上回る高品質なものづくりを続けてきている。

初のB to C製品「ときこち」を発売

そんな同社が設立50周年に当たる令和元年に、初のB to C製品「ときこち」を世に出した。ときこちは中程度のスプーンほどの大きさで、その先端部分の形状がミソ。楕円と正円の二つのリングが重なったような恰好をしていて、二つのリングで卵の白身と黄身を切るようにかき混ぜると、白身の塊が残らない滑らかな溶き卵ができあがる。

「私の妻が、白身のドロツとした部分が苦手で、どうしたらドロツとした部分を



卵かきませ器具「ときこち」

なくせるか、試行錯誤を繰り返し、ときこちに行き着いた（利根社長）と、消費者・ユーザー目線で生み出した同品は、テレビ東京「WBS（ワールド・ビジネス・サテライト）」の人気コーナー「トレたま」や、日テレ「ぶらり途中下車の旅」、ケーブルTV「あらまるNEXT」で紹介されるなどで急激に認知度を高めている。同社では、卵かけご飯、卵焼き、オムレツ、すき焼きなど、卵を使う料理で広く活用できるとみて、一般家庭向け、飲食店向け、ギフト用など広範な需要を掘り起こしている。

なお、パッケージや印刷物は荒川区内の企業にて製作協力してもらおうなど、荒川区の絆でときこちは作られている。

顧客が顧客を呼ぶ好循環つくる

顧客の注文に応えるだけでなく、顧客の気が付かない点にも目を配り、改善を提案するといった「提案力」が強みだと自負している。提案するには、最先端の技術、知識が必要なため、設備投資にはかねてより力を入れている。都内で初めての最新鋭機を導入したこともある。一方、どんな最新鋭機でも最後は人手により仕上げる部分が残るので、人材の育成が欠かせない。当社にはベテラン、中堅、若手が揃っており、技能伝承を常に心がけている。最新鋭機と社員の技術・ノウハウを駆使し、最良のモノづくりに励み、顧客に納めることで、顧客が顧客を呼ぶ好循環が生まれている。

◎主な保有設備

ディスクレーザー複合加工機（TruMatic 3000 fiber）1台、CO2レーザー複合加工機（TRUMATIC L 2530 Plus）1台、タレットパンチプレス（EM255NT）1台、110tプレス機（OBS110他）2台、NCベンダー（TruBend7036、FBDⅢ8020NT、FBDⅢ5012NT、HDS 5020NT）各1台

究極の卵かけご飯を作るツールの板金加工プロセス。

精度の高いレーザー加工と職人の研磨技術で作る最高の「ときこち」。
紹介動画へのQRコード



36

UV特殊印刷とグッズ製作の2本柱を確立

TOMINAGA 株式会社トミナガ

TEL.03-3806-1321 FAX.03-3806-1984
URL <https://www.tomi.co.jp>



富永 護
代表取締役

代表者：代表取締役 富永 護
所在地：〒116-0014 荒川区東日暮里3-1-12
資本金：1,000万円
従業員：45人

創業年：昭和39年
業種：印刷関連業
事業内容：オフセット印刷(UV・厚紙)、
オンデマンド印刷、UVインクジェット、
レーザー加工

東日本大震災時の苦い体験が新事業につながる

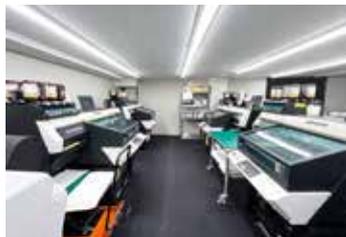
昭和39年に写真凸版製版工場として発足した。以来、製版事業で培った色再現技術を基盤に、DTP(デスクトッププリプレス=パソコンを使った製版)、オフセットカラーUV印刷(紫外線照射で硬化するUVインク使用の印刷)、オンデマンド印刷、UVインクジェット印刷などを次々と手がけて今日に至る。



工場外観

「東日本大震災の発生の3月は当社の書き入れ時にもかかわらず、地震後は仕事がばたっと止まってしまい、しばらくは本当に大変だった」。2代目の富永護代表取締役はあの平成23年をそう振り返る。大震災時の苦い経験から、従来の紙媒体への印刷事業のほかに、もう一つの柱となる事業が必要だと判断した。

富永社長が新たに踏み出したのが、キャラクターグッズ事業である。この新事業では、UVプリンターやレーザー加工機を駆使して、アクリル板などに印刷→形状カッティング→袋詰めの一貫生産により、アニメ人気キャラクターのアクリル製3次元グッズなどを製造する。



キャラクターグッズ事業の印刷機

新事業を立ち上げて丸9年が経過した。その間にUVプリンターもレーザー加工機も当初の5倍に増設し、生産方法を見直すことで、当初は3,000個作るのに1か月を要したが今では1日ででき、売上も10倍以上に増えたという。令和3年10月に手狭となった専用工場も移設した。「おかげさまで、本業の紙媒体の印刷事業と新規のキャラクターグッズ事業のどちらも順調に推移している。令和2年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で赤字を覚悟したが、下期にキャラクターグッズ事業がこれまでにない売上増となり、何とか総合で黒字になった。キャラクターグッズ事業はその後も年々売上が伸び、外注に任せる仕事も増えている。」と、富永社長は笑顔で近況を語る。富永社長の先見の明により、2つの事業がバランスの取れた企業経営に直結している。

回 主な保有設備

- 通常印刷部門
 - ・プリプレス：MAC編集機、自動検版機
 - ・印刷：菊版半裁判UV5色機、同UV4色機、同油性4色機2台、オンデマンド印刷機、自動インク計量機
 - ・製本：断裁機、6羽根BZ折機、自動計数機、筋押し機、角丸裁断機、カッティングプロッタ1台
- キャラクターグッズ部門
 - ・フラットベットUVインクジェットプリンター 5台、
 - ・レーザー加工機5台 ・ガメントプリンター 2台

“うるさい注文”をこなし、リピーターをつくる

紙媒体への印刷事業は、デジタル化や紙離れが逆風となり、多くの同業他社が厳しい状況に置かれているのに、当社が順調な理由は何なのか…。富永社長は「“うるさい注文”にもきっちり対応することが評価され、仕事を依頼いただく。顧客の大半が何度も注文いただく常連客で、これは高評価の証し」と分析する。うるさい注文とは、厳密な色遣いが要求される販売用の印刷物など。当社では、生産性は落ちてても品質を重視し、微妙な色の確認等検品は必ず人の目で行っている。また、中には「発注が今日で納品が明日」という超短納期の依頼もあるが、それらの注文にも対応。都内自社工場に構築した編集→印刷→調整の一貫生産体制により、難度の高い仕事をこなし、常連客を増やし続けている。



UVオフセット5色機

多様な市場の印刷需要に応えるため、令和4年に、デジタル時代にふさわしい1億円超の最新のオフセット印刷機を導入し、更なる高品質化と生産性の向上を図った。それが功を奏し、令和5年の売上拡大につながった。

最初の東京五輪の開催年、昭和39年(1964年)に立ち上がった当社は、山あり谷ありの半世紀余りを乗り越えて、令和3年に2度目の東京五輪を迎えた。富永社長は「社員のみなが長く働ける会社であることが第一で、そのために安定して利益を出し続けることが必要」と、思いを語る。常に市場を読み、業界にどのような波が来そうかを逐次つかみ、その対応への努力も欠かしていない。

2本柱を確立し安定収益の基礎を築いた感もあるが、富永氏は「令和6年1月には創立60周年に向け経営基盤をさらに強固にしたい。その先には100年企業への道筋も見えてくる」と先々を見据えている。

顧客の満足を表現する



『好品質(Love Quality)、短納期(Quick Delivery)、都内工場(Tokyo Factory)』が当社の強みだと捉えている。品質が高いだけの高品質ではなく、顧客それぞれの要求にぴったりフィットするのが「好品質」。印刷とは何かについて、単に情報を紙に載せるというより、「顧客の満足を紙メディアに表現するもの」と捉え、そうした観点から打ち出したのが好品質だ。スピードを求める顧客には短納期で応えるのも好品質につながる。

都内に立地する自社工場での一貫生産や近隣の印刷/製本会社との協力・連携により、顧客の「すぐ欲しい」の要望にきっちり対応できていると自負している。

NEXT ONE nanoda ナノダックス株式会社

TEL.03-6806-8501 FAX.03-6806-8502
URL <https://nanodax.com>



佐藤 勲昌
取締役社長

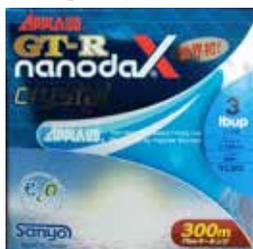
代表者：代表取締役 藤田 鉦則
所在地：〒116-0012 荒川区東尾久4-21-19
資本金：1,000万円
従業員：6人

創業年：平成19年
業種：プラスチック成形材料製造業
事業内容：高機能樹脂強化GW材の開発・製造販売
樹脂材の改質・強化等に関する研究開発、
など

世界を相手に戦える自社製品を新たに創出

前身の会社の化学技術による製品開発部門を分社化し、長年研究を重ねてきた二酸化炭素超臨界技術の事業化を目的に、平成19年に設立。ナノ化技術を用いた製品のローンチを目指すことから、社名は「nanodax®」とした。

自社技術の社会貢献を探る中、ナイロン釣り糸やテニスラケットのガットの表面に二酸化炭素超臨界技術をコーティングすることで、耐摩耗性や伸度を増強して品質向上に繋がり、それぞれ大手メーカーへの技術供与に至った。釣り糸は、当社ブランドで全国の釣具専門店等にて売上を伸ばしている。また、テニスラケットのガットは、大手メーカー名製品として表面処理加工を請け負いプロ用に採用され、4大会優勝者の使用実績も加わり、国内外での評価も高い。



断熱材のグラスウールとの出会いで新分野展開

各種建築材料や高機能材料を製造する多国籍企業であるフランスのサンゴバン社から当社の両親媒性ナノフェノールを合成した高機能樹脂改質技術が評価され、その子会社であるマグ・イゾベル(株)とグラスウールの新用途開発に着手し、平成22年樹脂との複合樹脂組成物化に成功。さらに、平成28年には、冷蔵庫の断熱材の端材を熱可塑性樹脂の機能性材料としてアップサイクルを実現した。

今後の製品開発や販売強化を見据え、積極的に知財戦略を進め、既に日本をはじめ中国、韓国、台湾等アジア諸国7か国、米国、EU6か国で特許取得済みである。



本技術による自社製品第1弾として、平成30年に3Dプリンター用のフィラメント「3Dmagic®」を製品化し、本製品が東京オリンピック2020の表彰台の材料に採用された。



射出成形機用洗浄剤パーシ剤「ecomaru®」

続く第2弾として、令和元年には、射出成形機の高機能洗浄剤「ecomaru®」を製品化した。本製品は、国内のみならず海外市場を見据えた販売戦略を採り、国内外の展示会にも積極的に出展。既に、台湾の世界最大EMS企業やドイツに本社を置くかっこ世界のトップクラスの自動車機器サプライヤーで採用され、その他世界各国より取引要請も多く、現地代理店を通じての販路は年々拡大している。

創業以来ファブレスメーカーとして事業展開してきたが、令和5年3月には愛知県小牧市に新たに自社の生産拠点を設け、継続的な製品改良研究を進め、さらなる品質向上と、生産効率の改善による顧客満足度の増大を図っている。



新たな生産拠点の外観

「とんがった技術」が世界市場にイノベーションを起こす

創業者である藤田鉦則会長から引き継がれた人脈のみならず、その礎により、後継者の佐藤勲昌社長もさらなるイノベーションを図り、自社の技術力や知的財産を武器に、自社の可能性を楽しみながら、次なる事業展開に向けて着々と突き進んでいる。

- イソップ寓話「アリとキリギリス」のように、小さな企業でもできることからコツコツと日々精進することで、大企業を凌ぐ存在に成長できる
- 自社でできないことは実現できる他者と組めばよい
- 中小企業は、スピード感が命である

回主な認証・実績等

- 第6回 荒川区新製品新技術大賞最優秀賞受賞【ecomaru®】
- 第4回 荒川区新製品新技術大賞 優秀賞受賞【3Dmagic®】
- 世界発信コンペティション2019年度 製品・技術部門 奨励賞受賞【3Dmagic®】
- 平成25年プラスチック成形加工学会 第1回技術進歩賞受賞「グラスウール強化熱可塑性樹脂の製造と応用技術」

知的財産

- 特許：成形機洗浄用の洗浄剤および洗浄方法(第6488433号)、その他26件
- 商標：ecomaru® (登録第6277530号)、その他3件

日建塗装工業株式会社

TEL.03-3801-2165 FAX.03-3807-7139
URL <http://www.nikken-toso.co.jp/>

代表者：代表取締役社長 砂田 耕作
所在地：〒116-0002 荒川区荒川7-18-2
資本金：1億円
従業員：81人

創業年：昭和22年
業種：その他の金属表面処理業
事業内容：ふっ素樹脂・PEEK樹脂・
その他スーパーエンプラ等による機能コーティング



砂田 耕作
代表取締役社長

金属表面コーティングのスペシャリスト

昭和22年に創業し、創業約75年を迎える。当初は、建材の塗装を主に行っており、建築の現場で活躍する塗装業であった。転機は昭和30年代後半、これからは付加価値が求められる時代と考え、金属表面のコーティング業へのシフトを図ったことによる。業態転換への挑戦が実り、昭和41年にデュポン社指定加工ライセンス工場として認定され、ふっ素樹脂による各種工業用品のコーティングを開始したことをきっかけに大きく飛躍した。

その後、昭和43年に米国以外で初めてデュポン社から Industrial Applicator として指定を受けたが、この地位に満足せず、研究開発を続けてきた。その結果、摺動性に優れた PEEKCOAT®、離形性に優れたノンスティックコーティング、耐熱性に優れたセラミックコーティングなど、多様な高機能なコーティングを開発してきた。又、近年では、熱溶着金型の離型に特化した「Thermo Pro Release (サーモプロリリース)」を開発した。



本社



春日部工場

付加価値の高い製品を作っていく

企業理念である「立数」（数字は経営の鏡である。これにしっかりと立ち合い、客観的に見ることが重要である）を念頭におき、これからも積極的な経営を行っていく。ニーズが多様化し、技術力も日々進歩していく中で、積極的な経営を行うためには、「他社と同様な製品を作っていないかたがない」と考え、付加価値の高い新製品・新技術を開発し続けていく構えだ。そのためには、開発力・技術力・情報が欠かせない。

「どこにも負けない研究開発力と技術力」を獲得し強みを

より一層強化することに加え、異業種交流会などの機会も活用しながらアンテナを広くして情報収集を行い、目標を実現させていくという。

コーティングにより製品に機能性を付与する



耐蝕性



キズ防止性



耐摩耗性



非粘着性



様々なコーティングのニーズに対応できる 研究開発力・技術力

当社は、「今までにない製品を開発し続けることが企業の未来に繋がる」と考え、創業時から研究施設を設けている。この考えが現在まで引き継がれ、業界でもトップクラスの研究開発力を持ち、数多くの特許も取得している。顧客のニーズに柔軟に対応できるこの研究開発力こそが強みであり、当社の成長をもたらしてきた。

また、技術力も強みの1つである。大きさも形も材質も異なる様々な品物に高品質なコーティングを行うためには、機械のみで対応することはできず、熟練職人の技術力が必要不可欠となる。当社では、研修などを通じて、技術力を磨く機会を積極的に提供しており、人材育成に注力している。

☐主な保有設備

・真空焼成炉 2台・連続炉 4台・バッチ炉 16台・クリーンルーム設備 2ヶ所・プラスト機 10台

☐主な認証・実績等

・ISO9001：2015 認証取得
・ISO14001：2015 認証取得・特許 多数取得

39

国内唯一のエボナイト素材工場！ オリジナル万年筆「笑暮屋(えぼや)」も好評！



株式会社日興エボナイト製造所

TEL.03-3891-5258 FAX.03-3891-5259
URL <http://www.nikkoebonite.com/>



遠藤 智久
代表取締役

代表者：代表取締役 遠藤 智久
所在地：〒116-0002 荒川区荒川1-38-6
資本金：1,000万円
従業員：16人
創業年：昭和27年
業種：ゴム製品製造業
事業内容：エボナイト製品製造

下請けからの脱却

「エボナイト樹脂」この存在を知る人は少なくなった。エボナイトとは天然ゴムと硫黄を混合・加熱することによって出来る硬質ゴムで万年筆の軸材や木管楽器のマウスピース等の材料に使われている。かつてはボウリングの球や電球のソケットにも広く使われていたが、石油系プラスチックに代替されて、国内メーカーは当社だけとなる。エボナイト以外の工業用ゴム製品の下請け製造も需要が減少、規模の縮小も余儀なくされた2007年、MACCに入会。様々なセミナーや



ギターピック「シーラカンス」

展示会、産学連携プロジェクト等を経て、2008年経営革新計画の認証取得、「下請けからの脱却、BtoC市場への挑戦」をテーマに商品開発をする事となった。

オリジナル万年筆「笑暮屋(えぼや)」の誕生

商品開発はカラーエボナイト棒の開発から始まる。苦勞の末、開発に成功したカラーマープルエボナイト。「これを商品化しよう」と、杖、三味線の撥、ハンコ、ギターピックなど様々な商品開発を検討した末に、万年筆製造にたどり着く。轆轤(ろくろ)職人に協力を仰ぎ、軸を製作。万年筆修理職人にペン先の調達、取り付けを依頼し、2009年3月荒川区産業展に出展・販売を行い実績を上げた。「これは事業になる」と確信し、WEBショップを立ち上げ、各種展示会にも出展。百貨店バイヤーの目に触れることとなり、2011年には三越等の百貨店の催事に呼ばれ、知名度が上がっていった。2014年には工場に隣接した万年筆ショップを開店。国産万年筆ブランドとして国内外で話題となる。



「笑暮屋」の万年筆

明日の飯の種を創る「あすめし会」

荒川区は2008年、「荒川区産業活性化のためには後継者の育成が不可欠である」との観点から、MACCの分科会とし

て「あすめし会」を発足し、後継者の経営力向上のため、勉強会や工場見学会などを行ってきた。2012年には自主運営に移行、会の代表として当社社長の遠藤智久氏が就任し、各種勉強会(オープンセミナー)や交流会(下町サミット)等を開催するようになった。

23区の経営者をつなげる「下町サミット」

次に「あすめし会」は、東京23区の若手経営者等が交流、意見交換、相互理解、情報発信するための場として、「下町サミット」を開催。開催場所を23区各地に移しながら、若手経営者が連携して企画から開催までを一貫して行っている。「下町サミット」はこの活動により、23区内外の若手経営者の経営力の向上及び地域産業の活性化に寄与することを目的としている。



下町サミット

世界中に広がるエボナイトの輪

エボナイトメーカーは世界でも2、3社しか存在しない。ならば海外でもエボナイトを欲しがっている人はいるはず」と2011年より海外向けBtoBマッチングサイトに掲載。競合他社に比べ「品質が良い」「デリバリー対応が迅速」と高く評価され、年々顧客数を増やし、売上の2割を占めるほどの事業となっている。今後もこれに更に拍車をかけ「世界シェアトップ」を目指す。

回主な保有設備

・真空成型機2台・成形機18台・ガスボイラ2基・ロール4台・裁断機2台・恒温槽3台・押し出し機5台・加硫缶3台・NC旋盤1台・轆轤旋盤2台・ベンチレース3台・バッファー2台・フライス盤1台・ボール盤3台・切断機2台・溶接機1台・粉碎機1台・粗砕機1台

回主な認証・実績等

・第三種電気主任技術者・第3回、第4回TASKものづくり大賞奨励賞・経営革新計画認証取得(2回)・実用新案「2WAYセラウエッジ」・日本橋三越本店、新宿伊勢丹本店、ロサンゼルスペンション他出店・平成22年荒川区長より「MACC会員企業感謝状」受贈・第1回荒川区新製品・新技術大賞優秀賞受賞



40

独居老人などの見守りで、 社会のニーズに対応

Net M! 株式会社ネットミル

TEL.03-6240-8561 FAX.03-3894-2632
URL <https://www.netmil.jp/>

代表者：代表取締役 吉川 裕

所在地：〒116-0011 荒川区西尾久5-7-12

資本金：800万円

従業員：8人

創業年：平成23年

業種：通信サービス業

事業内容：独居高齢者の安否確認・

見守りサービス



吉川 裕
代表取締役

特許技術で、スムーズな見守りサービスを実現

同社は志幸技研工業（株）の子会社として平成23年に発足した。電力・電気工事を主力事業とする志幸技研が、ひと味違うサービス事業を立ち上げるために㈱ネットミルを設立した。

ひと味違うサービスとは、いわゆる「見守り」に関するサービス事業で、一人で暮らすお年寄りの安否確認などを、独自開発のシステムを用いることでスムーズに行えるようにした。

開発したのは、一般財団法人・電力中央研究所の特許案件をベースに新たな発想やノウハウを加えたシステムで、(株)ネットミルが独自に特許を取得している。その仕組みは、見守り対象となる住居の電気使用量を把握、分析することで、居住者の生活状況を推察して、もし異常だと思えたら、警備会社などに通報し適切な対処につなげるというもの。電気使用量に関しては、使用総電力量と人が主体的にスイッチ操作を行った時に発生する電力量の両方を同時に計測・解析することで、見守り対象者の生活状況が分かるようにした。



生活リズムをグラフ表示

同社では一連のサービス/システムを社名と同じネットミルと名付けて販売してきている。平成26年に荒川区で採用されたのを皮切りに、徐々に普及浸透しており、納入実績は令和元年の夏時点で、全国で1000件の大台に達している。

異常はもちろん、日常の把握も可能に

その令和元年夏、見守りサービスの一層の効率化・簡便化を図れる新装置を「ネットミルお元気安心システム」として市場に投入した。同装置は電力会社のスマートメーター（次世代電力量計）から電力データを無線で受け取って、そのデータをネットミルシステムのサーバに送信する機能を持つ。従来装置が、主に見守り対象者宅内の分電盤に据え付けるタイプなのに対し、無線化により、据え付け場所を選ばず、据え付け作業が不要など、スピーディーでスムーズな見守りサービスに直結する。また、サーバで解析された情報から見守る側へ「お元気情報」としてメールが毎日自動で配信され、これにより常に日常生活をリアルタイムで把握することが可能になる。

今後も独居高齢者が増え続けるのは必至であることから、同社では、電力会社、アパート等のオーナー・管理会社や、行政機関、各種高齢者施設などの需要を掘り起こしていく。さらに他社の見守りサービスが異常情報に照準を合わせているのに対し、同社サービスは、「異常情報を待つのではなく今の生活を見ることが出来る」（吉川裕代表取締役）との特徴を生かして、災害時の安否確認をはじめ、さまざまな用途開発も進めていく方針だ。



新装置「ネットミルお元気安心システム」

知的財産で守られたハード、 ソフト両面の成果を生かす



技術における独創性や先見性では他社に負けないものがあると自負している。いい例が、開発間もない無線タイプのネットミル。スマートメーターのデータを無線でキャッチし、電気の使用状況を、ほぼリアルタイムで把握できるようにした装置で、スマートメーターのA、B、Cの三つのルートのうちBルートを使っている。AとCはそれぞれ発電、新電力用となっていて、BがHEMS（ホーム・エネルギー・マネジメント・システム）向けだが、Bルート使用の事例は極めて少なく、当社が1番手か2番手なのでは。そのほか、エアコンの利用状況をリモコンのオンオフ操作からつかめるようにする仕組みも開発した。また、収集、蓄積された各ユーザーの電力使用状況はビッグデータといえる量になり、その分析から新たな知見も得られるようになってきた。こうしたハード、ソフト両面の成果物を生かし、増大する見守りサービスのニーズに応えたい。

◎主な認証・実績等

- ・平成24年 ネットミル商標登録
- ・平成30年 見守りシステム特許取得済
- ・令和4年 見守りシステム（Bルート）特許取得済



能田電気工業株式会社

TEL.03-3806-1161 FAX.03-3806-3933
URL <https://www.no-da.co.jp/>



井上 有子
代表取締役

代表者：代表取締役 井上 有子

所在地：〒116-0003 荒川区南千住5-25-9

資本金：1,275万円

従業員：18人

創業年：昭和6年

業種：電気工事業

事業内容：電気設備工事、関連設備機器の
製造・販売・施工、建設業

名所・池袋サンシャインビルの指定業者

創業は昭和6年。戦後、電気設備工事の業態を明確にし、昭和54年に能田舜二氏が2代目に就任してからは、先進的な経営で電設工事業者としての専門技術の幅を広げ、事業拡大に弾みをつけた。

なかでも、業界他社に先駆けてコンピュータを導入し、電気設備の設計・施工に関する業務を電算化して、信頼性を高め、一般住宅、マンション、オフィス、工場、商業施設、公共施設などの工事請負先を広げた。

その象徴が、昭和55年に東京の名所「池袋サンシャインシティ」の電気系統を管理する指定業者となったこと。多くの店舗やオフィスが入居する同ビル内に営業所を設けて、技術者が常駐し、今日まで無事故の管理を続けている。

環境改善、省エネ、防災につながる改修に注力

バブル経済の崩壊で業界が低迷する中で、オリジナル製品の内照式看板「プリズムボード」を商品化し、JRや地下鉄、私鉄の駅構内に採用された実績もある。

平成21年には、経済産業省中小企業庁が選ぶ「元気なモノづくり中小企業300社」にも名を連ね、その年に、舜二氏の長男の能田浩一氏が3代目に就任。大手建設会社で修業し、1級建築士の資格を持つ3代目は、多様な顧客ニーズに丁寧に対応してビジネスチャンスを広げる戦略を重視し、「サービス業」というスローガンを宣言。

東日本大震災以降は、環境省が進める環境経営システム「エコアクション」を自社経営に取り入れ、現在も環境や省エネ、防災に関する技術を顧客サービスに役立てている。

人的資本経営に注力

平成28年5月に、浩一氏が急逝。妹の井上有子氏が事業を承継し、4代目として経営を引き継ぐ。小さい頃から暮らしを支える電気設備工事の家業を身近に見ていたので、「ライフラインに携わる仕事」との基本に立ち、「社員

一人一人が生き生きと楽しく働ける会社」をビジョンに掲げている。

電設工事業界を取り巻く環境の変化に柔軟に対応して、社員からの提案受け入れ・若手技術者の育成の加速・資格取得や研修会への積極的な参加・表彰制度等を通して、前向きで柔軟な考え方のできる人材を創出し、よりきめ細やかな顧客傾向の事業を展開する考え。



街ゼミ風景

100年企業を視野に進化

主力の電設工事は、オフィスビルや工場などの受変電設備をはじめ、無停電装置、自家発電・節電・通信機器、防災・防犯、セキュリティ工事など多様。その技術力は、池袋・サンシャインビルをはじめ、荒川区役所など官公庁施設、東京都住宅供給公社の集合住宅メンテナンスで実績を積み、民間のマンション・工場・商業施設などの修復工事でも評価は高い。

新規顧客開拓はもちろんのこと、既存の顧客へのよりきめ細やかな対応を心掛け、世の中の支えである電気というライフラインを“安全・安心”に機能させる技術を誇りに、創業100周年を一つの通過点として目指している。

子供たちに夢を与え、社員のモチベーションアップも

2021年より「荒川区 街なか商店塾（通称：街ゼミ）」に参加。

イベントを通して、子供たちにモノづくりの楽しさ、電気工事体験や電気工作への興味を持ってもらうことで、「未来の技術者育成」と「地域振興への貢献」をしている。

また、若手の社員が子供たちと関わることで、いかにして子供たちにわかりやすく伝えるか等を試行錯誤し、モチベーションアップにも繋がっている。これからも地域貢献を通して電気工事業のおもしろさ、素晴らしさを発信していく。

◎主な認証・実績等

中小企業庁「元気なモノづくり中小企業300社」認定、東京都水道局表彰、(公社)発明協会表彰、東京電力(株)東京支店優秀電気工事店認定、環境省表彰ほか、優良業者認定(工事業者部門/他区)



社内研修風景



社内表彰状

強
当
社
の
み
の

長谷川ジャバラ

株式会社長谷川ジャバラ

TEL.03-3805-3154 FAX.03-3806-4413
URL <https://www.hasegawajb.jp>長谷川 正範
代表取締役

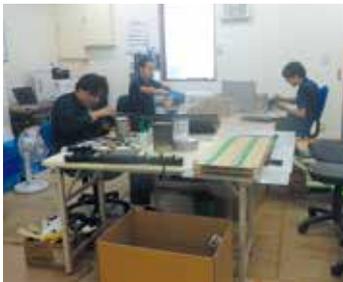
代表者：代表取締役 長谷川 正範	創業年：昭和29年
所在地：〒116-0014 荒川区東日暮里1-24-4	業種：機械・部品製造
資本金：1000万円	事業内容：蛇腹の製造、販売
従業員：42人	

社名は製作所→蛇腹製作所→ジャバラに

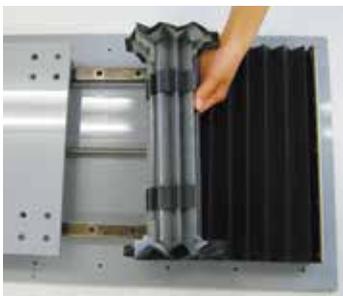
掃除機のホース、列車の連結装置、アコーディオン、提灯…。蛇の腹のように伸縮することが名前の由来となる蛇腹は、日々の生活の身近なところで広く使われている。(株)長谷川ジャバラは、社名が表す通り、蛇腹の専門メーカー。とくに、各種工作機械をスムーズに稼働させるためのカバー用蛇腹を得意とし、機械メーカーなどに数多くの蛇腹関連品を納入してきている。「この機械には、こういう服を着せたい」といった思いが原点(長谷川正範代表取締役)と、社長以下、蛇腹づくりのプロたちが、顧客ニーズに合致するオーダーメイド製品を日々、開発・製造してきている。

同社の創業は昭和29年で、革製の蛇腹、ベルト、パッキングなどを製造する長谷川製作所として立ち上がった。事業を進めるに連れて蛇腹のウエートが高まったことから、昭和41年、長谷川蛇腹製作所に、同57年には長谷川ジャバラにそれぞれ商号を変更。今日では通称、「ハセジャバ」の蛇腹屋さんとして広く知られるようになっていく。

広範なジャンルで使われる蛇腹だが、ハセジャバが力を発揮するのは工作機械などの駆動部分をカバーする蛇腹だ。機械を動かすためのボールねじやリニアガイドは、裸のままでは粉塵や切り粉が付いて、動作不良につながりかねない。そこで“動くカバー”としての蛇腹が不良防止などで大きな役割を担うことになる。



手作業が欠かせない蛇腹づくり



機械カバーに用いる蛇腹

顧客の言う通りには作らない

多種多様な形状で、動きも千差万別な機械類にどんな蛇腹カバーを、どう付けるか…。長谷川代表取締役が唱える「こういう服を着せたい」とのアイデアが沸々と湧いてくるのが長年、蛇腹づくりに取り組んできた同社ならではの言葉。

長谷川氏は「父親や叔父から、顧客の言う通りには作るなど教わった」と、奥義の一端を打ち明ける。その心は、大半の顧客は蛇腹に関しては素人でよく分かっていないので、顧客のオーダーを上回るベストソリューションを提案し形にするのがハセジャバの役目、ということか。

ベストソリューションを形にした数々の実績が、同社の評判を高め、その守備範囲を広げている。現在、工作機械のほかロボット、計測機器、医療機器、半導体関連などからも注文が舞い込んでいる。ホームページを通しての注文・問い合わせも少なくない。毎日、さまざまなジャンルから何件もの照会が寄せられるという。

同社では本社工場とつくばみらい工場(茨城県つくばみらい市)の2拠点で蛇腹づくりに励んでいる。今後の方向性については「動くカバーで、世界中の困っている人を助けたい。また、国内の景気に左右されない経営体制を確立したい(長谷川代表取締役)と、海外進出にも意欲を示している。

長年の蛇腹づくりで土台を築く



オーダーメイド方式が当社ビジネスの基本。オーダーメイドには、各顧客の相談に乗れる土台が欠かせないと思っており、その面で、当社にはしっかりとした土台が築けていると自負している。長年の蛇腹づくりを通して培われた技術、ノウハウが大きな財産となっているわけだ。1個だけから小ロットまでの注文に対応しているが、ものによっては中ロットにも対応している。生産のキモは、蛇腹づくりはどこまで行っても人の手が関与すること。そこで、そこが他の製品とは異なる点。そのため、一朝一夕で身につくものではなく、専門メーカーの当社が活躍できる分野だと思っている。

花嫁わた株式会社

TEL.03-3803-3311 FAX.03-3891-3167
URL <http://www.8743-rebello.com/>



吉村 祐介
代表取締役

代表者：代表取締役 吉村 祐介
所在地：〒116-0014 荒川区東日暮里6-49-18
資本金：1,000万円
従業員：26人
創業年：明治14年
業種：寝装具製造販売業
事業内容：布団のリフォーム

布団打ち直しのトップメーカー

創業は明治に遡り、社歴140年を超える。長年布団の製造販売を行っていたが、大量消費時代を迎えたことで、平成2年に前社長が実質的に前身の経営を精算した上で、布団打ち直しの専門企業という新しいビジネスモデルを確立し、経営を一新した。



リフォーム洗浄後の羽毛

「情」という価値の提供、家庭粗大ゴミのトップである布団を焼却しないことによる環境問題への貢献、当社独自のノウハウ等が評判を呼び、業界の首位を走り続けている。



リフォーム洗浄後のわた

あすめし会メンバーでもある現社長が平成21年に経営を引き継いでからは、IT化を進め、システムチックな体制の構築を推進し、営業効率を格段に改善する等コールセンターの設置やIT化の推進、価格改定など、顧客満足の向上の為に更なる改善を重ね、「常に価格・品質等を見直し、感動を提供し続ける」経営を展開している。



リフォーム後のふかふかになった布団

更なる感動の提供を目指す

更なる感動を提供するための積極的な取り組みとして現在、力を入れているのが、リフォームしたわたを布団を包む生地に入れる際、手作業で形を整える「手入れ」だ。職人の手でわたの繊維の向きを整え、人の体に合った分量で配置することで、機械では実現できない体に吸いつく絶品の布団が完成する。

また、「情」を大切にする企業として、東日本大震災の際は、被災地以外からわたの布団を集め、打ち直した布団を被災地に無償で提供する活動(モット Hot プロジェクト)を実施し、

多くの感謝の声が寄せられた。

MACCと連携し、リフォームの工程でわたにストレスを与えず洗浄することができるミスト洗浄機を開発したことも、感動を提供するため当社が行った取り組みの1つである。

今後は、「ゆりかごから墓場まで」希望される布団を提供することを目指して、「手入れ」により製造する新品の布団製造販売にも取り組む構えだ。



3つの部門でNo.1を獲得!!

「情(じょう)」という価値を提供



過度な競争による価格破壊と消費低迷により布団販売が厳しい状況に追い込まれている中で、当社が行う布団を新品同様に蘇らせるサービスは、「情」という新たな価値を提供している。「親から貰った布団だから大切にしたい」「もったいない」といった、潜在的には誰もが持っている『大切にしたいという想い』に応えられる企業であることが当社の強みである。

この想いに応えるため、エリアを限定せず、どのような種類の布団にも対応できる体制を整えている。これは、同業者の中でも非常に数少ない特徴であり、秘訣は営業・物流・ITのみを自社で担当し、その他の運搬や実際に打ち直しをする作業はアウトソーシングしていることである。提携工場は、元来布団製造を行っている工場であり、既存の設備を用いてリフォームを行うノウハウを提供されることで、製造の仕事が減る中でも当社からの仕事が増え活況を呈しており、Win-Winの関係を築いている。

◎主な認証・実績等

環境省第1回パイロット事業(2003年度)エコアクション21(環境活動評価プログラム)合格(同年10月登録)

44

プラスチック製品づくりの「信頼できる工場」は
意外と近くにある！

有限会社 広沢プラスチック工業

TEL.03-3803-6293 FAX.03-3803-2197
URL <https://www.hirosawa-plastic.jp>

代表者：代表取締役 広沢 嘉彦

所在地：〒116-0002 荒川区荒川4-16-12

資本金：300万円

従業員：4人

創業年：昭和44年

業種：プラスチック製品製造業

事業内容：熱可塑性樹脂の射出成形、熱硬化性樹脂の直圧成形、金型設計製作



広沢 嘉彦
代表取締役

柔軟な生産システムで顧客ニーズに応える

昭和44年に、前・代表取締役の広沢喜八郎氏が創業して以来、プラスチック製品づくりの一本道である。昭和時代の高度成長期を通じて、専門メーカーとしての独創技術を蓄積し、熱可塑性樹脂の製品が大半を占める業界の中で、熱硬化性樹脂の製品づくりも手掛けて事業領域を広げ、多様なユーザーニーズに幅広く対応する体制を築いた。



創業当初から荒川区内に工場を構え、環境に配慮した都市型工場として製造設備を効率的に配置し、受注から出荷までの柔軟な生産システムを編み出して、工業用プラスチック製品の厳しい品質管理をクリアする技術力も持つ。

電機、機械、医療分野を中心にしたユーザーからは「技術の幅が広く、製品づくりが器用」との評判だ。

小ロット生産、手の平サイズの製品づくりが得意

複数の射出成形機を配置して、熱可塑性樹脂を射出成形・加工している。設置している成形機は、容量が80㏄と50㏄の設備。射出可能体積は最大130㏄で、手の平に乗るくらいの小型の部品製作に適している。

取り扱うロットは、おおむね数百～数千程度の多品種・小ロットの注文に柔軟に対応。樹脂と金属類を一体成形する「インサート成形」を得意としている。さまざまな形状・用途の部品を効率的に製作し、短納期で提供できる。さらに、多様な樹脂の成形品だけでなく、金型の製作も請け負う体制を整えている。

精密なうえ耐薬品性・耐熱性が求められるレントゲン装置やMRI（磁気共鳴画像診断装置）、AED（自動体外式除細動器）など医療機器の部品が多い。

自社ブランドの確立を目指す

現・代表取締役の嘉彦氏は、MACCの「あすめし会」に参加するなどして、社外にネットワークを広げ、新事業・新製品開発にも取り組んでいる。

群雄割拠のプラスチック産業の中で、「素材、デザイン面の研究を進め、自社にしかできない製品づくりを迫る」方針。

競合他社が廃業していく中、3Dプリンタを使い金型代の生産コストを抑え「小ロット」にも応え得る体制を整えつつある。

また、自動化装置の開発にも意欲的。まずは自社内の工程を自動化、そのノウハウを利用し他社へのコンサル等にも使えるような仕組みを考案中。

2024年には、事業拡大のため開発拠点を埼玉に移して、「暮らしに直結する最終製品を狙い目に、自社ブランドを確立したい」と“脱下請け”への成長路線をイメージしている。

熱可塑性樹脂と熱硬化性樹脂に対応するオールマイティーの製品づくり！

「熱可塑性樹脂」と「熱硬化性樹脂」の両方にオールマイティーに対応する。多様なエンジニアリングプラスチックや汎用プラを扱う中で、ポリサルフォン（PSF）・PPS・PEEKなどの耐熱温度や物性の高いスーパーエンブラ、ABC樹脂・ポリカーボネート（PC）などエンブラを使った精密なプラスチック製品で豊富な実績を持つ。また、真ちゅう・アルミ・ステンレスなどを使用したインサート成形にも定評がある。顧客ニーズを満たす製品づくりがモットーで、多品種・少ロットの注文にも迅速に対応し、形状や樹脂の選定段階から相談できるのも強み。製品サイズは100g程度までの小型部品の製造を得意とし、社内で成形できない案件は取引ネットワークを駆使して対応するワンストップ体制も整えている。



平和商事株式会社 平和商事株式会社

TEL.03-3893-6631 FAX.03-3810-1606
URL <http://www.heiwapack.co.jp>竹前 友勝
代表取締役

代表者：代表取締役 竹前 友勝
 所在地：〒116-0012 荒川区東尾久5-39-17
 資本金：1,000万円
 従業員：11人

創業年：昭和11年
 業種：紙器製造業
 事業内容：包装用・進物用紙器容器の製造・販売、
 包装資材の販売、包装関連用品の企画・デザイン

業歴87年の紙器メーカー

創業 1936 年で、今年 88 年となる紙器の専門メーカー。板紙や薄手の段ボール等を使用した包装用・進物紙器容器を製造・販売している。主な顧客は和菓子・洋菓子店での他、金属部品や化粧品等を入れる函等、多岐にわたる。

現・代表取締役の竹前友勝氏（42 歳）は 3 代目で 10 年前に事業承継した。経験・技術を活かしつつ『中に入るもの（＝顧客の製品・商品）が購入され最終消費者にたどり着くまでの価値・質を高めること』が企業理念であると語る。

函(ハコ)は商品の価値を伝えるもの

長年、「化粧函」と呼ばれる函を製造してきた当社は個人経営の洋菓子店などが顧客の中心である。中に入る製品を際立たせるため、シンプルだが質感の良い紙を使用した紙器容器が多い。また、小ロットの既製在庫品に顧客のロゴを箔押しする等、セミオリジナル化出来ることも顧客から支持される要因の一つだ。商品・製品単体では伝えきれない素晴らしさやこだわりのポイントを捉えそれを購入者・消費者まで伝えることが函の役割でもある。

「贈答用で使用される場合に購入する人と貰った人がその商品・製品の価値を共有してもらえたら嬉しいです」(竹前氏)。



オートン



製品に箔押しした見本

試作から販売までの一貫体制

社内では、30 歳～ 50 歳代の社員が主体となって、函の企画から制作、配送までの一貫体制を敷いている。企画時は、プロッター（見本作成機）を使用し、函の形状や細かな使

い勝手を調整したものを顧客に提案する。顧客の用途や、それを誰が組立てるのか、保管場所等も考慮に入れ、顧客の要望に合わせた函を一緒に作り上げていく。顧客の商品が売れることが函の売上に繋がるため、単発で売っておしまいでなく、継続的に売れるようなサポートをさらに充実させたいと考えている。

そのような中、2022 年、中小企業診断士の資格を取得。今まで以上に、販売に関する支援を強化し顧客利益につながる業務に力を注いでいる。

函(ハコ)の意味・価値の周知のために

9 年程前から、MACC プロジェクト発の「あすめし会」に参画し、地域や異業種交流・産学連携にも目を向け、最近では平成 28 年度に荒川区と山形大学が連携して行った「金融機関目利き力向上研修」の対象企業になった。

また、東京紙器工業組合の荒川支部理事として、廃業の進む紙器業界において、業界の活性化や企業同士の連携が図れないか、といった課題にも取り組んでいる。

“思いが伝わる”函作り！

『平和の函（ハコ）』は、強く、頑丈で、美しい。「函は、商品そのものでは伝わらないものに、説得力やステータスを与えます。よく“すぐ捨てられるものだ”と言われますが、存在する期間が長かろうが短かろうが、消耗品だろうが耐久材だろうが、その職務（＝モノに与えられた使命）を全う出来るなら、その価値を軽視するべきではないと思います。」商品・製品が購入され、消費者へ届くまでを考えた函を平和商事は作り続けていきます。



④主な保有設備

- ・洋紙打ち抜き機(オートン/ミニオートン/スーパープレス)
- ・グルアー（糊貼り機）、箔押し機他

46

出会いを広げ、暮らしに彩りを添えるお手伝い

株式会社 堀澄

(クリスタルアート) TEL.03-3801-2181 FAX.03-3801-2180

<https://crystal-art.com/>(Go-縁アニモ) TEL.080-2130-5729 <https://animo-tokyo.com/>

代表者：代表取締役 堀田 真澄、堀田 佳澄 創業年：昭和27年
 所在地：〒116-0003 荒川区南千住2-22-1 業種：装飾・雑貨の製造・小売業、宿泊業
 資本金：300万円 事業内容：オリジナル装飾品及び服飾雑貨の製造・販売、
 宿泊・レンタルスペース運営、家具修理・販売
 従業員：3人

堀田 佳澄
代表取締役堀田 澄子
監査役堀田 真澄
代表取締役

地域・社会に新風を吹き込む経営スタイル

平成25年に長年営んできた家具卸売業から撤退し、商号(堀澄)はそのままで業態転換。「装飾品・服飾雑貨の製造・販売」「レンタルスペース事業」「エステ事業」という業態の異なる3つの事業を2代目社長である堀田澄子氏とその娘の3人で開始した。

令和3年に事業承継を行い、創業者の堀田澄雄氏の孫である、姉の真澄氏と妹の佳澄氏が三代目の代表取締役に就任後、得意な時代の先読み能力を活かし、令和6年には装飾品・服飾雑貨の製造・販売はそのまま、レンタルスペース事業を発展させて宿泊業に参入、これら2つの事業に絞った。また、長年の家具卸売の経験から、家具の修理や質の良い家具販売も継続している。

世界に一つの作品づくり！工房「クリスタルアート」

作家兼デザイナーの真澄氏が起ち上げた1階にある「クリスタルアート」は、“ファッションとアートの融合”をコンセプトにした“創作工芸”のお店。動植物や幾何学模様をあしらったオリジナルのデザイン性の高い手作りの装飾品や服飾雑貨を工房で製作・販売している。その作品は、身につけるアートが主体で、ネックレスや指輪、イヤリングなどのジュエリーアクセサリ、スカーフ類やバッグ等の服飾雑貨をはじめ、アートボトル、愛犬・愛猫のチャーム、パンダをモチーフにした小物類など、一部を除き「世界に一つしかない」一品ものばかり。

工房での販売をはじめ、都内のセレクトショップで販売されるとともに、専門展への出展や、日本橋三越本店、伊勢丹新宿本店、松屋銀座店、大丸東京店、阪急うめだ本店等での展示販売を通じ、徐々に知名度を高めている。現在、ネット・オンラインショップでの販売にも力を入れている。



「クリスタルアート」の作品

コンセプトの違う3つの「アニモ」

アニモは佳澄氏が担当。建物の南・右側の入口を入り階段を4階まで登ると、「Go-縁アニモ：AOI & AKANE」の受付がある。ここには、くつろぎのスペースとトイレが設置され、また、扉の外の屋上テラスには、3階の宿泊者専用のピザ窯とバーベキューセットが置かれ、本格的な料理も可能。

3階には、グループ貸専用の部屋「AOI & AKANE」がある。「AOI」にはキングベッド1台、シングルベッド1台、2階ベッド1台を設置の最大6名、「AKANE」にはキングベッド1台とトイレを設置の最大2名が宿泊可能である。共用部にはトイレやバスタブ付きのシャワールームが備わっている。

北側1階には、もう一つの宿泊用部屋「Go-縁アニモ：HANARE」があり、ダブルベッド1台とシングルベッド1台、シャワー、トイレが設置され、最大2名宿泊可能。世界中で利用されている宿泊サービス「Airbnb(エアビーアンドビー)」からの予約が大半で、静かな立地もあり、インバウンド客に好評だ。

各部屋には、冷蔵庫、食器、電子レンジ、炊飯器、カセットコンロ、コーヒーマーカー等が用意されている。



3階の「AOI」

3階の「AKANE」

1階の「HANARE」

1階の南右側の入口を入った左側にある「ぎやらり〜アニモ」は、各種教室・ワークショップ・体験会、個展・グループ展・発表会、併設キッチンを使用したこだわりのお食事会・懇親パーティ等の他、荒川区主催のコロバン体操に利用されている。



1階の「ぎやらり〜アニモ」

2つの異なる業態で、人との交流を広げる事業を推進



世界に一つという独創的デザインの装飾品を創作する「工房」、人や文化との出会いの場となる「アニモ」という2つの事業を一体運営するユニークな経営スタイルを定着させ、人とのつながりを広げる事業を推進している。

女性活躍社会や高齢化社会を念頭に、伝統文化、地域産業に目を向けた多彩な企画と多様なコラボレーションを事業に取り込み、心豊かな暮らしをサポートすることで社会・地域に貢献する考え。



株式会社増野製作所

TEL.03-3891-3111 FAX.03-3806-7445
URL <http://www.masuno.co.jp/>



増野 繁
代表取締役

代表者：代表取締役 増野 繁
所在地：〒116-0002 荒川区荒川2-1-5
資本金：1億円
従業員：30人

創業年：大正2年
業種：一般機械器具製造
事業内容：一般産業機械・装置製造、産業機械装置・粉体関連装置・環境関連機械の製造他

粉の未来をつなぐベストパートナー

大正2年にセメント製造を行う粉体工業用機械の国産化を目的に創業し、化学機械や製鉄機械の製作にも取り組んで参りました。昭和6年には石炭ガス発生炉の開発および国産化にも成功しました。

その後は、破碎機、粉碎機、分級機、篩分機、加熱・乾燥・冷却装置、化学・窯業・鉄鋼用機械設備、環境保護関連機械などを扱い、セメント、化学、窯業、鉄鋼など基礎産業を主な需要業界として発展してきました。

近年は、既存製品に加え新分野の粉体（食品、薬品、新素材関連等）のニーズにもマッチする新製品の研究および開発に傾注し、新たな微粉碎システムの販売に力を入れています。また、販売方法についてもホームページやイプロス等のポータルサイトの活用を推進しています。



MCM-5 ニューシクロマイクロマット



AHM-1206 スイングハンマミル

世界的視野で技術開発を進めていく

今後は、更なる技術力の向上に取り組んで参ります。顧客からのニーズに応じて研究開発を行う現状の体制に加え、自らよい製品を提案していく体制を整えていく方針であり、さらに独自技術による製品の開発をこれからも進めていくためにもその実現に技術の向上が欠かせません。

また、荒川区の補助制度を活用して展示会（国際粉体工業展等）へ定期的に出展している他、荒川区が主催する経営塾に参加したことで経営革新計画の承認を取得するなど、荒川区とも連携を取りながら、新たな経営の展開に取り組んでいます。

独自技術製品を開発し、 社会に役立つ製品を提供する



破碎・粉碎・分級・篩分を中核とする粉体工業用機械の開発製造を主軸に、化学産業をはじめ一般産業機械装置、環境保護関連機械、廃棄物処理システム等の開発製造を得意としています。

「社会に役立つよい製品を」を合言葉に、オーダーメイドでの製品造りに取り組み、多くの経験と技術を積み上げています。設計図面に表れないノウハウ的な加工・組立・調整などの作業を製造工程において重要な要素と考え、技術部門での研究開発に加えて工場での技術力を高めています。

回主な認証・実績等

- ・平成19年 東京都中小企業経営革新計画承認
- ・平成22年 無機マテリアル学会から表彰
- ・平成23年 一般社団法人日本粉体工業技術協会から表彰
- ・平成28年 荒川区環境区民大賞受賞
- ・令和5年 荒川区老舗事業所功労表彰

MKK 松田金型工業株式会社

TEL.03-3800-3531 FAX.03-3800-3539
URL <https://www.matsuda-kanagata.co.jp/>

代表者：代表取締役 松田 雄一
所在地：〒116-0011 荒川区西尾久5-19-1
資本金：1,000万円
従業員：10人

創業年：昭和10年
業種：金属加工機械製造業
事業内容：プラスチック成形用金型の設計・製作



松田 雄一
代表取締役

技術開発を刻む社歴と体制

昭和10年にベークライトの金型製造で創業。この頃は、まだ金型メーカーの知名度は低いものの、顧客から製品の図面を渡されると、型の製図作業や図面作成を金型メーカーに委ねられ、手書きでこの作業を行う時代で、この能力が金型の精度を左右する重要な過程だった。以降20年ごとに、「大量生産の基盤拡大」、「需要増加による合理化展開」、「激動時代の加工技術の進化」、「新産業の創生と構造改革」というように時代の流れに応じて進化を遂げ、プラスチック用金型に特化して専門技術を磨き、「他社にはできない金型づくり」を実践し、産業用部品やIT部品、自動車用部品（内装品・エンブレム）などの高度で多種多様な金型を作り続けてきた。その数は2,000種類を優に超える。

他社に先駆けて社内に3次元CAD/CAMを駆使した企画・設計体制を整え、本社工場に高速マシニングセンターや放電加工機、NC機など最新設備を導入して、技術の高度化に励み、顧客ニーズに応える製品づくりを行っている。

反響を呼ぶ！「ターボファン一体成形用金型」

接着でくっつけたプラスチック製シロッコファンが海外で多用されていた平成15年頃、その接着が取れる問題が多発し、顧客企業から「一体成形で作れないか」という相談に対し、難しいからと断りを入れたにも関わらず何度も要請されたことがきっかけで、金型の構造体の研究に着手。自社努力で課題をクリアして一体成形用金型を開発した。

さらにMACCコーディネータの支援を受け、戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン事業）に採択されると、高機能ターボファン成形用金型の開発を開始した。

高機能をもたらすターボファンは、複雑形状が求められ、成形時に成形品から金型を離型させる技術が非常に難しく、従来は2つの金型を必要としたが、当社では油圧シリンダーを活用して放射状にスライドする方式を採用することで、複雑形状で羽の枚数が多い高機能ターボファンを一体成形する金型を生み出した。

その後もイノベーションを図り、従来にないスライド型構造を開発し、ギアドモーターを使用し、射出成形機内で金型の離型時にスライドが多次元の移動をする、多段階スライドを駆使した金型が誕生した。この金型は、生産性の飛躍的向上をもたらし、成形品である高機能ターボファンは、高風圧・高風量が得られるうえ、小型化、消音化でき、省エネ効果も高いため、空調機、自動車、パソコン、家電製品、農業器具など様々な製品に組み込まれている。

イノベーションで、プラスチック用金型の新領域を拓く

区がMACCプロジェクトを推進し、平成18年のスタート時から参画。率先して産学官連携に取り組み、平成22年に東京都立大学（旧 首都大学東京）・健康福祉学部の伊藤祐子准教授と共同で、発達障がい児の発達を促す遊具「トゥインクリンク」を開発。現在も全国の障がい者施設や個人から注文が届く。

金型の道を歩んで88年。使用目的によりその構造やサイズも変わる上、年々複雑形状化した金型が求められ、顧客ニーズを満たすべく、各種各様の手法を取り入れながら、積み重ねた経験と技術を活かし、業界をリードする金型づくりに日夜挑戦し続けている。

知財戦略にも力を入れ、国内はもとより、米国やアジア諸国の特許も取得し、発明の保護を図っている。



展示会で新製品・新技術をアピール！



高機能ターボファンの金型

法人化60周年超のアットホームで一致団結した社風



- 士気を奮い立たせるために社内でも共有している言葉
- クライアントやユーザーからの企画・創案に積極的に対応すること
- 困窮案件に遭遇した時は逃げ済み英知を絞り出すこと
- 受注を待つだけでなく、現状より一歩前に出ることが必須である
- 自己の職業以外からヒントを得たときは自己の行為に取り入れること
- 在来習慣から避けたいときほど、新しいものが創出されることがよくある

◎主な保有設備

高速マシニングセンター、放電加工機、ワイヤーカット機、NCフライス盤など工作機械、CAD/CAM など多数

◎主な認証・実績等

- ・「第25回素形材産業技術表彰」経済産業省製造産業局長賞受賞
- ・特許：「樹脂製ファンの製造装置」（日本、米国、中国、タイ）
- ・「第3回荒川区新製品・新技術大賞」最優秀賞受賞 他



株式会社マツダ自転車工場

TEL.03-5692-6531 FAX.03-5692-6532
URL <https://www.level-cycle.com/>

代表者：代表取締役 松田 裕道

所在地：〒116-0012 荒川区東尾久1-2-4

資本金：1,000万円

従業員：4人

創業年：昭和26年

業種：自転車製造業

事業内容：オーダーメイド自転車の製造・販売



松田 裕道
代表取締役

多様な自転車を作製し新市場掘り起こす

競輪選手向けプロ仕様の自転車づくりで定評がある。各選手一人ひとりのリクエストにきめ細かく対応するフルオーダーメイドで作り上げている。一方で、同じオーダーメイドでも、共通の土台を持つイージーオーダーやセミオーダーといったタイプの自転車も作製している。膝の具合が悪くなり、普通の自転車には乗れなくなった人向けの特殊仕様の自転車がその代表例。あくまでオーダーメイドにこだわりながら、フル、イージー、セミと、オーダー（注文）の度合いが異なる多様な自転車を世に出して、令和時代の自転車新市場を掘り起こしている。

昭和26年創業の同社は、もともとは官公庁などに実用自転車を提供していた。しかし、自転車の製造拠点が日本国内から中国など海外に移り、低コスト・低価格化が進むなかで、生き残りの手段として、実用自転車からオーダーメイド型へと大きく舵を切る。

具体的には、日本自転車振興会の認定を受け、競輪選手のための自転車づくりに乗り出す。昭和55年のことで、以後、昭和、平成、令和の3時代にわたって、競輪用自転車が同社を支える屋台骨となっている。

変形性膝関節症でもこげる自転車を作製

オーダー自転車の製造は、ほぼ全部が手作業の世界。特にフレーム部分をどう創るかが重要であり、フレームビルダーと呼ばれるその道のプロの職人技が欠かせない。その点、同社では、荒川マイスター&東京マイスターの松田志行会長（前代表取締役）をはじめとするプロたちが職人技をいかんなく発揮して、独自ブランド「LEVEL」を確立している。

ただ、屋台骨の競輪用自転車について、松田裕道代表取締役は「安定して推移してはいるが、大きく伸びることはない」と冷静に見ている。そこで、かねてより競輪以外のオーダーメイド自転車に力を入れている。その一つが前述の、膝が不具合な人向けの自転車となる。

通常、自転車をこぐには膝を110度曲げる必要がある。しかし、変形性膝関節症などを患うと手術をし

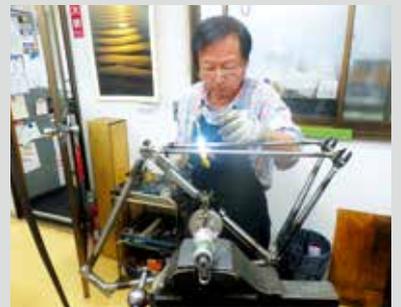
ても90度程度しか曲がらなくなる。そんな人向けに90度でもこげる自転車を開発し、各ユーザーの体格に合わせたイージーオーダーの形で提供している。高齢化の進捗から膝を患う人の総数は日本国内で700万～800万人とも言われており、潜在市場は極めて大きい。

また、自転車愛好家向けにセミオーダー自転車「CITY LINER」も作製してきている。「CITY LINER」には長年のファンが多く、タレントのなぎら健吾さんもファンの一人だという。

フル、イージー、セミの各オーダー自転車を今後も創り続ける同社だが「これまでの創り方はどれも同じようなもの。これからは、それぞれに合った創り方を見つけ出さなければと思っている」（松田代表取締役）と、新たな手法を編み出して、自転車市場をさらに深掘りしていく。

フレームのろう付け技術がキモ

少数精鋭。マイスター松田以下、腕っさきの職人が自転車工房で日々、図面とにらめっこしながらオーダーメイドの自転車づくりに励んでいる。一連の製作工程の中で、特に重要なのがフレームのパイプ同士を接合するろう付け作業。厚さ1.0mm以下の肉薄パイプ同士をつなぐ接合面に、トーチの火で加熱したろうを接合部に均一に流す作業は、ろうが溶けだす温度の見極めと、熱の影響によるパイプのゆがみを計算しながら行わなければならない。フレームの精度と強度、性能を引き出すための、長年の経験と勘が伴う熟練作業だ。



フレームのろう付けをするマイスター松田会長



サイクルショップも運営

◎主な認証・実績等

- ・平成7、8年度 ハンドメイドバイシクルコンテスト最優秀賞受賞
- ・平成22年 ミラノサローネ出展
- ・平成12年 荒川マイスター認定
- ・平成15年 東京マイスター認定
- ・2013北米ハンドメイドバイシクルショー (NAHBS) 最優秀ピストバイク賞
- ・会長賞受賞

50

熟練の職人達で作る優しい『和のあかり』 江戸時代の行燈から最新のLED照明も製作

都行燈株式会社

miyako andon

TEL.03-3803-1755 FAX.03-3803-1756
URL <https://www.miyako-andon.com/>

代表者：代表取締役 木崎 雅徳
所在地：〒116-0014 荒川区東日暮里4-26-10
資本金：1,000万円
従業員：5人

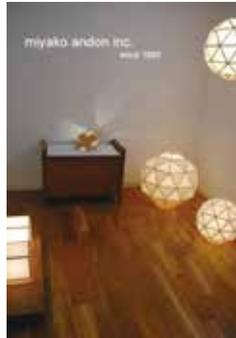
創業年：明治20年代
業種：照明器具製造販売業
事業内容：行燈・各種和風照明器具
企画製造販売



木崎 貴幸
会長

こだわりに応える

創業は明治20年代。当初は、日本の組子技術をあしらった輸出向け額縁を製造していた。和風照明器具作りを始めたのは、昭和初期、2代目の時である。その後、3代目の時に和風照明器具販売の販路を拡大し、4代目で現会長の木崎貴幸氏に経営が引き継がれてからは、弟の木崎雅徳代表取締役とともに、著名な建築家や若手建築家などの和風照明器具製作に力を注ぎ、宮内庁や数寄屋の料亭・旅館へも納入されている。



イメージポスター

特注品にも対応しているが、要求仕様の照明をそのまま作るのではなく、顧客へより良い企画提案を行う照明アドバイザーとしての側面も持っている。商談を行うショールームと工房を近接配置していることでデザイン詳細、材料、工法などの検討を円滑に行なえることが適切なアドバイスに繋がっている。

自社ブランドを広く発信する

4代目に経営が引き継がれてからは、ブランド戦略を進め、認知度の向上を図っている。例えば、数年前にショールームを設立し、カタログではわからない製品の良さを広くアピールしている。また、ワークショップでは、多くの人に行燈作りを実体験する機会を提供している。その結果テレビをはじめとするメディアにも多数とりあげられ知名度は向上しつつある。

今後も、自社ブランドの更なる認知度向上に努め、そのための取り組みとして、今までにない新製品を提案していくという。



本社兼ショールーム 外観

デザイン性を極めた和風照明器具づくり



当社の強みは、なによりも、デザイン提案力である。そもそも、和風照明の代表である行燈とは、室町時代に禅僧が使っていた携帯用の照明器具が一般に広まったものといえられている。それを、現代の感性を交えながら、一種の美術品といえるまでに昇華させたものが当社の行燈をはじめとする和風照明器具である。基本は、手漉きの和紙を用いるが、それに拘ることはなく、デザインのためには、機械漉きの和紙や、和紙調のアクリル版も用いる。そうして生まれた製品は、古風なものからモダンなものまで幅広いデザインをもつ。また、デザインを現実のものにするための、技術力も確かなものであり、大手照明器具メーカーからのOEM生産も請け負う。仕事をきっちりと行い妥協しないことを信条に、手作りの和風照明器具作り一筋に何代も取り組み続け、こだわりのあるユーザーから支持を得ている。



主力製品

◎主な認証・実績等

・第6回東京の伝統的工芸品チャレンジ大賞 奨励賞・東宮御所、浅草ビューホテル、帝国ホテル、那須ロイヤルセンター、新橋演舞場、妙心寺、石川県庁、富士宮市役所、杉並区役所、志賀町役場などへ製作協力



株式会社メディア・グローブ

TEL.03-6806-8384 FAX.03-6806-8394

URL <https://mediaglobe.jp/>

[ソフミール公式サイト：<https://yawacan.mediaglobe.jp>] [介護通販サイト（健康ごはんのヘルスディッシュ）：<https://healthdish.jp>]

代表者：代表取締役 瀧野 芳美

所在地：〒116-0002 荒川区7-22-3-903

資本金：1,000万円

従業員：3人

創業年：平成16年

業種：システム開発、介護食品製造

事業内容：ホームページの企画/制作/管理/運用、データベース連携サイトシステム開発、介護食品提供サービス



瀧野 芳美
代表取締役

経営安定化のための新規事業

平成16年3月にシステム・ホームページ開発・制作運用会社として創業。

顧客の業種形態に応じたカスタマイズや、自社運用のシステムでの不便な点の解消を踏まえた顧客への導入支援で事業を発展させてきた。

しかし、システム開発は受注産業のため、安定した経営には少し心許なかった。そこで経営の安定化を図るため、EC運営のノウハウを生かして「やわらか食」を中心とした「健康ごはんのヘルスディッシュ (<https://healthdish.jp>)」等の介護食通販事業へ参入した。

現在の各事業の比率はシステム開発6に対して介護食提供サービスが4の割合。



踏まえ長期保存可能なやわらかい食事の開発に着手した。

瀧野氏は「今回の繋がりの中で、MACC プロジェクト・各食品技術センターの方々と、どれか一つ欠けても、この商品を世に送り出す事はできなかった」と語る。

現在は、缶詰メーカーに製造を委託しているが、近い将来、自社工場で「缶詰向けやわらか素材の製造」を目指し、販路を拡大しつつある。



ソフミール やわらか缶詰

噛む力や、飲み込む力が弱くなった高齢者向け介護食は多数存在するが、「ミキサー食」や「ムース食」になってしまい、「食を楽しむ」ことが出来ず、食事をしなくなり低栄養に陥るケースが散見されている。

これでは、介護される側もする側も、負担が増えてしまうという観点から、広島県立総合技術研究所食品工業技術センターの特許技術「凍結含浸法」を使った、「ソフミール やわらか缶詰」の開発に乗り出した。

平成27年から開発に着手したが、①缶詰にする際の圧力や高熱で食材の形が保てない、②長期保存時に形が維持できない、③移動の際に揺れで崩れてしまうといった問題が多々生じ頓挫をしかけた。そんな時、門をたたいたのがMACC プロジェクト。コーディネータの支援の元、東京都立産業技術研究センターの食品技術センターにも協力を仰ぎ、最終的には「凍結含浸法」を開発した「広島県立総合技術研究所食品工業技術センター」の協力を得ることとなり、素材の形を保ちつつ、歯ぐきでつぶせる柔らかさを出すことに成功した。

更に東日本大震災の被災者より寄せられた声で、実際の災害現場では避難所に逃げても高齢者や障害者に向けた食事が無いという事を知り、これから益々増える高齢者と必ず来る大災害に



柔軟な対応ができる体制づくり



システム開発で培ってきたノウハウと、柔軟性のある開発力でジャンルを絞らず、あらゆることをやってきたことで、組み合わせなど柔軟に対応できる体制が整っていることが強み。

介護サービスの必要性が高まる一方で、深刻な介護人材不足が懸念される今だからこそ、「介護食で介護する側される側の負担を少しでも和らげたい！」の思いが、困難を乗り越える原動力となり商品化へと導いてきた。

また、「ソフミール やわらか缶詰」が、日刊工業新聞や高齢者住宅新聞へ掲載された事や、各賞の受賞等も開発意欲に拍車をかける。介護食のみならず、非常時の備蓄品としての販路も期待できる。

今後も、システムで介護者の負担軽減をする事を目標とし、ゆくゆくは、売上の一部を社会貢献に繋げられないかと、瀧野氏は考える。

◎主な認証・実績等

- ・【ソフミール やわらか缶詰】
第6回荒川区新製品・新技術大賞 入賞
(一社)防災安全協会「SDGs 防災食大賞 2023」日本食育学会賞

◎メディア紹介

- ・【ソフミール やわらか缶詰】
令和5年4月6日 NHK「あしたが変わるトリセツショー」
「缶詰の達人大集結！超時短でプロの味」
- ・令和4年9月28日 高齢者住宅新聞 14面「やわらか非常食開発」
- ・令和4年11月17日 日刊工業新聞 26面「file いい話」

MACC会員名簿

No	掲載ページ	事業所名	業種
1	26	(株)アートランド	アンチモニー及びびす合金製造業
2	27	秋元ステンレス工業(株)	厨房機器&SOS加工
3	28	旭工業(株)	金属加工業
4	29	旭モールディング(株)	プラスチック製品製造業
5	30	(株)東製作所	精密板金加工業
6		(株)アポロ製作所	印刷加工業
7		荒川区中小企業経営協会	コンサルタント業
8	31	(株)荒川樹脂	医療用プラスチック製品製造業
9	32	石川金網(株)	金属製品加工業
10		(有)井上製作所	定規、プラスチック製品等製造業
11		エースライオン(株)	電気機械器具製造業
12		(株)エレガンス	服地販売
13		(株)大原計機製作所	計量器・測定器・分析機器・試験機製造業
14		尾竹橋工業(株)	金属プレス加工業
15	33	オリエンタルエン지니어リング(株)	金属熱処理関連製造販売業
16	34	(有)オリオン機工	金属加工業
17	35	(株)折原製作所	工業用プラスチック製品製造業
18	36	金澤鞆製	鞆製造業
19		金森製袋紙工(株)	紙器製造業
20	37	カラーワークス(株)	デザイン業
21		(株)キャメル鉛筆製作所	各種筆記具製造販売
22	38	(有)桐山製作所	ガラス機器製造業
23		(株)工藤工務店	建設業
24	39	(株)熊乃前鋼材	金属加工業
25		(株)国立	各種電線の加工・販売、スピーカーの企画・販売業
26		(有)ケアプランニング	高齢者福祉サービス業
27		(株)シーキューブ	情報通信サービス業
28	40	(株)東風谷製作所	金属加工部品製造業
29	41	(株)笹沼製作所	金属加工業
30		坂上電気工業所	電気工事業
31		(株)サンウェイ	引越運送業
32		三恵金型製作所	プレス用金型製作及び精密部品加工業
33		三宏印刷(株)	印刷業
34		(有)三成美術印刷所	オフセット印刷業
35	42	(株)サンライズ	印刷業
36	43	ジェーシー(株)	その他の繊維製品製造業 他
37	44	(株)四釜製作所	金属加工製造業
38	45	志幸技研工業(株)	電気工事業
39		城北信用金庫ソリューション事業部	金融業
40		巣鴨信用金庫	金融業
41	46	(有)スガワラ印刷	印刷業
42		(株)鈴木製作所	機械器具製造業
43	47	(株)ストロング	輸入販売業(スリッパ等)
44	48	精電舎電子工業(株)	精密機器製造業
45		(有)セクションメイツ	音楽演奏業
46	49	壮光舎印刷(株)	印刷業
47		(株)総合プラスチック	プラスチック射出成形加工業
48		(株)ソウブン・ドットコム	印刷業

No	掲載ページ	事業所名	業種
49	50	太陽興業(株)	ゴム製品製造業
50	51	大東工業(株)	産業用機械製造業
51		(株)大洋技研	理化学機器、産業用機械製造業
52	52	(株)タカハシ	ゴム製品製造業
53		高六商事(株)	合成樹脂原料製造販売業
54		滝田技研(株)	システム機器・設備製造業
55	53	(有)武井工業所	板金加工業
56	54	(有)中央バフ製作所	バフ研磨ホイル製造業
57	55	帝国インキ製造(株)	化学工業品製造販売業
58		(株)テクノキャッチ	防災・福祉用品企画、販売
59	56	(株)寺製作所	設備機器製造業
60	57	電光工業(株)	モータ始動器製造販売業
61		東京中小企業家同友会	経営者による異業種工業団体
62	58	(株)東京ベル製作所	金属製品製造業
63	59	トーコーアドサービス(株)	広告代理店、デザイン・Web製作
64		(株)藤和刷子製作所	ブラシ製造業
65		(有)徳栄商事	記念品製造販売業
66	60	(株)トネ製作所	金属加工業
67	61	(株)トミナガ	印刷業
68	62	ナノダックス(株)	工業用樹脂製造・販売
69		design studio nayuta	デザイン業
70	63	日建塗装工業(株)	その他の金属表面処理業
71	64	(株)日興エポナイト製造所	ゴム製品製造業
72		日本情報流通(株)	映像制作業
73		(株)日本フーズセンター	食品・調理機器等製造販売業
74	65	(株)ネットミル	通信サービス業
75	66	能田電気工業(株)	電気工事業
76	67	(株)長谷川ジャバラ	ジャバラ製造業
77		(株)白興	福祉用具貸与・販売業
78	68	花嫁わた(株)	寝装具製造販売業
79		(株)ハラサワ	金属加工業
80	69	(有)広沢プラスチック工業	プラスチック製品製造業
81		(株)ファースト・プランニング	物流業
82	70	平和商事(株)	紙器製造業
83		細淵電球(株)	電球・電気照明器具製造業
84	71	(株)堀澄	家具・インテリア開発販売業
85		(有)ボン菓子機販売	製菓機械販売業
86		(株)マイル	卸売業・小売業(無店舗販売)
87	72	(株)増野製作所	設備機器製造業
88	73	松田金型工業(株)	金属加工機械製造業
89	74	(株)マツダ自転車工場	自転車製造業
90		(株)マルフジ製作所	電子デバイス製造業
91	75	都行燈(株)	照明器具製造販売業
92		ミライ(株)	サービス業
93	76	(株)メディア・グローブ	システム開発・小売
94		(株)山口熱処理工業所	金属熱処理業
95		(株)山本製鞆	皮革製品製造業
96		(株)ワールド美術校正	印刷業

※業種については、提出頂いたMACC会員申込書やホームページ等を参考に、事務局の責任で記載しています。

MACCプロジェクト専属コーディネータのご紹介

MACC シニアコーディネータ

- ◆**専門分野** 生産管理・生産技術開発・システムデザイン
- ◆**経歴** 神奈川県出身。大学卒業後半導体製造装置メーカーにて生産技術・生産管理に従事、早稲田大学大学院にて技術経営修士修了と同時に経営コンサルタントとしてベンチャー企業・中小企業の経営支援（生産システム構築・生産設備改善・経営革新・新事業開発等）を行う。平成21年度からは荒川区高度特定分野専門家として活躍。平成23年度より現職。令和2年より早稲田大学非常勤講師、日本システムデザイン学会理事
- ◆**活動実績** ベンチャー・中小企業支援、早稲田大学墨田区包括連携、本庄早稲田インキュベーション連携、早稲田大学EDGEプログラム講師
- ◆**メッセージ** 会社で“新しい何か”を始めるためには第一に社長の強いリーダーシップが必要です。企業支援もリーダーシップがあってこそ成就すると考えています。新商品や新技術開発・新ビジネス創出について“事業目的”を中心にアイデアを考え、実行においては“現場重視の技術的な視点”で支援を進めたいと考えています。



牛山 博文
(うしやま ひろふみ)

MACC ミドルコーディネータ

- ◆**専門分野** 新商品・新事業創出 (IM)、人事労務・人材開発 (HR)、販路開拓 (MP)
- ◆**経歴** 三重県出身。大学卒業後、大手家電メーカー、大手シンクタンク、コンサルタント会社を経てインキュベーションマネージャー業務に従事。(独)中小企業基盤整備機構のインキュベーション施設及び大学のキャンパスインキュベーション施設に入居する企業支援を行う。平成21年より現職。社会保険労務士。JBIA認定シニアIM。中小企業の経営支援（新商品・新事業開発支援、経営革新計画作成支援、経営計画・事業計画作成支援、助成金・補助金申請支援、販路開拓支援、会社の規程類作成・整備支援、従業員の教育支援等）、大学発ベンチャー企業支援、本庄早稲田インキュベーション支援、子どもアントレプレナー教育。
- ◆**活動実績** 中小企業の経営支援（新商品・新事業開発支援、経営革新計画作成支援、経営計画・事業計画作成支援、助成金・補助金申請支援、販路開拓支援、会社の規程類作成・整備支援、従業員の教育支援等）、大学発ベンチャー企業支援、本庄早稲田インキュベーション支援、子どもアントレプレナー教育。
- ◆**メッセージ** 優れた商品が売れず、「今はモノが売れない時代」とよく言われますが、その中でもヒット商品は生まれています。まずは、疑問に思うこと、お悩みごとなど、どんな些細なことでも構いません。どうぞお気軽にお声がけください。御社の技術力を活かした新商品・新事業開発が実現すべく、精一杯伴走させていただきます。引き続きよろしくお願いいたします。



中村 裕美
(なかむら ひろみ)

MACC ミドルコーディネータ

- ◆**専門分野** 産学連携、機械工学
- ◆**経歴** 静岡県出身。大学卒業後、総合私立大学の産学連携部局にて医・理・工学部における公官庁・民間等からの受託・共同研究に関わる支援・管理、および「大学での研究」を軸とした知的財産、公的研究資金の獲得などの支援を行う。平成23年度より山形大学工学部荒川サテライトにて首都圏と山形を結ぶコーディネータとして活躍する一方、神奈川県において地域農業の支援など幅広く活動。平成26年より現職を兼務。
- ◆**活動実績** 産学連携を活用した中小企業の技術課題の解決支援、公的研究資金等の申請から採択後のフォロー、技術移転までの業務等。
- ◆**メッセージ** 大学の研究シーズ活用から技術課題のご相談まで、皆様に大学間ネットワークを有効活用いただけるよう、これからも積極的にコーディネートさせていただきます。大学の活用方法にはちょっとしたコツがありますので、お気軽にご相談ください！どうぞよろしくお願いいたします。



田口 英生
(たぐち ひでお)

MACC コーディネータ

- ◆**専門分野** 経営理念やビジョン構築、新商品と新事業開発、マーケティングと営業力強化、社員育成と目標管理をベースとする人事システムと社員のキャリア構築、健康経営アドバイス、SDGsの経営への実装、BCP構築と推進のコンサルティング
- ◆**経歴** ICTメーカーの営業部長やスタッフ部門長を歴任後、熊本の子会社の社長を5年間務めた際に、熊本地震で被災し、BCP（事業継続計画）に取り組んだ。退任後、経営コンサルタント事業を開始し、中小企業のクライアントに対して、上記の専門分野を中心にサステナビリティ経営化に向けた支援を展開すると同時に、上記に関連する研修講師などを務めている。2021年4月より現職。
- ◆**メッセージ** ICTメーカーの子会社（中小企業）の社長時代に遭遇した熊本地震の教訓から、中小企業経営において、社員が健康でモチベーションを維持しながら生産性高く仕事に邁進できる環境を整えることと、今後のニューノーマルやテクノロジーの大変化を含めた環境変化に対応できうる経営を展開する仕組みづくりの支援をいたします。



大宮 政男
(おおみや まさお)



MACCプロジェクト発！！

おくりもの

億り商品



このコーナーでは、販売実績が“億を超えた！”「MACC発新製品・新事業」を紹介します。

おくりもの

是非！皆さんも「明日の億り商品」を目指してください！！



P19：エボナイト万年筆(平成21年度)
株式会社日興エボナイト製造所



P18：立つ之助®「ラブ」・立つ之助®「元氣」
(平成24年度) 有限会社武井工業所



P17：森の鈴®(平成24年度)
株式会社東京ベル製作所



P16：ネットミル(IoT見守りシステム)(平成28年度)
志幸技研工業株式会社



P15：樹脂型ターボファン一体成形用
多段スライド式金型(平成28年度)
松田金型工業株式会社